

- 一 土地廣漠地味極テ瘠薄ニシテ曾テ轉換作付シタル成跡ナク一箇年作付ノ後ハ之ヲ放棄シ再ヒ其地ニ作付シ能ハスト認ムル者
- 二 村民居住ノ部落ヨリ懸隔スル山嶺山腰ニシテ其近傍ニ從來ノ切換畑等絶テナク舊來畑作セシ痕跡ヲ存セス既ニ本年始テ試作スルモ收穫極メテ僅少ニシテ得失相償ハス明年以後ハ自然樹木雜生舊地形ニ復スヘント認ルモノ
- 三 村民居住ノ部落ニ懸隔セサル土地ト雖モ谿水間ノ山村ニシテ斜面ノ急ナル畦畔ニ叢生スル雜木ヲ剪拂ヒ燒拂ヒ又樹木ヲ切倒セシ跡地點々播種スルモ全ク一箇年作ト視認ムルモノ

第三條 從來ノ切換畑ト此際發見ノ試作畑ト交互錯雜シ彼是其地形稍異ナルモノハ地價ニ斟酌ヲ加ヘ切換畑ニ編入スルモノトス

但岩手縣最下等アラキ畑ノ如キ從來ノ切換畑ハ僅々ノ土地ナルニ此際發見ノ試作畑ノ箇所多クシテ其内幾部ハ必スシモ一箇年限ノ畑作トモ確認シ難ク又ハ其地形從來ノ切換畑ヨリハ著ク峻嶮ニシテ一兩年試作ノ後ニ非サレハ切換畑ニ編入シ得ルト否トノ鑑別附キ難キモノハ一年若クハ二箇年ノ鑑別期ヲ附與スルコトアルヘシ

又明治二十一年(未詳)主稅局長ハ地租事務取扱上ニ於ケル注意ニ就キ口演シテ曰ク

- 一 拂下々渡地畦畔廢除等年期ヲ要セス人民ノ情願ニヨリ直ニ一類地トナスモノハ稟書中人民ノ情願云々ト記載スヘシ
- 一 誤謬訂正ヲ要スル稟申書ハ其誤謬ノ事由ヲ詳記スヘシ

- 一 全管計ニ至リ地目名稱及賦除租ノ年ヲ(日ハ區別)區別セサルモノ往々アリテ調理上差支アリ内部ノ名稱地目年限ノ合計ヲ記載セラレタシ
- 一 諸申牒中地價金地租率ヲ乘シ差額ヲ生スルモノハ過不足傍記スヘキ筈ナルニ未タ往々記載漏アリテ檢算上差支アリ必記ヲ要スヘシ
- 一 指令ヲ要スル上申書ニ副書ナキモノアリ成規ノ如ク副書ヲ要ス
- 一 伺届進達ノ後ニ於テ往々誤謬ヲ生シ訂正ヲ請求セラル、コトアリテ事務整理上差支アリ成ヘク注意セラレ當初ヨリ正確ノ調査ヲ遂ケ差出アリタシ
- 一 伺届書中有租地免租地成處分濟ノ後賦除租ノ遷延セシモノ其事由ヲ具セス差出サル、モノアリ調査ニ差支ユ爾來右等ノモノハ必ス其事由ヲ詳記スヘシ
- 一 脫落地編入又ハ下渡地等賦租ニ係ル稟申ハ必ス其事由ヲ詳記スヘシ
- 一 知事ヨリ伺届ノモノヲ下戻又ハ訂正方ヲ收稅長ノ名ヲ以テ申越サル、アリ右ハ知事ノ名ヲ以テセラル、コトニ致シタシ
- 一 地租表附屬増減表中雜科ノ名稱ヲ設ケタルヨリ伺届書中該科目ニ組入ヘキモノヲ單ニ雜科トノミ記載セラル、アリ該伺届ニハ實際ノ稱呼必記スヘシ
- 一 官民地編入ノ誤謬ニ係ルモノ處分方伺ノ節ハ該編入中人民所用ノ有無ヲ必記スヘシ
- 一 伺届書中二郡以上ニ涉ル員數ニ關スルモノハ都テ全管計ヲ記入スヘシ
- 一 荒地及開墾地年季明ニ係ル其當年ノ段別中ニ於テ官地成民有二種地成等ニ組換スヘキ土地ハ毎年六月三十日迄ニ期明段別ノ處分ト共ニ必ス申立アリタシ



一 地租條例取扱心得書附屬様式第五號第八號並ニ開墾廢止原地價据置何届書素地目記載洩ノ向キ往々アリ記載方注意アリタシ

一 開墾年期中官地成免租地成處分中當初開墾ノ目的地目記載洩レ往々アリ記載方注意アリタシ

尋テ同二十二年三月二十九日同省訓令第十五號ヲ以テ更ニ島廳郡役所地租事務取扱手續ヲ規定シ島廳郡役所ニ於ケル地租事務ハ此手續ニ從ヒテ之ヲ取扱ハシメ併セテ府縣廳ニ於テ本項ノ事務ヲ取扱フモノモ亦此手續ニ依ラシム今其全文ヲ掲クレハ左ノ如シ

島廳郡役所地租事務取扱手續

- 第一條 地租ニ關スル願書ハ其筆限字番號地目段別等級地價地租及所有者ヲ土地臺帳及地圖ニ照查シ主任官之ニ檢印シテ府縣廳ニ送付スヘシ
- 第二條 土地ノ分合筆ニ關スル願書ニシテ段別地價ノ分配合併相當ヲ得ル者ハ直ニ之ヲ許可シ土地臺帳及地圖ヲ訂正スヘシ其段別地價ニ増減ヲ生スル者ハ前條ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第三條 前二條ノ場合ニ於テ府縣知事聽許ノ通達ヲ得タルトキハ直ニ土地臺帳地圖及地租臺帳ヲ整理スヘシ
- 第四條 土地所有ノ移轉又ハ質入及其解約ニ係ル登記所ノ通知ヲ得タルトキ並ニ住所氏名異動ノ届出ヲ得タルトキハ直ニ土地臺帳ヲ訂正スヘシ
- 第五條 前條ノ訂正ヲ經タルモノハ納期毎ニ納地者異動表ヲ作り各納期三十日以前之ヲ町村長ニ通知スヘシ其以後納期末日迄ニ係ル者ハ其時々之ヲ通報スヘシ

第六條 土地臺帳ノ謄本ヲ請フ者アルトキハ即日之ヲ交付スヘシ

第七條 地租ノ前年ニ遡リ徵收スヘキ者ハ明治十七年當省第八十九號達地租帳簿様式第一號附屬表ニ準シ追加地租臺帳ヲ調製シ之ニ記入スヘシ

第八條 毎年一月ニ於テ土地臺帳ニ就キ明治十七年當省第八十九號達土地臺帳總計式ニ準シ地目毎ニ係ル段別地價地租ヲ合計シ地租臺帳ニ照合シ明治二十年當省訓令第五十號租稅計算順序附屬第一號一乃至四ノ様式ニ準シ地租表ヲ製シ二月十五日限リ府縣廳ニ報告スヘシ但地租追加ニ係ルモノハ本表ト共ニ報告スヘシ

然ルニ明治二十二年五月八日勅令第六十三號ヲ公布シ明治二十二年七月一日以降各郡市役所所在地ニ府縣稅部出張所ヲ置キ收稅屬ヲシテ國稅事務ヲ取扱ハシムルコト、ス從テ島廳郡役所ニ於ケル地租事務ハ該出張所ニ於テ取扱フヘキコト、ナリシヲ以テ同年六月二十日大藏省訓令第四十五號ヲ發シテ前記ノ島廳郡役所地租事務取扱手續ヲ同年七月以降島廳及收稅部出張所地租事務取扱手續ト改メ尙第一條第二條第三條第八條ヲ更正セリ

第一條 地租ニ關スル願書ハ其筆限字番號地目段別等級地價地租及所有者氏名ヲ土地臺帳及地圖ニ照查シテ主任官之ニ檢印シ處分ノ手續ヲ爲スヘシ

地租ニ關スル定期及臨時檢査ハ既定ノ手續ニ從ヒ收稅部出張所ニ於テ取扱ハシムヘシ但島廳所轄ニ係ルモノハ從前ノ通

第二條 土地ノ分合筆ニ關スル願書ニシテ段別地價ノ分配合併其當ヲ得ル者ハ收稅部出張所ニ於テハ其處分ノ手續ヲ爲シ島廳ニ於テハ直ニ之ヲ許可スヘシ



第三條 前二條ノ指令書ハ市町村長ヲ經テ下付ノ手續ヲ爲シ直ニ土地臺帳地圖及地租臺帳ヲ整理スヘシ

第八條 毎年一月ニ於テ土地臺帳總計上ニ就キ前年中ノ異動ヲ加除シ之ヲ地租臺帳ニ照合シ明治二十年當省訓令第五十號租稅計算整理順序附屬第一號一乃至四ノ様式ニ準シ地租表ヲ調製シ二月十五日限リ府縣知事ニ申報スヘシ但地租追加ニ係ルモノモ本表ト共ニ申報スヘシ

次ニ土地ノ分裂又ハ合併ニ關シテハ明治十九年十一月二十五日大藏省訓令第五十六號ヲ發シ一類地ニシテ荒地成潰地成地目變換其他段別地目ノ異動ニ係ルモノ、一筆中分裂合併又ハ二筆以上合併ヲ爲ス場合ニ於テハ其分裂ニ係ルモノハ殘地ヲモ丈量シ合筆ニ係ルモノハ全部ヲ丈量シテ段別ヲ定メシムヘシトナシ同十九年法律第一號ヲ以テ登記法ヲ公布セラレ其第三十八條ニ於テ彙ニ發布セシ所ノ明治十三年布告第五十二號ヲ廢止シ併セテ同十五年第二號布達ノ土地分割取扱規則ヲモ亦自ラ消滅ニ歸セシメタルヲ以テ翌同二十年四月十一日同省訓令第二十五號ヲ發シ差當リ從來ノ取扱方ヲ參酌シ以テ土地分合筆手續ヲ規定セリ

第一條 一筆ノ土地ヲ分割シ二筆以上ノ土地ヲ合併セントスル者ハ其段別地價及野取圖ヲ添ヘテ戶長役場ヲ經由シ郡役所ヘ届出ヘシ

第二條 戶長ハ第一條ノ届書ヲ受領シタルトキハ與書ヲナスヘシ若シ段別地價ノ分配ニ於テ不適當ト視認ムルコトアルトキハ實地臨檢ノ上其旨ヲ說示シ承服セサルモノハ意見書ヲ作リ郡區役所ヲ經由シ地方廳ヘ具申セシムヘシ

第三條 地方廳ハ第二條ノ具申書ヲ受領シタルトキハ規定ノ手續ニ依リ更ニ實地審査シ適當ノ地價ヲ定メ之ヲ所有者ニ示達セシムヘシ

蓋シ土地分裂竝ニ地價分配ノ方法等ハ固ヨリ地租取締上忽諾ニ付スヘカラサルモノナレハ其時時收稅吏員ヲ派遣シテ精密ニ檢査ヲ爲サシメサル可ラサルモ當時直ニ其希望ヲ達シ難キ場合ナリニ因リ以上ノ如キ手續ヲ規定セシナリ

然ルニ同二十二年十一月十二日司法省ハ裁判所及登記所ニ對シ訓令第十三號ヲ發シ一筆ノ土地ニシテ之ヲ分合シ賣買讓與スルモノハ明治二十年大藏省訓令第二十五號ニ依リ行政廳ノ分合處分ヲ經タル上登記ヲ爲スヘキモノトス但シ本訓令ニ牴觸スル指令内訓ハ之ヲ取消スコトヲ定メ斯クテ一筆ノ土地ヲ分合シ賣買讓與ノ登記ヲナスモノハ土地分合筆取扱手續ニ依リタル後之ヲナスコト、セリ又土地ヲ分合シテ賣買讓與質入ヲナサントスルモノハ其登記請求前ニ二十年訓令第二十五號ノ手續ヲナサシムヘシトシ明治二十二年十一月二十五日大藏省訓令第六十七號ヲ發シ其旨ヲ示セリ

一筆ノ土地ヲ分合シテ賣買讓與質入ヲナサントスルモノハ其登記請求前ニ於テ明治二十年(四)當省訓令第二十五號ノ手續ヲ爲サシムヘシ  
然ルニ後同三十二年四月十日ニ至リ大藏省訓令第二十七號ヲ以テ前述セシ所ノ取扱手續即チ明治十九年同省訓令第五十六號同二十年同省訓令第二十五號及ヒ同二十二年同省訓令六十七號ハ自今之ヲ廢止シタリ蓋シ後ニ述フルカ如ク地租條例施行規則ヲ改正シ且其取扱ニ關シテハ別途ニ訓示スル所アリシヲ以テナリ



二 明治二十二年地租條例改正以後

地租條例ハ地租改正後少時ニシテ制定セラレタルヲ以テ努メテ土地ノ異動ヲ防キ其異動アルモノハ毎項之ヲ訂正スルコト、シ以テ地租ノ低減ナキヲ期セリ然ルニ爾來世運ノ進歩ニ伴ヒ土地ノ變更農事ノ改良ヲ企圖スルモノ漸ク多キヲ加フルニ及ヒ或ハ地價修正ヲ請フノ煩アリ或ハ地租減免ノ制其當ヲ得サルアリ途ニ土地ノ生産力ヲ害シ延テ國家ノ不利益ニ歸セントス此ニ於テ明治二十二年十月大藏省ハ之カ修正案ヲ具シ理由書ヲ付シテ內閣ニ提出セリ即チ左ノ如シ

地租條例中改正法案理由書

地租條例ハ地租改正ノ成績ヲ保維シ兼テ舊法ヲ斟酌シテ地租課免ノ分界ヲ規定セラレタルモノニ之レアリ然ルニ當時此法ノ成ルヤ地租改正ノ大業ヲ經ル幾モナキノ時ニ際シタルヲ以テ成ヘク土地ノ異動ヲ防制シ其異動アルモノハ毎項ニ之ヲ訂正シテ各地地租ノ低減ヲ支持スルヲ務メ期スル處ハ土地ノ歲入ヲシテ減額ナカラシムルノ精神ニ出タレハ勢ヒ法ヲ以テ專ラ檢策ヲ主トスルハ亦其情勢ノ然ルモノト爾來世運漸ク上進シテ土地ノ改良ニ力ムルモノ農事ノ變更ヲ圖ルモノ年々益多キヲ加ヘタリ而シテ此多キヲ加フル者ニ向テ地租條例ノ關係如何ヲ見ルニ地目ヲ變換スルモノハ時々ニ之カ檢査ヲ受ケ地價ノ修正ヲ請フヘキノ煩ヒアリ開墾地荒地ニ向テハ勞費未タ償ハサルニ滿期已ニ至ルノ憂アリ一類地ノ二類地ニ變スルモノハ事由ノ如何ニ拘ラス現租據置ノ苦ミアル等農民ノ希望ヲ害スルコト少ナカラス蓋シ往時ハ惰農ヲ驅テ力農ニ歸セシメ穀作ヲ勸メテ他作ヲ抑ユルノ針路ヲ取リシニヨリ課租上自ラ之カ方略ヲ加フルモノナキニアラサリシモ近來時況一變シ從テ嚮ニ農民ヲ

利シ併シテ國土ヲ利セントスル者今ハ之ヲ害スルノ觀ヲ呈スルニ至レリ唯前敘改租ノ當時ニ於テハ容易ニ之カ變更ヲ爲スニ難キモノアリテ存スルヨリ多少舊法ニ因仍スルナキ能ハスト雖モ今ニシテ之カ改正ヲ爲サ、レハ大ニ土地生産力ノ發達ヲ害シ其極國家ノ不利ヲ生セントス是本條例中改正ヲ要スル所以ナリ

明治二十二年十月

大藏大臣 伯爵 松方正義

內閣總理 大臣 殿

(改正法案略ス)

右大藏省ノ提案ニ基キ明治二十二年十一月廿九日法律第三十號ヲ公布シテ地租條例中ヲ改正シテ同年十二月一日ヨリ之ヲ施行セリ之ノ改正條文ヲ掲クレハ左ノ如シ

法律第三十號 (明治二十二年十一月二十九日)

地租條例中左ノ通改正シ明治二十二年十二月一日ヨリ施行ス

第一條 但書ヲ左ノ如ク改ム

但本條例ニ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價格ヲ謂フ

第三條 第一項第二ヲ左ノ如ク改ム

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地

第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用水路、溜池、堤塘、并溝、鐵道用地、禁伐林及公衆ノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス

第六條 地價ヲ定メ又ハ地價ヲ修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス



第七條 地價ハ地目變換開墾又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタル時ニ非レハ之ヲ修正セス

第十條 地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキハ地方廳ニ届出ヘシ

第十六條 第六項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ据置六年目ニ至リ之ヲ修正ス

第十二條 地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收ス但賃入ノ土地ハ其賃取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ

第十三條 第一項左ノ如ク改ム

有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地、禁伐林ト爲ストキハ其地租ハ許可又ハ命令ヲ受ケタル月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、堤塘、井溝、鐵道用地及公衆ノ用ニ供スル道路ト爲ストキハ其地租ハ工事著手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス

第十四條 地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ届出ヘシ

前項ノ開墾著手ノ年ヨリ十年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス

十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ願出、墾下年期ノ許可ヲ受クヘシ、墾下年期ハ三十年以内トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙ホ十年以内ノ

墾下年期ヲ許可ス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内ノ新開免租年期ヲ許可ス

耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價据置年期ヲ許スルコトアルヘシ

第十七條 削除

第十八條 第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ事業成功ニ至ラサルモノハ更ニ二十年以内ノ繼年期ヲ許可ス

第十九條 墾下年期明、地價据置年期明、新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正ス

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

海嘯ノ爲メ潮水浸入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコトアルヘシ

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ原地價ニ復シ難キモノ及荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依リ處分ス

第二十四條 川成、海成、湖水成ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更ニ二十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變セサルモノハ川、海、湖



ニ歸スルモノトス

第二十五條 但書ヲ左ノ如ク改ム

但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス

第二十六條 第十一條ニ違犯スル者ハ參圓以上參拾圓以下ノ罰金ニ處シ且現地目ニ依リ地價

ヲ定メ其地租ヲ徵收ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス

第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料

ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲サ、ルモノハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額ヲ追徵ス但發覺

ノ日ヨリ三年以前ニ遡ルコトヲ得ス

斯ノ如ク地租條例中ノ大部分ヲ改正シタルヲ以テ隨テ其附屬法ヲモ亦改メサル可カラサルカ故

ニ同年十二月二十九日大藏省令第十九號ヲ公布シテ地租條例施行細則ヲ規定セリ

地租條例施行細則 (明治二十二年十二月二十九日)

第一條 條例第三條中第二類牧場ハ牧畜用ノ土地ニシテ一區域ヲ爲ス土地トス

第二條 條例第四條中免租ノ制限左ノ如シ

公立學校地ハ校舍建設アル一構内ノ土地及授業上ニ必要ナル土地又ハ公立農學校ニ於テ實

驗用ニ供スル五町歩以内ノ土地ニシテ借地ニ非ラサルモノニ限ル鄉村社地ハ鄉村社ノ現境

内ニシテ該社有ノモノニ限ル

禁伐林ハ明治十七年太政官布達第三號ニ據リ樹木斫伐停止ノ土地

鐵道用地ハ明治二十年勅令第十二號私設鐵道條例第八條ノ土地

第三條 條例第五條ノ丈量ヲ爲スニ方リ尺度ノ用法ハ左ノ如シ

一間未滿ノ尺度ハ六尺ノ十分一ヲ分トナシ分ノ十分一ヲ厘ト爲シ丈量ノ際端尺三寸ヨリ五

尺七寸マテ三寸ヲ増ス毎ニ六除ノ數ニ適セサルモノハ之ヲ切捨テ五厘ニ止メ其積算上ニ於

テ一步未滿ヲ切捨ツヘシ但一筆ノ土地ニシテ一步未滿ナラサルモノハ勾位迄ヲ用ユ

市街宅地ノ丈量ハ厘未滿ヲ切捨テ厘位ニ止メ其積算上ニ於テ一勾未滿ヲ切捨テ勾位ニ止ム

第四條 條例第六條ノ丈量ハ所有主之ヲ爲シ地方廳其當否ヲ検査ス但本條ノ場合ニ於テ一筆

ノ土地ヲ分裂シ又ハ二筆以上ノ土地ヲ合併スルトキハ其殘地若クハ全部ヲ丈量シ其二類地

ニ係ルモノハ適宜之ヲ省略スルコトヲ得

第五條 地盤ヲ丈量スルニハ三斜法ヲ用ユ但山林原野等ハ其地形ニ因リ適宜ノ方法ヲ以テ丈

量スルコトヲ得

第六條 田畑ハ畦畔際ヨリ宅地ハ境界線ヨリ丈量ス

第七條 田畑ノ畦畔ニシテ其所有主自由ニ變更スヘキモノハ之ヲ本地ニ量入シ其常ニ變更セ

サルモノハ之ヲ除却シ其步數ヲ外書トス

畑宅地ノ一筆地ノミニ通スル道路及一筆内ニシテ其所有主便宜ニ設クル小徑ノ類ハ總テ本

地ニ量入ス

崖高ノ地其崖脚中ノ鍬入ニ必要ナル土地ハ之ヲ本地ニ量入シ其崖脚ニシテ相當ノ收利アル

モノハ之ヲ本地ニ量入シ若クハ別ニ一筆地トス

田畑宅地内ニ別地目ノ積少ナルモノ孕在スルトキハ之ヲ本地ニ量入シ内書トス



第八條 地價ヲ定メ又ハ修正スヘキ土地ハ所有主ニ於テ近傍類地ト其地力ヲ比較シ又實地ノ情況ニ依リ相當ノ地位等級ヲ調ヘ其願届書ニ記入スルモノトス  
前項ノ場合ニ在テ所有主多數ナルトキハ其所有主ヨリ二名以上總代人ヲ選ミ調理セシムルコトヲ得

前項ノ地價ハ地方廳ニ於テ検査ノ上之ヲ定ム

第九條 條例第十條第二項ノ土地ハ府縣知事ニ於テ豫メ管内ヲ五區域ト爲シ毎年其一區域ヲ検査シ五箇年ヲ以テ全管ヲ檢了スヘシ但地價ハ検査ノ當年ニ於テ修正ス

第十條 條例第十三條第一項末段ノ土地ハ工事ニ著手セシ一筆地限リ其月ヨリ免租ス

第十一條 條例第十六條第二項ノ土地ハ同條第一項届書ニ開墾著手ノ年月ヲ記載スヘシ

第十二條 條例第十六條第三項第四項第五項第六項及第二十條年期ノ長短ハ其事業ノ難易被害ノ深淺ニ因リ府縣知事之ヲ定ム

第十三條 條例第十八條第二十一條第二十三條第二十四條年期ノ長短ハ實地ノ狀況ニ因リ府縣知事之ヲ定ム

第十四條 條例第二十五條第二十六條第二十七條ノ追徴租額ハ犯罪發覺ノ日即チ其月分ヨリ計算ス

第十五條 條例中地方廳ヘ差出スヘキ願届書式ハ府縣知事之ヲ定ム

尙之レト同時ニ同省訓令第七十六號ヲ發シテ地租條例及地租條例施行細則取扱方ニ就テ左ノ如キ心得ヲ示セリ

府 縣 (沖繩縣)

地租條例及地租條例施行細則取扱方左ノ通心得可シ

第一條 條例第三條ノ牧場ニシテ從來數地目ニ分割取調ヘタルモノハ訂正ノ手續ヲ爲サシム可シ但搾乳營業ノ爲メ獸類ヲ飼養スル場所ハ此限ニ在ラス

第二條 條例第十三條ノ禁伐林ニシテ既ニ其命令アルモノハ條例施行ノ月ヨリ其地租ヲ免除ス可シ

第三條 施行細則第四條ノ検査ヲ爲スニ方リ官ノ地圖ト實地トヲ照査シ其齟齬ナキヲ視認メタル上著手スヘシ且丈量検査ニ要スル器械ハ收稅官吏携帶ス可シ

第四條 條例第十條第二項ノ土地ハ其届書ヲ検査區域毎ニ編綴シ置キ其地價修正シタルトキハ市町村限リ變換ノ年度ヲ區分シ六箇年目ヨリ遞次賦租ス可キ地目變換地臺帳ヲ調製シ置クヘシ

第五條 條例第十條第三項ノ變換及條例第十六條第二項ノ開墾届出アルトキハ市町村限各其臺帳ヲ調製シ地價修正ノ年限ヲ記入シ置ク可シ

第六條 條例第十六條第三項十五年以上ノ年期及第六項第十八條第二十條第二項ノ土地ニ對シ年期ヲ附與ス可キモノト視認ムルトキハ其狀況ヲ具シ當省ヘ稟議ス可シ

第七條 地盤ヲ丈量シタルモノハ其願届書ニ丈量野取圖ヲ添付セシムヘシ

第八條 條例第二十四條ノ荒地ニシテ川海湖ニ歸シタル土地アルトキハ地租組換ノ手續ヲ爲ス可シ



第九條 各地目中ニ包含セル現地名稱ハ土地臺帳地目欄內本地目ノ傍ニ記入ス可シ  
 時テ明治二十三年一月十八日主稅局長ハ田畑ニ屬スル畦畔ニ就キ田畑ニ屬スル畦畔ノ儀ハ地租  
 條例第十一條第十三條ニ準據取扱來候慣例ノ處自今畦畔ヲ廢除シタルトキハ其步數ヲ本地ニ最  
 入シ地價ハ其翌年ヨリ訂正シ設置ニ係ルモノハ本地段別ヨリ除却シ地價ハ當年ニ於テ訂正スル  
 コトニ省議決定スル旨ヲ通牒セリ然ルニ後同二十六年二月十六日同局長ハ更ニ同第四五五號ヲ  
 發シテ此ノ取扱ヲ變更シ之ヲ通牒スルコト左ノ如シ

田畑ニ屬スル畦畔ヲ廢除シ若クハ設置ニ係ルモノ、取扱方ハ二十三年一月十八日同第六十二  
 號ヲ以テ通知シ置キシモ畦畔ヲ廢除シ他ノ地目トナスモノ例ヘハ田ノ畦畔ヲ畑宅地トナスノ  
 類ハ廢除ノ翌年ヨリ素地地價ヲ付シ條例第十六條ニ依リ開墾ノ手續ヲナスコトニ省議決定セ  
 シニ付右ニ依リ取扱相成度云々

又地租條例改正ノ結果宅地一區域中ノ林藪等ヲ第二類地ニ變換スルニ當リ其取扱ノ統一ヲ圖ラ  
 シカ爲メ同二十三年二月十二日主稅局長ハ左ノ通牒ヲナセリ

宅地區域内ニハ概ネ菜園林藪等ヲ包括セシモノナレハ改租ノ際ハ勿論其後ニ於ケルモ實地ノ  
 狀況ニ依リ之ヲ一宅地ト査定セシモノニ付其區域ノ如何ニ關セス現地ノ名稱ニ依リ輒ク變換  
 シ能ハス然ルニ這般地租條例改正ニ因リ漫ニ變換届出ル向モ有之取扱方往々問合アリシモ宅  
 地ノ性質ハ既ニ前陳ノ次第ニテ之ヲ變換スル如キハ條例改正ノ精神ニハアラス總テ從前ノ通  
 取扱相成度云々

追テ地租條例施行細則第七條宅地内書ノ儀ハ從前ノ通産地等ニ限ルモノトス

明治二十二年地租條例ノ大部分ヲ改正シ尙之カ施行規則及其取扱方ヲ規定スル所アリシカ一般  
 地租ニ關スル事項ノ調査順序等モ亦熟練スルニ至リ隨テ上述ノ地租検査手續ノ如キ詳細ナル實  
 地検査手續ヲ要セサルニ至リシヲ以テ其手續ヲ省略セシメンカ爲メ同二十三年二月十三日主稅  
 局長ハ同第二三六號ヲ以テ其旨ヲ通牒スルコト左ノ如シ

地租ニ關スル實地検査手續ノ儀ハ明治十七年九月主稅第三七號ヲ以テ准例内達ノ旨モ有之候  
 處其後土地整理等ノ事業起リ官民トモ取調ノ順序等習熟セシニ付テハ爾後丈量検査ハ其検査  
 スヘキ土地數筆連接セサルモ同町村内ニシテ同一技術者ノ丈量セシモノハ其中ニ就キ數筆ヲ  
 點檢シ年期ノ附與ハ其筆數多數ナルトキハ地主ヲシテ事業ノ難易被害ノ淺深ニ據リ其長短ヲ  
 類別取調シメ其區別ニ就キ數筆ヲ點檢シテ總數ノ可否ヲ決シ地價在案ハ地主取調ノ地價大體  
 上ニ於テハ相當ト見認メ得ルモ検査スヘキ土地散在スルトキハ町村地圖上ニ於テ査案スヘキ  
 土地ノ等級若クハ段當地價ヲ四隣既定ノ等級地價ニ比シ不均衡ナシト見認ムルモノハ適宜點  
 檢シ其取調ノ不相當ト見認ムル場合ニ於テ町村内同一ノ取調ニ係ルモノハ再調ヲ命シ訂正ノ  
 上之ヲ査案セシムル等專ラ敏捷ヲ主トシ検査上ノ要領ヲ得ヘキ様適宜施行相成度茲ニ省議ヲ  
 經テ通牒ニ及フ

明治二十二年地租條例ヲ改正シ有租地第二類中ニ牧場ナル地目ヲ設定セラレタルヲ以テ明治二  
 十三年二月二十四日主稅局長ハ該地價査定ノ件ニ關シ左ノ通牒ヲ發セリ  
 客年法律第三十號ヲ以テ地租條例第三條第二類中へ牧場ノ一地目ヲ設定セラレ同年當省訓令  
 第七十六號第一條ニ條例第三條ノ牧場ニシテ從來數地目ニ分割取調ヘタルモノハ訂正ノ手續



ヲ爲サシムヘシト有之候處該地目訂正ノ上ハ自然地價ヲモ修正スヘキ筈ニ付既往將來ノ情況ヲ考察セラレ此際牧場相當ノ地價査定相成度省議ヲ經テ通牒ニ及フ

蓋シ從來ノ牧場タルヤ單ニ原野ニ牧畜スルモノアリ或ハ山林ニ於テ之ヲ爲スモノアリ或ハ又牧草作場、牧夫、宿舍等ヲ具備シテ之ヲ爲スモノアリ然レトモ未タ特定ノ地目ナキニ依リ牧場其モノノ一區域ヲナスニ拘ラス皆其現地ノ形況ニ應シテ數個ノ地目ニ分割シタリキ之ヲ以テ雖ニ地租條例ヲ改正スルニ際シ新ニ牧場ノ地目ヲ設定シ尙地租條例及地租條例施行細則同取扱方心得ナルモノヲ訓示シ其取扱方心得第一條ニ於テ條例第三條ノ牧場ニシテ從來數地目ニ分割取調ヘタルモノハ訂正ノ手續ヲ爲サシムヘシト規定セラレタリ然レトモ其地價ヲ訂正スヘキヤ否ヤノ點ニ至テハ未タ何等ノ訓示アラサルカ故ニ各地方ニ從テ區々ノ調査アルヲ免レス例ヘハ(第一)從來第二類地タル山林原野ノ地目タリシモノヲ同類地中ノ地目ニ變換シ五箇年以内ニ地價ヲ訂正セントスルモノアリ(第二)獸畜養舍又ハ牧夫宿舍等ノ如キ從來宅地ノ地目トシテ第一類地トセシモノヲ更ニ第二類地ニ變換シ五箇年間之レヲ据置キテ六箇年目ニ地價ヲ修正セントスルモノアリ(第三)從來數地目ニ調査セシモノヲ合一シテ單ニ牧場ナル地目ニ訂正スルハミニ止メ地價ハ別ニ訂正セサルモノアリ(第四)法律改正ノ作用ニ由リ此際地目ヲ訂正スルハ勿論其地價ヲモ修正セントスル等種々ノ方法ヲ爲スモノアルカ如シ斯ノ如キハ固ヨリ法律第三十號地租條例中ノ改正規定ノ解釋如何ニヨリテ分ル、モノナリト雖モ第一第二ノ方法ニ從フトキハ一牧場ニシテ同時ニ其調査ヲ爲ス能ハサルノ故障アリ加之ナラス地目變換又ハ地類變換ノ如キハ人民任意ノ所爲ヨリ生スルモノニシテ法律ノ作用ヨリ生スル處分ヲ規定セラレタルモノニアラス又第三ノ方法タ

ル地目ハ訂正スルモ地價ヲ訂正セスト云フニ至リテハ頗ル妥當ヲ失フモノニシテ少シモ其理由ヲ存セス殊ニ從來宅地ニ取調ヘタル如キモノヲ牧場ノ地價ニ据置クハ實地ニ適合セサルモノトス而シテ第四ノ方法ハ法律ノ改正ト共ニ地目竝ニ地價ノ訂正ヲ必要ナリトスルモノニシテ較ニ適當ナルカ故ニ此方法ヲ採用シ以テ各地方ヲシテ其調査ヲ區々ニ涉ラサランメンコトヲ期セシナリ

次ニ地租條例中ノ第二十三條ニ於テ免租年期明ニ至リ尙荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五箇年以内ノ免租繼年期ヲ定メ若クハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ムヘキモノトセリ故ニ其繼年期ナルモノハ必ス一回之ヲ與フルノミトシ假令制限以内タル五箇年ノ繼年期ヲ許可シタルモノ、如キニ在リテハ其年期明ニ至レハ直ニ低價年期ヲ定メ若クハ現況ニ依リテ地價ヲ定メ以テ一回以上ノ繼年期ハ之ヲ許可スヘキモノニアラスト解釋シ其取扱ヲ爲シ來レリ然ルニ右條例第二十四條ニ於ケル川成、海成、湖水成等ノ荒地ニ對シテハ制限年數ニ達スルマテ再三之ヲ許可スルモ敢テ妨ケナキ旨決定セシヲ以テ彼ノ第二十三條ニ於ケル普通ノ荒地繼年期ニ對シテモ亦同シク繼年期ニ至テ尙荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ制限年數ニ達スルマテ再三ノ繼年期ヲ許可スルモ敢テ妨ケナキコト、解釋セサレハ彼我解釋ヲ異ニシ妥當ヲ失ス依テ從來ノ取扱ヲ改メ十五年ニ達スル迄ハ再三許可スルモノトシ明治二十三年十一月二十日主稅局長ハ坤第二一九三號ヲ以テ通牒スル所アリタリ

地租條例第二十三條荒地繼年期ノ儀ハ是迄一回ヨリ許可セサル事ニ取扱ヒ來リシモ其年期明ニ至リ尙荒地ノ形狀ヲ存スルノミニシテ未タ制限年數ヲ許可セサルモノハ前後通算シ制限年



數ニ達スルマテハ再三繼年期ヲ許可スルモ妨ケナキコトニ省議決定ス

又地租條例中改正ヲ加ヘタル結果地目變換ノ土地ハ五箇年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六箇年目ヨリ修正地價ニ基キ地租ヲ徵收スルコト、セシテ以テ同年十二月省令第十九號ヲ以テ地租條例施行細則ヲ定メ地目變換ニカ、ル土地ノ検査ハ府縣知事ニ於テ豫メ管内ヲ五區域ト爲シ毎年其一區域ヲ検査シ五箇年ヲ以テ全管ヲ檢了スルコトニ規定セラレタリ然ルニ斯ノ規定ニ就キ地目變換ノ一種目ヨリ之ヲ見ル時ハ每區ニ於テ五箇年分ヲ一括シテ一時ニ之ヲ檢了スルニ依リ其手數ヲ省略セラル、カ如シト雖モ荒地起返開墾年期附與等其他毎年ニ於テ定規ノ検査ヲ施行シ各町村へ臨檢スルニ當リ其町村内ニ地目變換ノ土地アルモ検査ヲ爲スノ當年ニアラストシテ之ヲ傍觀シ去ルカ如キノ憾アリ隨テ其結果地目變換ノ土地ハ他ノ検査ノ土地ト區分シテ別途ノ検査ヲ行フニヨリ同一町村内ニ在リテ一日數十筆ノ検査ヲ了シ得ヘキモノモ其種目限リ検査ヲ爲ストキハ各町村ニ點々散在スルカ爲メ當初企圖セシ省略ノ目的ヲ達スル能ハス却テ多分ノ經費ヲ要スルニ至リ土地検査上不經濟タルコトヲ免レス蓋シ該法案起草ノ精神タルヤ五箇年間ハ之ヲ据置キ六箇年目ニ取纏メ而シテ全管一時ニ検査ヲ遂クヘキ積ナリシヲ以テ大ニ手數ヲ省減シ得ヘキコトヲ豫定セシト雖其精神ノ徹底セサリシヨリ斯ル不都合ヲ惹起セシナリ依テ地租條例ノ範圍内ニ於テ便宜ノ方法ヲ施行セシムルヲ以テ便利トシ更ニ同二十四年三月三十一日大藏省令第六號ヲ發シ地租條例施行細則第九條ヲ改正セリ

第九條 條例第十條第二項ノ土地ハ便宜検査ヲ爲シ五箇年以内ニ檢了スヘシ  
尙斯ノ改正ト同時ニ同省訓令第二十九號ヲ發シ前記ノ地租條例及同條例施行細則取扱方心得中

ヲ更訂セリ

明治二十二年當省訓令第七十六號地租條例及同條例施行細則取扱方第三條但書第四條第五條及第六條中第十六條第三項十五年以上ノ年期及第六項第十八條ノ二十三字ヲ削除ス

蓋シ明治二十二年ニ於ケル地租條例改正前ニ在テハ開墾ヲ爲サントスルトキハ同條例第十六條ニ依リ鍬下年期十五箇年ヲ許可ノ極度トシ又事業ノ成功ニ至ラスシテ繼年期ヲ請フトキハ第十八條ニ從ヒ十五箇年ヲ許可ノ極度トシ而シテ之カ許可ヲ與フル場合ニ在テハ其範圍内ニ於テ事業ノ難易ヲ計リ相當ノ年期ヲ査定シ地方廳限リニテ之ヲ專行セシメタリ然レトモ該條例ノ改正ニ際シ鍬下年期ヲ三十箇年ニ繼年期ヲ二十箇年ニ延長セラレタルヲ以テ甲乙兩地方ニ於テ甲ハ偏ニ寬裕ナル主義ヲ取リテ長年期ヲ與ヘ乙ハ從來ノ慣行ヲ襲用シテ年期ヲ與フルカ如キ彼此不權衡ノ處置ニ涉ルコトアリテハ改正ノ旨趣徹底セサルコト、ナル依テ地租條例及同條例施行細則取扱方心得ヲ示シ其第六條ヲ以テ延長ニ係ル鍬下年期十五箇年以上ヲ附與スル場合及ヒ繼年期ヲ附與スル場合ニ於テハ實地ノ狀況ヲ具シ京議ノ上許可ヲ與フルコトニ定メラレタリ然ルニ爾來各府縣ヨリ極度年限ヲ與ヘンコトヲ申請スルハ稀ニ見ル所ニシテ且京議ニ對シ年期ヲ短縮セラレタルハ僅々二三ニ止マリ既ニ一兩年ヲ經過シ年期附與ノ長短モ亦各地方略一楨ニ出テ收テ弊害ヲ生セサルヘシ殊ニ繁文ヲ省略スルノ今日ナレハ地方廳ニ委任シテ其處分ヲ爲サシムルモ可ナルヘシ又耕地ノ區劃若クハ形狀ヲ變更スル爲メ或ハ地目ヲ變換スルタメ開墾ニ等シキ勞費ヲ要スル土地ニ對シテ年期ヲ附與スルコトニ付テハ條例改正以前ニ在テハ之ニ適合スル法文ナキヲ以テ其時々ニ於テ悉ク京議シテ其指揮ヲ仰カシメ相當ノ年期ヲ附與シタリ然レトモ條例



ノ改正ニ依リ三十箇年以内ノ年期ヲ附與スルヲ得ルコト、シテ之カ許可ヲ與フルニ從來ノ如ク其時々稟申セシムト雖モ以上ノ事由ト略同一ノ情況ナレハ是亦地方廳ニ委任シテ可ナルヘシ是レ前記第六條中ヲ改正セシ所以ナリ次ニ其第三條但書ニ依レハ丈量検査ニ要スル器械ハ地方廳ヨリ携帶スヘキモノトセリト雖各町村ニ於テ漸次之ヲ設備シ唯其中間繩ヲ除ク外ハ強テ携帶セシムルノ必要ナキニ至レリ然ルニ其訓令ニ明文アルトキハ検査員ニ於テ人夫賃等ヲ請求スルモ敢テ之ヲ拒ムノ辭柄ナク經費節減ノ今日無益ノ失費ヲ醸スハ恐當ナラサルヲ以テ其但書ヲ削除シ而シテ間繩尺度兩器ノミ携帶セシムルコトニ省議決定ノ上主務局ヨリ各府縣知事ニ通牒セリ而シテ又其第四條第五條ノ取扱方ハ明治二十三年二月大藏省訓令第十號ヲ以テ帳簿ノ様式ヲ示サレタレハ自ら重複ノ嫌アリ且今同省令ヲ發シテ検査區域ヲ定メス便宜検査スルコトニ改メシヲ以テ兩條共ニ存在ノ必要ヲ認メサルカ故ニ之ヲ削除セルナリ

又變換地ノ地價ハ從來検査ノ當年ニ於テ修正スヘキ順序ナリシカ既ニ述ヘシカ如ク地租條例施行細則第九條ヲ改正シテ五箇年以内ニ便宜検査ヲ行フコト、セリ殊ニ同條ノ改正ハ検査ノ區域ヲ定ムルノ不利ヲ除キ隨テ取扱上ノ便利ヲ考定シタルモノナルカ故ニ同二十四年六月二十七日主稅局長ハ坤第一六一二號ヲ以テ其處理上ノ心得ヲ示シ許可ノ指令ハ六年目ニ至リ之ヲ取計フモノトス

地租條例第十條第二項地目變換地ノ地價ハ検査ノ當年ニ於テ修正ヲ達示シ置クノ慣例ノ處本年省令第六號ヲ以テ條例施行細則ヲ更正セシニ付爾後ハ五箇年以内ニ地價修正ノ手續ヲ了シ置キ人民ヘノ指令ハ修正地租徵收ノ年度ニ至リ取計相成度省議ヲ經テ通知ニ及フ

又土地ノ分合筆ニ關スルモノハ從來地方廳ノ出願ニ依リテ指令ヲ與フルノ例規ナリシカ概近各地方ニ於テ分合筆ノ數逐日増加シ隨テ直稅分署ノ如キモ其ノ處分ノ手續ヲ爲スタメ手續ヲ要スルコト尠カラス當時經費節減ノ折柄斯ノ如キ事務ノ爲メ分署ト本廳トノ往復ニ多分ノ郵稅ヲ費シ或ハ其結果自然他ノ事務ニ障礙ヲ與フルノ掛念アリ加之ナラス地租條例改正以降地租ニ關スル事務ハ勉メテ煩雜ヲ避ケ主トシテ繁文省略ヲ實施スルヲ主眼トセルニ獨分合筆ノミ其手續ヲ改メサルニ於テハ取扱上彼此權衡ヲ失シ殊ニ分合筆ニシテ段別ノ増減ナク地價ノ分配其當ヲ得タルモノハ實地ノ検査ヲモ要セサル次第ナレハ該事務ノミ出願ノ手續ヲ踐マシムルハ鄭重ニ過クルノミニテ別ニ何等ノ必要ヲ認メス故ニ同二十四年七月二日大藏省訓令第五十七號ヲ發シ明治二十年四月ニ於ケル同省訓令第二十五號土地分合筆取扱手續第一條中「出願セ」三字ヲ「届出」ノ二字ニ改メ同第二條中「願書」トアルヲ「届書」ニ改メ又二十二年三月同省訓令第十五號地租事務取扱手續第二條ヲ削除ス

又荒地ハ地租條例第三條ノ規定ニ依レハ有租地ノ天災ニ罹リテ其地形ヲ變シタルモノナルコトハ明ナレトモ新開地又ハ還祿士族拂下地等ノ如キ從來全ク地租ヲ賦課セサル民有ノ無租地ニシテ開墾後下期又ハ新開免租年期ヲ附與セシ分若シ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルトキハ有租地ニ準シ被害ノ狀況ニ應シテ相當ノ荒地免租年期ヲ附與シ年期中ハ缺下期若クハ新開年期ノ進行ヲ中斷シ而シテ其年期明ニ至リ更ニ缺下期若クハ新開年期ヲ繼續セシムルノ慣例ナリ而シテ此慣例タルヤ地租條例制定以後ハ斷然廢止スヘキモノナルモ漫然等閑ニ付シ去リ有租地ニシテ荒地成ト同一ノ取扱ヲ爲スハ條例ノ明文ニ對シ甚タ穩當ナラス況ヤ新開地ノ如キハ年期中ニ於テ非



常ノ天災ニ罹リ再三再四堤塘ヲ破潰シ地形ヲ變スルカ如キ損失アルコトハ當初ヨリ豫想スル所ナリ故ニ數十年ノ長年期ヲ附與シ來ルモノニシテ條例制定後ト雖モ五十箇年マテノ最長年期ヲ附與シ得ルモノナレハ屢々天災ニ罹リ地形ヲ變スルコトアルモ有租地ニ準シ更ラニ荒地免租年期ヲ附與スルノ理由ナキモノトス依テ爾後ハ以上ノ如キ無租ノ荒地ヲ有租ノ荒地ト同一ノ取扱ヲ爲スコトハ斷然廢止セシムルヲ以テ正當トシ同二十六年二月二十七日大藏大臣ハ内訓セリ

新開地又ハ還祿士族拂下地等ノ如キ從來ノ無租地ニシテ新開免租年期若クハ開墾下年期中ノ分タリトモ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルトキハ右年期ヲ中斷シテ有租地ノ荒地成ニ準シ從來ノ慣例ニ依リテ更ニ荒地免租年期ヲ附與セシ分モ不少候處自今右等ノ無租地ニシテ年期中ニ係ルモノハ假令天災ニ罹リ地形ヲ變スルトモ更ニ荒地免租年期ヲ許可スルノ限リニアラサル儀ト心得ヘシ

又荒地免租年期ハ地租條例第二十條第一項第二項ニ照シ而シテ同條例施行細則第十二條ニ依リ府縣知事之ヲ定ムヘキハ固ヨリ當然ノコトナリ然レトモ近年大雨洪水若クハ海嘯等ノ起ルニ際シ免租年期ノ査定方法往々區々ニ涉リ或ハ人民ノ舉動ニ依リ年期ヲ長短スルカ如キコトナシトセス加フルニ同條例第二十條第一項ノ検査ハ概ネ地主ノ情願ニ迫ラレ被害ノ狀況未タ鎮定セサルニ先チ臨檢スルカ故ニ崖脚ノ潰崩セルモノ、如キハ検査後ニ至リ更ニ潰崩ヲ増加シ隨テ年期ノ短キニ苦シムカ如キノ類モ亦往々之レアリ或ハ之ニ反シ鹽芥堆積稻草俯伏シテ一時荒蕪ノ狀況ヲ呈スルモノアルトキハ地盤ノ變換如何ヲ問ハス忽チ荒地ト誤認シテ免租年期ヲ附與スルカ如キコトナシトセス故ニ本項検査ニ對シ之カ規程ヲ設クルハ甚必要ナルモノト認ム尙又第二項

ノ潮水浸入ノ地ハ其浸入ノ際之ヲ一見スレハ渺トシテ殆ト海面ニ變シタルノ感ナキ能ハサレトモ潮水ノ退クニ至テハ其地形ハ依然トシテ損害ノ痕跡ヲ遺サス加フルニ鹹水ノ餘毒モ亦比較的輕微ニシテ兩三年ヲ出テスシテ平常ニ復舊スルコトアルハ實施以來ノ經歷ニ徴シ明瞭ノ事柄ナルヲ以テ普通ノ潮水浸入地ニハ決シテ三年以上ノ永年期ヲ附與スルノ必要ナキモノトス然レトモ海嘯ノ衝ニ當リ堤塘破壞セシモノ、如キハ其復舊工費巨額ニ上リ免租年期ノ極度十五箇年ヲ附與スルモ尙或ハ之ヲ辨償シ能ハサルモノナシトセス是ニ於テ地租條例第二十條第二項ノ荒地年期ハ之ヲ兩様ニ區分シテ其規程ヲ定ムルヲ必要トシ同二十六年四月二十一日大藏省訓令第十六號ヲ發シテ其取扱方法ヲ示セリ

地租條例施行細則第十二條同取扱方第六條ニ依リ荒地年期ヲ定メ若クハ稟議スル場合ハ左ノ通心得ヘシ

- 一 荒地免租年期ハ其地形ノ變狀沈定シ被害ノ深淺判明ナルヲ待テ検査ヲ遂ケ之ヲ定ムヘシ
- 一 海嘯荒地ニ係ル免租年期ハ三箇年以内ヲ適度トス但堤塘破潰等ノ爲メ復舊自辨ノ工費ノ多寡ニ應シ十五年以内適宜取調ヘシ

尋テ同二十七年十月九日大藏省ハ一筆ノ田畑中ニ孕在スル草地等ノ如キハ一類地ノ内書ナルモ其性質ハ二類地ノ荒地ニ屬スルモノナリ依テ本地ト共ニ一類地ニ起返リタルトキハ平地同様ニ地價ヲ定ムルコトヲ決議ス乃チ左ノ如シ

- 一 筆ノ田畑中ニ孕在スル草地ニシテ荒地免租年期明ニ至リ本地ト共ニ田畑ノ地價ヲ付シタルカ爲メニ却テ原地價ヨリ増額セシコトアリ是レ元來荒地ハ年期明ニ至リ原地價ニ復スルヲ



原則トスルカ故ニ草生地ハ則チ草生地タラサルヘカラス若シ之ヲ田畑ニ變更スル時ハ稅則第十六條ニ依リ開墾ノ取扱ヲ爲スヘキヲ以テ當然トスルモ之ヲシテ荒地免租年期明ニ至リ草生地ニ限リ之ヲ本地ヨリ分割シテ更ニ開墾ノ手續ヲ爲スハ頗ル繁雜ナルノミナラス實際些々タル内書ノモノニ在テハ本地ト均シク田畑ニ起返ルヲ例トスルカ故ニ之ニ開墾年季ヲ附與スルノ必要ナク又條例第二十二條ニハ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復セス他ノ地目ニ變換スルモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ムトアリ此明文ニ據ルモ草生地等ノ年季明ニ至リテ田畑ニ變スルモ他ノ地目ニ變換スルモノト解釋スルモ差支ナキニ付自今一類地ノ内書トナリ居ル第二類地ニシテ本地ト共ニ一類地ニ起返リタルトキハ本條ニ據リ直チニ本地同様ノ地價ヲ定ムルコト、ス

明治二十七年大藏省訓令第九號ヲ發シテ諸帳簿様式ヲ改正セシニ由リ其適用上差障ノ廉ヲ生スルノミナラス其他不完全ノ點アルヲ以テ後同二十八年一月二十六日大藏省訓令第四號ヲ發シ更ニ收稅署地租事務取扱規程ヲ定メ而シテ曩ニ發布セシ明治二十二年大藏省訓令第十五號ハ之ヲ廢止セリ

收稅署地租事務取扱規程

- 第一條 收稅署ノ地租ニ關スル事務ハ此規程ニ依リ之ヲ處理スヘシ
- 第二條 收稅署長ニ於テ土地又ハ所有者住所氏名ノ異動ニ關スル願届書ヲ受ケタルトキハ地租事務整理簿(第一號)ニ之ヲ記入シテ主任者ニ交付シ主任者ハ土地臺帳ノ照合其他必用ノ調査ヲ了スル毎ニ順次同簿ニ該月日ヲ記入シ置キ其事務ヲ明瞭ナラシムヘシ

第三條 實地検査ヲ要スル願届書ハ検査以前ニ於テ野取圖ノ檢算及該異動地比準地ノ等級段價等帳簿地圖ト對照調査ヲ遂ケ速ニ處分ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス

第四條 實地検査ヲ了シ検査員ヨリ復命シタルトキハ更ニ其當否ヲ調査シ速ニ處分ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 前二條ノ處分ヲ了シタルトキハ式ニ從ヒ其時々土地臺帳及地圖ヲ訂正シ該願届書及土地臺帳異動整理簿(第二號)ニ其要領ヲ記入シ速ニ登記所及市町村役場ヘ之ヲ通報スヘシ

第六條 收稅署長ニ於テ土地所有權ノ移轉又ハ質入等ニ關スル登記所ノ通知ヲ受ケタルトキハ登記所通知整理簿(第三號)ニ之ヲ記入シテ主任者ニ交付シ主任者ハ土地臺帳ノ訂正ヲ了シタル後該通知書ヲ添ヘ之ヲ市町村役場ニ通報シ其月日ヲ同簿ニ記入シ置クヘシ

第七條 共有地ニ關スル異動ハ前二條ノ訂正ヲ爲ストキ共有地臺帳ヲ訂正シ共有者ノ住所氏名及所有權ノ歩合等ヲ明カナラシムヘシ

第八條 收稅署長ニ於テ土地臺帳謄本下付願書ヲ受ケタルトキハ土地臺帳謄本下付整理簿(第四號)ニ之ヲ記入シテ主任者ニ交付シ主任者ハ土地臺帳ト照合ノ後謄本下付ノ手續ヲ爲シ其月日等ヲ同簿ニ記入シ置クヘシ

第九條 第五條ノ手續ヲ了シタルトキハ異動ノ種目ヲ區分シ之ヲ土地臺帳集計簿又ハ當該調理簿ニ記入シ置キ毎年一月中ニ於テ前年中ノ異動ニ係ル土地臺帳毎年ノ員額ヲ計算シテ集計簿ト照合シ其十二月末日ノ現在額ヲ在數スヘシ荒地其他ノ臺帳モ亦之ニ準ス

第十條 前條現在額ハ毎年ノ初メニ於テ各町村役場ノ土地臺帳集計額ト照合シ其正確ヲ期ス



ヘシ

第十一條 收稅署長ハ隨時各整理簿ヲ檢閲シ事務ノ滯滞ナカラシムヘシ

第十二條 地租改正ノ際調製シタル帳簿地圖其他土地ノ異動ニ關スル願屆書類ハ總テ之ヲ整理保存スヘシ

第十三條 收稅署長ハ地租事務年報(第五號)ヲ調製シ每翌年三月マテニ之ヲ府縣廳ニ送付スヘシ

(様式省略)

然ルニ同三十二年ニ至リ更ニ地租條例施行規則ヲ改定シ而シテ同年四月十日大藏省内訓ヲ以テ之カ取扱方心得ヲ示セシカ故ニ此内訓ト同時ニ訓令第二十七號ヲ發シテ以上ノ收稅署地租事務取扱規程ヲ廢止シタリ

明治二十八年六月十七日大藏省ハ訓令第二十三號ヲ以テ地目誤謬訂正ノ爲メ租額ニ増減ヲ生シタルトキノ取扱方ヲ定ム

地目ノ誤謬ヲ發見シ之カ訂正ヲ爲スニ當リ租額ニ増減ヲ生スルトキハ自今既納ノ地租ト訂正ノ地租トヲ對比シ其差額ヲ追徴若クハ還付スヘシ

蓋シ地租改正又ハ地押調査ニ際シ賦租地ニシテ田ヲ畑ニ若クハ市街宅地ヲ郡村宅地ニ誤調セシコトヲ發見セシトキハ其訂正ノ結果地租ノ増減額ヲ追徴還付セサルヘカラス而シテ其方法ハ例ヘハ畑租トシテ賦課スヘキヲ誤テ田租トシテ納メタルトキハ田租ハ之ヲ下戻シ其地相當ノ租額ヲ査定シテ畑租ヲ追徴スルノ例規ナリ然レトモ其手續煩シキヲ以テ差額ノミ追徴還付スルコト

トシ客年十一月之ヲ富山縣へ指令シ且官報ニ掲載シテ周ク之ヲ一般ニ知ラシメタリ故ニ爾後ハ之ヲ遵守スヘキモノナリト雖一ノ伺指令ニ過キサレハ他府縣ニ於テ或ハ之ヲ引用セサルモノナキヲ保シ難ク隨テ其取扱ノ如何ニヨリ納稅者ニ利害ノ關係アルヲ以テ各地ヲシテ區々ノ解釋ヲ取ラサランメンカ爲メ右ノ訓令ヲ發セシナリ

又同二十九年五月十六日主稅局ハ無届ニカ、ル地目變換地ニアリテハ地價修正ノ年ヨリ修正地價ニヨリ地租ヲ徵收スヘキモノトス其決議左ノ如シ

變換後六箇年目ノ既往ニ溯リ修正地價ニヨリ徵租セントスル論者所說ノ要點ハ地目地類ノ變換ニ就テハ他ニ明條ナキヲ以テ絕對ニ條例第十條ヲ適用シ處分セント云フニアリテ其理由トスル所ヲ熟考スルニ同條ハ事實變換ノ後五箇年間田地價ニ据置キ六箇年目ヨリ修正地價ニヨリ徵租スルノ旨趣ニシテ明カニ地目及地類變換ノ取扱方法及徵收年度ノ區分ヲ規定シ條例第十四條ニハ其但書ヲ以テ變換地ハ除外例ナリト規定セリ而シテ變換地ニ付テハ二十七條無届處罰ノ外何等ノ明文ナキヲ以テ事實何タルニ論ナク新舊地租賦課ノ區分ハ變更スヘキモノニアラサルナリ故ニ變換ノ年ヨリ六箇年目ニ遡及スルヲ當然ナリトスト

然ルニ變換地處分ヲ全然條例第十條ニ據ラントスルハ偏見ノ解釋ト云ハサル可ラス何トナレハ條例第十四條ノ但書タルヤ第十條ノ變換地ハ地價ノ修正ヲ爲ス年ヨリ修正地價ニヨリ徵租スルニアラスシテ五箇年間ハ舊地價ニ据置クノ規定ニ對シ抵觸スルヲ避ケタルノミ焉ソ六箇年以後經過セシモノモ總テ十四條ヲ適用セストノ意義ナリト解スルヲ得ンヤ尙之ヲ詳論センニ凡ソ地租ハ地價ヲ定ムルニ非スンハ之ヲ賦課スル能ハス換言スレハ修正地價ニヨル地租ノ



徵收權利ハ修正地價ノ定リ而シテ後生ス(條例第一條及明治二十三年法律第三十號ニ依ル)故ニ修正地價ノ成リタル以前ニ遡リ其地價ニヨリテ地租ヲ追徵スルハ法律ニ於テ遡及スルノ明文ナカル可ラス然ルニ無届地目變換ノ場合ニ付テハ遡及ノ明文ナシ故ニ地價修正ノ年ヨリ修正地價ニ依リテ地租ヲ徵收スルハ正當ノ取扱ナリトス

又田ヲ畑若クハ宅地ニ變換シ其地價ヲ査定スルニ方リ其水利ヲ失ヒタルモノ、外ハ其實本人利益上ノ計畫ニ出ツル隨意ノ所爲タルヲ以テ原地價ヲ標準トシテ査定スヘキハ地租條例第九條同取扱方心得第十二條ヲ適用スルノ根底ヲ示シタル旨各府縣收稅長ヘ通知セシモ元來地目變換ナルモノハ事實上獨リ水利ヲ失ヒタルヨリ之ヲ爲スモノ、ミニアラズ或ハ宅地ノ狹隘ヲ告ケ已ムヲ得ス良田ヲ宅地ニ變換スルモノアリ從テ強チ水利ヲ失ヒタルモノ、外ハ總テ單ニ利益上ノ計畫ニ出ツト云フ可カラス且又條例第九條ノ根底云々トアルモ事實ノ如何ニヨリ法律ノ解釋ヲ異ニスルハ法理ノ許サ、ル所ナレハ自今ハ條例第十條ニ依リ變換セシモノハ同九條ノ規定ニ從ヒ現地相當ノ地價ヲ査定スルヲ正當トシ同三十年十一月十三日主稅局長ハ坤第一三四〇二號ヲ發シ左ノ通牒ヲ爲セリ

田ノ畑若クハ宅地成地價査定ノ儀ニ付テハ二十年十一月坤第一七二五號及二十一年一月坤第一六號ヲ以テ通知ノ次第モ有之候處右ハ水利ノ便ヲ失ヒタルヤ否ヤニ拘ハラズ原地價ニ關セス現地相當ノ地價査定スヘキコトニ省議決定ス

既ニ記セシ如ク明治二十四年六月坤第一六一二號ヲ以テ發セシ主稅局長ノ通牒ニ依レハ地租條例第十條第二項ニ於ケル地目變換地ノ地價ハ五箇年以内ニ於テ地價修正ノ手續ヲ了シ置キ人民

ヘノ指令ハ修正地租徵收年度ニ至リ取計フヘシ換言スレハ六箇年目ヲ待テ修正手續ヲ了ル可シト云ヘルカ如シ之レ或ハ處務上ノ便利ヲ圖ラントノ理由ヨリ出テシモノナランモ地目變換ノ場合ハ條例上明ニ五箇年以内ニ其地價ヲ修正スヘキコトヲ規定シアル以上ハ該規定ニ基キ其年限内ニ於テ之ヲ修正シ直ニ人民ヘモ亦指令セサル可ラサルヲ以テ同三十一年八月二十五日主稅局長ハ坤第七二三三號ヲ發シ左ノ通牒ヲ爲セリ

明治二十四年六月坤第一六一二號ヲ以テ地目變換ノ場合ニ於ケル地價修正ノ件通牒セシモ今後ハ地租條例第十條第二項ノ通五箇年以内ニ於テ夫々修正スヘシ省議決定ニ依リ更ニ通牒ス又地目變換ヲ發見セシトキ之カ訂正ノ結果其租額ニ増減ヲ生セシ場合ハ明治二十八年六月大藏省訓令第二十三號ニ依ルヘキノ規定ナリシカ今回更ニ省議ヲ以テ其一旦定マリタル地價ハ地租條例第七條ニ於ケル修正ノ外總テ之ヲ増減スルヲ得スト決シタルモノヲ以テ同三十一年八月二十日同省訓令第五十六號ヲ發シテ明治二十八年訓令第二十三號ハ之ヲ廢止セリ

尙ホ地租條例ノ解釋上久シク大藏省ノ疑義トナリタルモノアリ即チ事故ノ爲メ法律ノ定メタル時期ニ於テ地價ノ設定又ハ修正ヲ爲サス或ハ爲スコト能ハスシテ後日設定若クハ修正ヲ爲シタルトキハ其之レヲ爲スヘカリシ時期ヨリ新地價ニ依テ地租ヲ徵收スヘキヤ將又事實設定若クハ修正ヲ爲シタル時ヨリ新地價ニ依テ地租ヲ徵收スヘキヤノ問題是レナリ更ニ之ヲ例セハ左ノ如シ

- 一 無届地目變換ヲ六箇年以後ニ發見シタル場合
- 二 人民ニ境界争アリタル爲メ開墾年期明ノ土地地價修正ニ後レ又ハ改租ノ際民有地ヲ誤テ



官有地ト爲シタルコトヲ發見シタル場合  
 三 地類變換ノ土地ニシテ官吏ノ怠慢ノ爲メ六箇年目ニ於テ地價ヲ修正スルコトヲ失念シタル場合

然ルニ此等ノ場合ニ於テ如何ニ其處分ヲ爲スヘキヤ未タ一定ノ解決ヲ與ヘサリシカ同省審議會ニ於テ之ヲ決定セシヲ以テ同三十一年七月二十六日主稅局長ハ主祕第七九八號ヲ以テ其取扱ニ關スル省議決定ノ事項ヲ稅務管理局長ニ通牒セリ

一 事故ノ爲メ法律ノ定メタル時期ニ於テ地價設定又ハ修正ヲ爲サス又ハ爲スコト能ハスシテ後日設定又ハ修正ヲ爲シタルトキハ事實設定又ハ修正ヲ爲シタル時ヨリ新地價ニ依テ地租ヲ徵收ス

二 土地ノ丈量ニ誤謬アルコトヲ發見シ段別ノ訂正ヲ爲スモ其地ハ訂正スヘキモノニアラス是ニ由テ之ヲ觀レハ地租ニ關スル取扱方ニシテ彼ノ地租條例第十條第二項第十三條第二項第十五條第二十五條第二十七條ニ於ケル場合ノ如キ法律カ特ニ地租ノ徵收時期ヲ規定セシモノハ假令後ニ至テ地價ノ設定若クハ修正ヲ爲スト雖モ固ヨリ之ヲ溯及スヘキハ當然ノ事ナリトス然レトモ其他ノ場合則チ同條例第十條第三項第十六條第二項第十九條中缺下年期明及ヒ地價据置年期明ニ係ル分其他第二十二條等ニ於ケルカ如キ法律カ單ニ地價ノ修正若クハ修正ノ時期ノミヲ規定セシモノハ如上ノ取扱方ニ基キ其設定若クハ修正ノ後レタル原由ノ何タルヲ問ハス總テ實際ニ之ヲ爲シタル時ヨリ其新地價ニ據リ地租ヲ徵收スヘキモノトス尙參考ノ爲メ同省審議會ニ於テ以上ノ如ク之カ取扱方ヲ決定セシ理由ヲ述フレハ乃チ左ノ如シ

甲 (第一)一ノ行爲ノ結果カ既往ニ遡ルハ例外ノ事ニ屬スルカ故ニ必ス法律ノ明文ヲ要ス然ルニ地租條例ニハ第二十五條第二十六條第二十七條ノ外明文ナシ(第二)地租ハ地價ヲ基礎トシテ徵收スルモノナルカ故ニ地價ノ定マルニアラサレハ地租ヲ徵收スルヲ得ス(第三)若シ地價ノ設定又ハ修正ハ當然遡及ノ力アルモノナラハ地租條例第二十五條第二十六條第二十七條ノ如ク追徵ヲナスノ規定ヲ掲クル必要ナカルヘシ然ルニ法律カ此ノ如キ規定ヲ必要トシタルハ明文ナケレハ遡及ノ力ナキヲ以テナリ(第四)假リニ解釋上孰レノ說ニモ理アリトセハ專口取扱ノ便宜ナル解釋ヲ採ルヲ可トス而シテ遡及ノ力ナシトセハ追徵還付ノ手續ヲ省略スルヲ得ヘキカ故ニ大ニ便利ナルヘシ(第五)過失又ハ怠慢ノ爲メ地價ノ設定又ハ修正ノ延引スル虞アラハ政府ハ進ンテ之ヲ爲ンテ可ナリ政府ノ爲スヘキコトヲ爲サ、ルカ爲ニ一方ニ便利ナル方法アルモ之レヲ取ラサルハ不可ナリ以上ハ通牒第一項ノ理由ナリ

乙 (第一)地價ヲ算出スルニハ段金ヲ用キタルヘシト雖モ既ニ算出シ終リタル後ヨリ見レハ現今ノ地價ハ其一筆ノ土地ニ對スル地價ナルカ故ニ收穫ナリ石代ナリ總テ事實ト異ナルモ之レヲ以テ訂正ノ理由ト爲スヲ得ス而シテ獨リ段別ノ異動ノミ地價訂正ノ理由ト爲スヘキノ理アラシヤ(第二)地價ノ修正ヲ爲ス場合ハ地租條例第七條ニ於テ規定セラル、所ナリ而シテ丈量誤謬ハ第七條ノ規定ニ入ラス(第三)地價ハ一筆ニ對シテ之ヲ付スルモノナルカ故ニ一筆ノ地價ニ異動アルトキハ則チ地價修正ナリ段金ヲ變セサル以上ハ地價修正ニアラストノ事ハ法律ノ規定セサル所ナリ(第四)改租ノ際ニハ一箇月ヲ期シテ誤謬訂正ヲ申立ツヘキコトヲ定メタリ故ニ其後ハ訂正ヲ爲サ、ルコトハ當時立法者ノ精神ナリ其今日ニ至ルマテ時々之



ヲ爲シタルハ執行官カ法律ヲ嚴正ニ適用セザリシナリ(第五)現今ニ於テハ地價ノ設定又ハ修正ニ對シテハ訴訟訴訟ノ方法ヲ以テ不當處分ノ救済ヲ求ムルヲ得ルカ故ニ此ノ方法ヲ取ラサル者ニ對シテ更ニ訂正處分ヲ與フルノ必要ナシ(第六)丈量ニ誤謬アルモ其地價ヲ訂正セサルコト、セハ現今頻繁ニ生スル誤謬訂正ノ爲メ地租ノ追徴還付ヲ爲スノ事ハ自ラ消滅スルヲ以テ取扱上ノ便宜ヲ得ルコト尠カラズ是レ通牒第二項ノ理由トス

又地價ハ一筆毎ニ之ヲ定メ一筆ノ各部分ニ就テハ之ヲ究メタルモノニアラサルカ故ニ假令一筆ノ土地中ニ於ケル一部分ヲ變更スルモ依然一筆中ノ土地トシテ其一部分ニ對シ賦租免租又ハ地價ノ修正ヲ爲ス可ラサル旨同三十一年十月十八日主稅局長ハ坤第七一三五號ヲ以テ通牒スルコト左ノ如シ

一筆ノ土地中其一部分ニ付供用ノ目的ヲ變スル場合又ハ地面上ノ形狀ヲ變更スル場合等ニ於テハ從來其部分ニ就キ有租地成免租地目變換開墾等ノ手續ヲ爲シ又ハ之ニ準シタル取扱ヲ爲スノ例ナリシモ元來地價ハ土地一筆毎ニ之ヲ定メ一筆中ノ各部分ニ就キ之ヲ定メタルニアラサルカ故ニ一部分ニ付免租賦租又ハ地價修正ニ類スル取扱ハ爲シ難キ次第ニ付分筆スルニアラサレハ一筆タリシ土地ノ一部分ニ付免租賦租又ハ地價修正等ノ取扱ナキ様致サルヘシ命ニ依リ通牒ニ及フ

追伸一筆ノ土地中一部分荒地ニ歸シタル場合ニ於テ其荒地トナリタリ部分ヲ分裂シタル場合ヲ除クノ外ハ全體ニ就キ通觀シ其被害ノ狀況如何ニ依リ荒地處分ヲ爲スヘキモノナルヤ否ヤヲ判定セラルヘシ

又森林法第六條ニ依リ開墾ヲ許可シタルモノニシテ地租條例ノ開墾又ハ地目變換ニ該當スルモノアルトキ其取扱上府縣知事ヨリ稅務管理局长ヘ通知スルノ必要アルヲ以テ明治三十一年十一月二十一日大藏省訓令第七十二號ヲ發シテ其旨ヲ示セリ

明治三十年法律第四十六號森林法第六條ニ依リ開墾ヲ許可シタルモノニシテ地租條例ノ開墾又ハ地目變換ニ該當スルモノアルトキハ府縣知事ハ之ヲ稅務管理局长ニ通知スヘシ

然ルニ同年十二月二十八日農商務省訓令第四十三號ヲ以テ尙森林法第六條ニ據ル森林ノ開墾ニ關スル報告手續ヲ示スコト左ノ如シ

森林法第六條ニ據リ森林ノ開墾ヲ許可シタルトキハ開墾ノ種類面積及箇所數等左表ノ例ニ依リ毎年末ノ合計ヲ翌年三月末日限リ本省ニ報告スヘシ

森林開墾統計報告表

明治何年中

開墾種類	箇所數	面積
耕地		
宅地		
燒畑及切替畑		
其他ノ地目變換		
合計		



備考 本表ハ森林ノ名稱異ナル每一別大トスヘシ開墾許可取消ノモハ備考一ニテ附  
記スヘシ

然ルニ明治三十一年十二月法律第三十一號ヲ以テ田畑ノ地價ヲ修正シ又同時ニ法律第三十二號  
ヲ公布シテ地租條例第一條ニ一項ヲ追加シテ地租及市街宅地地租ノ定率ヲ増加シ次テ三十二年  
三月法律第六十二號ヲ以テ宅地ノ組換ヲ爲ス等大ニ變更スル所アリ隨テ之カ施行ニ關スル取扱  
手續ヲ改正セサル可ラサルノ必要ニ迫リシヲ以テ同三十二年三月三十一日勅令第百十一號ヲ發  
布シテ地租條例施行規則ヲ制定スルコト左ノ如シ

地租條例施行規則

- 第一條 土地ニハ番號ヲ付シ毎筆其ノ地價ヲ定ム
- 第二條 一筆ノ土地中一部分左ノ事項ニ該當スルトキハ之ヲ分割ス
  - 一 別地目ナルトキ
  - 二 有租地ニシテ無租地トナルトキ
  - 三 免租地ニシテ有租地トナルトキ
  - 四 所有者ヲ異ニスルトキ
  - 五 質權ノ目的トナルトキ
- 第三條 地租條例第四條ニ依リ地租ヲ免スヘキ公立學校地鄉村社地ハ借地ニアラサルモノニ  
限ル
- 第四條 第一類地ヲ第二類地ニ變換スルモノヲ地類變換ト謂フ

第五條 地目變換又ハ地類變換ノ後五年以内ニ於テ更ニ地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルト

キハ再度ノ變換ヨリ六年目ニ至リ其地目ニ對スル修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第六條 地目變換ノ後五年以内ニ於テ開墾ヲ爲ストキハ開墾著手ノ年ヨリ十年目又ハ墾下年  
期明ニ至リ其成功部分ノ地價ヲ修正シテ地租ヲ徵收ス

地種變換ヲ爲シタル後五年以内ニ於テ再ヒ第一類地トナストキハ變換ヲ取消シタルモノト  
ス其當初ノ地目ト異リタル第一類地ト爲ストキハ地目變換ヲ爲シタルモノトス

第七條 開墾著手後十年以内又ハ墾下年期中ニ於テ地目ヲ變換シタルトキハ開墾ハ廢止シタ  
ルモノトシ變換ヨリ六年目ニ至リ其地目ニ對スル修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第八條 地目變換若クハ地類變換ヲ爲シタル後五年以内ニ於テ荒地免租年期ノ許可ヲ受ケタ  
ルトキハ變換ヲ取消シタルモノトス其荒地免租年期明ニ至リ當初ノ地目ト異リタル土地ト  
爲シタルトキハ其地目ニ依リ地價ヲ修正シ地租ヲ徵收ス

第九條 地租條例第十條第一項ニ違犯スル者其變換ヨリ六年目以後ニ於テ發覺シタルトキハ  
其發覺ノ年ニ於テ現地目ニ依リ地價ヲ修正シ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第十條 地目變換又ハ開墾ニシテ許可ヲ受クルコトヲ要スルモノハ許可出願ヲ以テ届出ト看  
做ス

第十一條 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ニ付墾下年期又ハ新開免  
租年期ノ許可ヲ請ハサルトキハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第十二條 荒地免租年期中又ハ低價年期中土地ノ形狀ヲ變更スルコトアルモ地目變換地類變



換又ハ開墾ト看做サス

第十三條 荒地免租年期中又ハ低價年期中再ヒ荒地トナリ免租年期ノ許可ヲ受ケタルトキハ前ニ受ケタル荒地免租年期又ハ低價年期ハ消滅ス

第十四條 地租條例第十六條第十八條第二十條第二十一條第二十三條第二十四條及森林法第五十六條ニ依リ歛下年期地價据置年期免租年期繼年期又ハ低價年期ヲ受ケントスル者ハ稅務管理局長ニ願出ツヘシ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ所有者ハ稅務管理局長ニ届出ツヘシ

一 有租地ヲ用惡水路、溜池、堤塘、井溝、鐵道用地、公衆ノ用ニ供スル道路、水道用地及傳染病院、隔離病舎、隔離所、消毒所ノ敷地ト爲ストキ

二 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタルトキ

三 開墾ヲ爲サムトスルトキ開墾成功シタルトキ又ハ開墾ヲ廢止シタルトキ

四 官有地ヲ開拓シ又ハ官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地付歛下年期又ハ新開免租年期ヲ請ハサルトキ

五 歛下年期明、地價据置年期明、新開免租年期明、荒地免租年期明、低價年期明ニ至リタル時六 數筆ノ土地ヲ合併シ又ハ一筆ノ土地ヲ分割セントスルトキ

前項ノ場合ニ於テ地價ノ設定又ハ修正ヲ要スルトキハ實地ノ情況ニ依リ近傍ノ類地ト其地力ヲ比較シ相當ノ地位等級ヲ見積リ土地ノ測量圖ト共ニ書面ヲ差出スヘシ

第十六條 地租ヲ納ムヘキ者其所有土地所在地ノ市區町村內ニ住所又ハ居所ヲ有セサルトキ

ハ地租ニ關スル事務ヲ管理セシムル爲其ノ市區町村內ニ住居スル者ヲ納稅管理人ト爲シ其市區町村長又ハ戶長ニ申告スヘシ

明治三十二年一月十日同局長ハ主秘第四號ヲ發シテ地價ヲ定メ又ハ之レヲ修正スルトキハ地價ハ錢位ニ止メ錢位未滿ノ端數ハ四捨五入ノ方法ニ依リ計算スルモ妨ケナキコトニ省議決定セシ旨通牒シ而シテ同年三月九日法律第五十七號ヲ公布シテ更ニ左ノ如ク定メタリ

地價ヲ定メ又ハ之ヲ修正シ若クハ土地ヲ分合スルトキ地價及地租ノ算出上壹錢未滿ノ端數ヲ出シタル場合ニ於テ五厘未滿ハ切捨テ五厘以上ハ切上ケ壹錢トシテ計算スルモノトス但シ一筆ノ地租ニシテ壹錢未滿ナルモノハ此限ニ在ラス

又明治三十一年十二月法律第三十二號ヲ以テ地租條例第一條中へ追加セラレタルニ依リ其第二項ノ取扱方ニ就キ同三十二年四月七日大藏省訓令第二十六號ヲ發セリ

地租條例第一條第二項ニ依リ明治三十二年以降五箇年間増徴スル地租額ハ市區町村地租名寄帳地租欄ニ於ケル地價百分ノ二箇年半ノ地租額ノ左傍ニ朱書シ置キ該年間ハ墨書ノ地租額ト朱書ノ地租額トヲ合計シ右ニ依リ地租徵收ノ手續ヲ爲サシムヘシ

但本文ニ依リ難キ事情アル市區町村ニ於テハ所轄稅務署長ト協議シ便宜増徴地租ノ記帳ヲ爲スモ妨ケナシ

上述ノ如ク地租條例施行規則ヲ發布シタルカ故ニ同年四月四日大藏省令第十一號ヲ以テ彙ニ發布セシ明治二十二年大藏省令第十九號地租條例施行細則及ヒ從來地租條例ノ施行ニ關シ府縣ニ於テ發シタル命令ハ以上ノ地租條例施行規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止セリ而シテ右施行規則ノ制



定アリ且明治三十二年四月十日秘第三四九號ヲ以テ稅務管理局ニ對シ地租條例施行上取扱方心得ニ關スル大藏省內訓ヲ示セシカ故ニ此內訓ト同時ニ同省訓令第二十七號ヲ發シテ明治十九年大藏省訓令第五十六號二十年同第二十五號二十二年同第六十七號第七十六號二十六年同第十六號及二十八年同第四號ヲ廢止シタリ今地租條例施行上取扱方心得ヲ示セハ左ノ如シ

地租條例施行上取扱方左ノ通心得ヘシ  
第一條 一筆ノ土地ヲ分割シテ數筆ト爲シタルトキハ當初一筆タリシトキノ番號ニ一二三四等ノ符號ヲ付シテ各筆ノ番號ト爲スモノトス但シ本番ニ符合アル土地ヲ分割スルトキハ其一筆ニハ當初ノ番號ヲ存シ他ノ各筆ニハ本番ノ符號ヲ順次増加シタル番號ヲ付スルモノトス

第二條 數筆ノ土地ヲ合併シテ一筆ト爲ストキハ合併前ノ土地番號中首位ニ在ルモノヲ以テ該地ノ番號ト爲スモノトス

第三條 土地分合ヲ爲シタル場合ニ於テ接續地ニシテ別筆ト爲シ置クヲ必要トセサルモノハ成ルヘク合併シテ一筆ト爲サシムコトニ留意スルヲ要ス

第四條 一筆ノ土地中一部分地租條例施行規則第二條各號ニ該當シタルコトニ付所有者ノ申告又ハ官廳ノ通知アルトキハ別ニ土地分割ノ申告ヲ爲サシムルニ及ハス直ニ土地ノ分割ヲ爲シ各筆ニ番號ヲ付スルモノトス

第五條 地盤ノ丈量ハ從來ノ方法ニ依テ之ヲ爲スモノトス

第六條 地盤ノ丈量ヲ要スル場合ニ於テ數筆ノ土地ヲ丈量シタル結果ニ依リ所有者ノ提出シ

タル測量圖ヲ精確ト認ムルトキハ他ノ土地ニ關シテハ丈量ノ省略シ所有者ノ測量シタル所ヲ以テ其土地ノ段別ト爲スモ妨ケナシ

第七條 地價ハ土地ノ所有ヲ審査シ尙其情況ニ應シテ之ヲ定ムヘキモノナルヲ以テ畦畔等ノ如キ所得ヲ生セサル部分多キ土地ノ地價ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ相當ノ斟酌ヲ加ヘ地價ヲシテ土地ノ所得ニ比準セシムルコトニ注意スルヲ要ス

第八條 數筆ノ土地ヲ合併シテ一筆ト爲シタルトキハ其ノ地價合計額ヲ以テ其土地ノ地價ト爲スモノトス

第九條 一筆ノ土地ヲ分割シテ數筆ト爲シタルトキハ各筆ノ地位等級ニ應シ分割前ノ地價ヲ分配シテ其ノ地價ト爲スモノトス

第十條 官有地若クハ免租地ヲ有租地トナシタルトキ又ハ有租地ヲ官有地若クハ免租地ト爲シタルトキハ別ニ賦除租ノ出願ヲ爲サシムルニ及ハス所有者ノ申告又ハ官廳ノ通知ニ依リ直チニ賦除租ノ取扱ヲ爲スモノトス

第十一條 地目變換又ハ地種變換ヲ爲シタルトキハ變換ノ年ヨリ變換地目ニ依リ其地租ヲ徵收スルモノトス但シ其年ニ係ル地租ノ一部又ハ全部ヲ納付シタル後變換ヲ爲シタルトキハ翌年ノ地租ヨリ變換地目ニ依リ之ヲ徵收スルモノトス

第十二條 地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタル後五年以內ニ於テ更ニ地目變換ヲ爲シタルトキハ前ノ變換ハ廢止シタルモノトシ其年ヨリ六年目ニ至リ再度ノ變換地目ニ對スル修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキモノナルヲ以テ當初ノ變換地目ニ對シ既ニ地價修正ヲ爲シタルモ



ノハ之ヲ取消シ再度ノ變換地目ニ對シ地價ヲ修正スルモノトス

第十三條 第二類地中ニ於テ地目ノ變換ヲ爲シタル後五年以内ニ於テ開墾ヲ爲ストキハ地目變換ハ廢止シタルモノトシ開墾著手ノ年ヨリ十年目又ハ地下年期明ニ至リ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正シテ地租ヲ徵收スヘキモノナルヲ以テ變換地目ニ對シ既ニ地價修正ヲ爲シタルモノハ之ヲ取消シ開墾成功地ノ地目ニ對シ地價ヲ修正スルモノトス

第十四條 地類變換ヲ爲シタル後五年以内ニ於テ再ヒ當初ノ地目ニ同シキ第一類地ト爲ストキハ前ノ變換ハ取消シタルモノトシ地價修正ヲ爲サル、モノナルヲ以テ既ニ地價修正ヲ爲シタルモノハ之ヲ取消スモノトス其當初ノ地目ト異リタル第一類地ト爲ストキハ地目變換ト爲ルヲ以テ第一類地ト爲シタル年ヨリ五年以内ニ地價ヲ修正シ六年目ヨリ其地價ニ依リ地租ヲ徵收スルモノトス

第十五條 一筆ノ土地内ニ於テ畦畔小池ノ類ヲ廢設スルモ地目變換、地類變換、又ハ開墾トナラサルヲ以テ變換又ハ開墾ノ手續ヲ爲スヲ要セサルモノトス

第十六條 官有地又ハ免租地ヲ有租地ト爲ストキハ其ノ地ノ狀況又ハ使用ノ目的ニ依リ地目ヲ付シ之ニ依テ地價ヲ定ムルモノトス

第十七條 地目變換又ハ開墾ニシテ許可ヲ受クルヲ要スルモノハ許可出願ヲ以テ届出ト看做スヲ以テ他官廳ニ出願スルモノ、如キハ其官廳ヨリ許可ノ通知アリタルトキハ其通知ニ依リ地目變換又ハ開墾ニ關スル取扱ヲ爲スモノトス

第十八條 荒地免租年期中又ハ低價年期中土地ノ形狀ヲ變更スルモ地目變換、地類變換又ハ開

墾トナラサルヲ以テ變換又ハ開墾ノ手續ヲ爲スヲ要セサルモノトス其ノ年期明ニ至リ荒地前ノ地目ト異リタル地目トナリタルモノハ其ノ地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正シ地租徵收ノ手續ヲ爲スモノトス

第十九條 鐵下年期地價据置年期新開免租年期ハ事業ノ難易ヲ斟酌シ目的地トシテノ地味成熟スヘキ期間ヲ計リ之ヲ定ムルモノトス

第二十一條 荒地復舊ノ場合ニ於テハ別ニ地盤ノ丈量ヲナサス原地價ニ依リ地租徵收ノ手續ヲ爲スモノトス

第二十二條 土地ノ異動ニ關シ所有者ノ申告又ハ官廳ノ通知アリタルトキハ式ニ從テ諸帳簿地圖等ヲ整理シ其實地臨檢ヲ要スルモノハ緩急ヲ量リテ實地ヲ調査シ其ノ官廳又ハ公署ニ通知ヲ要スルモノハ遲滞ナク通知ヲ爲スコトヲ要ス

第二十三條 毎年一月ニ於テ前年中ノ異動ニ係ル土地ノ段別地價地租筆數ヲ計算シ之ニ依テ前年一月一日ニ於ケル現在額ヲ加除シ其ノ年一月一日現在額ノ確否ヲ査覈スルモノトス

第二十四條 前條ニ依リ査覈シタル其ノ年一月一日現在額ハ毎年ノ初ニ於テ市町村役場又ハ戶長役場ノ設備ニ係ル地租名寄帳ノ集計額ト照合シ其ノ正確ヲ期スルモノトス

第二十五條 土地ノ異動ニ關スル事務ハ數年ニ涉リテ其ノ處理ヲ爲スヘキモノ多キヲ以テ之レカ書類帳簿ノ整頓保存ニハ特ニ注意ヲ加ヘ違算誤脱等ノコトナキヲ期スルヲ要ス  
第二十六條 地租ニ關スル書類帳簿ハ保存ニ注意シ亡失等ノコトナキヲ期スルヲ要ス其ノ保存ノ必要ナシト認ムルモノハ特ニ稟議シ許可ヲ得タル後廢却ノ手續ヲ爲スモノトス



尋テ同三十二年四月十二日大藏省訓令第五號ヲ以テ有租地ヲ公立學校地ト爲シタルトキ地方廳ノ取扱ニ就キ示シテ曰ク

有租地ヲ公立學校地ト爲シタルトキハ其都度該都市町村字地番地目段別及認可年月日等ヲ記シ圖面ヲ添ヘ所轄稅務管理局ヘ通知スヘシ

前項校地ニ變更ヲ生シタル時亦同シ

尙同月二十日大藏省訓令第三十二號ヲ發シテ地租條例第十一條ニ依リ免租地ヲ有租地ト爲ス場合ニ於ケル地方廳ノ取扱ニ就キ示スコト左ノ如シ

地方廳ニ於テ地租條例第十一條ニ依リ免租地ヲ有租地ト爲スノ許可ヲ與ヘタルトキハ其都市町村大字地番段別免租地タリシトキノ名稱目的地ノ地目許可年月日等ヲ記載シ所轄稅務管理局長ニ通知スヘシ

前記ノ地租條例施行上取扱方心得第一條ニ於テ一筆ノ土地ヲ分割シテ數筆ト爲シタルトキハ當初一筆タリシトキノ番號ニ一二三等ノ符號ヲ付シ各筆ノ番號ト爲スヘキコトヲ規定セルモ官地拂下等ニヨリテ新ニ民有地トナリタルモノニ地番ヲ付スルコトニ就テハ未タ何等ノ規定ヲ見ス而シテ從來此場合ニ行ハレタル地番附加ノ方法ニ左ノ二方法アリキ

第一方法 新規ニ地番ヲ付スル土地ニ接續スル土地ノ地番カ百番ナレハ之ヲ百番ノ一トシ而シテ新規ニ地番ヲ付スル土地ヲ百番ノ二トス即チ普通ノ分裂地ノ例ニ依ル

第二方法 新規ニ地番ヲ付スル土地ノ所在スル大字若クハ小字(改租ノ際小字毎ニ一番ヨリ)ノ最終地番號ヲ追ヒ最終地番百番ナレハ新規ニ地番ヲ付スル土地ヲ百一番トス

如上ノ方法ニ付キ第一方法ヲ用ユルトキハ悉ク其ノ隣接地ノ地番ニ依ルカ故ニ正シク地順ノ番號トナリ他日總テノ土地ヲ處理スルニ當リ錯雜ヲ生スルコト少シ之ニ反シテ第二方法ヲ用ユルトキハ例ヘハ周圍若クハ其字中何レモ百番ノ地番ナルニ獨リ其土地ノミ千番以上ノ地番ヲ付スルニ至ルヲ以テ地順ニ番號ヲ付スルノ旨趣ニ反スルノミナラス錯雜ノ嫌ヲ免レサルナリ然レトモ第一方法ニ依ルトキハ新規ニ番號附加ノ土地ヲ生シタル爲メ其接續地ノ地番ヲ更正セサル可ラス(何番ノ一ト加)此ノ如ク本地ハ何等ノ異動ナキニ拘ラス地番ヲ變更スルハ少シク穩當ナラサルカ如シ加之凡ソ土地ニ係ル事柄ハ後年ニ至リ其沿革ヲ概ク知り得ヘキ様ニ處理シ置クヲ以テ便宜トナス然ルニ第一方法ノ如クスレハ他日之ヲ見ルモ分筆シタル土地ト新ニ地番ヲ付シタル土地トノ區分判明セス却テ處理上ノ不便ヲ感スルニ至ルヘク殊ニ地番ノ如キハ畢竟其地ノ符號ニ過キササルヲ以テ假令番號混淆スルモ之カ爲メ何等ノ支障アルヲ見ス依テ新規ニ地番ヲ付スルノ土地ハ自今第二方法ヲ採用スルコトニ一定シ明治三十二年十一月四日同省内訓第二二二一號ヲ發シテ前記地租條例施行上取扱心得第二條ニ左ノ如ク追加セリ

第二條ノ二 官地拂下地若クハ海面埋立地等新タニ地番ヲ付スヘキ土地ヲ生シタルトキハ其地番ハ當該大字小字毎ニ別番ヲ付シアル地方ハ其小字ノ最終番ヲ追ヒ其次番ヲ付スルモノトス

又明治三十二年四月十八日大藏省訓令第三十二號ヲ以テ租稅測定及ヒ月割賦課免除額算定方ニ關スル心得ヲ示セリ

一 租稅月割免除額ヲ算出スルニハ全年ノ稅額ニ免除スヘキ月數ヲ乘シ之ヲ十二分スルモノ



トス

二 租稅月割賦課額ヲ算出スルニハ全年ノ稅額ニ賦課スヘキ月數ヲ乘シ之ヲ十二分スルモノトス

三 月割ヲ以テ徵收スヘキ稅額ハ各法定納期ニ平分シ調定スルモノトス

四 租稅各納期分配上厘位未滿ノ端數ニシテ五毛以上ナルトキハ之ヲ一厘ニ切上ケ五毛未滿ナルトキハ之ヲ切捨テ納期ニ至リ總額ヨリ既納額ヲ控除シ其殘數ヲ調定スルモノトス

明治三十三年一月二十四日主稅局長ハ坤第四八三號ヲ以テ上地竝ニ下渡地等ノ賦除租ニ關スル取扱方ヲ通牒セリ

一 上地又ハ寄附地ニ對シテハ其上地又ハ寄附以後ノ納期ニ屬スル分ヨリ除租スヘキモノトス

一 下渡地ノ地租ハ地價設定ヲ爲シタル以後ノ納期ニ屬スル分ヨリ徵收スルモノトス  
越ヘテ同三十三年一月二十四日ニ至リ主稅局長ハ坤第四八三號ヲ以テ年期地荒地成竝ニ年期明他地目起返等ノ取扱方ヲ定メ之ヲ通牒スルコト左ノ如シ

開墾地又ハ開拓地ニシテ墾下年期中荒地トナリタルトキハ前ノ開墾又ハ開拓ハ消滅シタルモノトシ荒地免租年期明ニ至リ他地目ニ起返リタルトキハ地租條例第二十二條末段ニ依リ處分スヘキモノトス

開墾若クハ開拓ノ墾下年期新開免租年期地價据置年期及ヒ開墾地開拓地新開地等ノ諸年期ニ付テハ地租條例ニ於テ未タ盡サ、ル所アルヲ以テ相當ノ規定ヲ設クル必要アリ仍テ明治三十四年

四月十二日法律第三十號及法律第三十一號ヲ以テ左ノ如ク規定セリ

法律第三十號 (明治三十四年四月十二日)

地租條例ニ依リ墾下年期新開免租年期又ハ地價据置年期ノ許可ヲ得タル土地ニシテ年期明ニ至リ事業成功又ハ地味成熟ニ至ラサルモノニ對シテハ更ニ年期ノ延長ヲ許可スルコトヲ得但シ開墾墾下年期及地價据置年期ノ土地ニ付テハ通シテ五十年開拓墾下年期ノ土地ニ付テハ通シテ三十年新開免租年期ノ土地ニ付テハ通シテ七十年ヲ超ユルコトヲ得ス

附則

本法ハ本法施行前既ニ年期明トナリタル土地ニシテ未タ地價ノ設定又ハ修正ナキモノニモ之ヲ適用ス

地租條例第十八條ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

法律第三十一號 (明治三十四年四月十二日)

開墾著手後九年ヲ經過セサル土地又ハ墾下年期新開免租年期若クハ地價据置年期ヲ土地ニ對シ荒地免租年期又ハ低價年期ヲ許可シタルトキハ其ノ期間ハ地租條例第十六條第二項ノ十年中ニ又ハ墾下年期新開免租年期若クハ地價据置年期中ニ算入セス

附則

本法ハ開墾著手後九年以內ニ又ハ墾下年期新開免租年期若クハ地價据置年期中ニ荒地免租年期又ハ低價年期ノ許可ヲ受ケ其年期明ニ至リ未タ地價ノ設定又ハ修正ヲ爲サ、ルモノニモ之ヲ適用ス



### 第二 地租ノ免除

凡ソ地租ハ之ヲ課スル場合ト否ラサル場合トアリテ地租ヲ免スル場合ハ更ニ細別シテ有期無期ノ二トナスヲ得然リ而シテ開墾荒地等ニ由ル有期免租ニ就テハ既ニ前ニ之ヲ述ヘタリ又地震洪水害蟲及降雹等特殊ノ災害ノ爲メ特ニ地租ヲ免スル場合ニ關シテハ後段ニ之ヲ詳ニスヘシ仍テ此ニハ主トシテ無期免租ニ付テ説ク所アラントス

明治十七年地租條例ヲ定ムルヤ第四條ニ於テ地租ヲ免スル土地ヲ列舉シテ公立學校地鄉村社地墳墓地用惡水路溜池堤塘井溝及道路ノ八種トセシカ後明治二十二年地租條例中ニ改正ヲ加フルニ及ヒ鐵道用地禁伐林ノ二者ヲ加ヘタリ而シテ此他地租ノ免除ニ關スル規程ヲ見ルニ明治十九年四月九日勅令第十六號ヲ以テ諸學校通則ヲ公布セラレ其第五條ニ於テ公立學校ノ用地ハ免稅タルヘシト規定セラレタリ然ルニ公立學校地ノ地租ハ地租條例第十三條ニ依リ許可ヲ得シ月分ヨリ月割ヲ以テ免租スルノ明文アルニ拘ラス取締上校舍建築著手ノ月ヨリ免租スヘシト指令セシカ其後青森縣知事ノ稟議ニ對シ前議ヲ繼シテ條例ノ明文ニ基キ其許可ヲ得シ月ヨリ免租スヘキ指令ヲ與ヘタリ是ヲ以テ各府縣ノ取扱方ヲ統一スル爲メ同年八月二十日大藏大臣ハ達第八四七號ヲ發セリ

公立學校地免租ノ義ハ校舍建築著手ノ月分ヨリ處分スヘキ旨及指令置候向モ有之候處右ハ學校敷地トシテ許可ヲ與ヘシ月分ヨリ月割ヲ以テ免租スルヲ正當トス然ルニ往々工事ノ著手ヲ緩慢ニシ私ニ收利ヲ圖ルモノモ有之趣ニ付テハ自今許可ヲ與フル場合ニ於テハ其願書ニ工事

著手ノ年月日ヲ記載セシメ事實ヲ確認シタル上其處分ヲ爲スヘシ

地租條例第四條ニヨレハ鐵道用地ハ地租ヲ免スルモノトス依テ明治二十年五月勅令第十二號ヲ以テ私設鐵道條例ヲ定ムルヤ其第八條ニ於テ之ヲ規定セリ

第八條 左ニ記載スルモノヲ以テ鐵道用地トス

第一 線路ニ當ル敷地但其幅員ハ築堤切取架橋等工事ノ必要ニ應シテ定ムルモノトス

第二 停車場及之ニ附屬スル車庫貨物庫等ノ建築用ニ供スル土地

第三 前項ノ構内ニ常住ヲ要スル驛長車長及機關方等ノ家宅番人小屋等ノ建築用ニ供スル土地

第四 鐵道布設又ハ運輸ニ要スル車輛器具ヲ製作修繕スル器械及同上ノ資料器具貯藏スル倉庫建築用ニ供スル線路ニ沿ヒタル土地

而シテ明治三十三年三月法律第六十四號ヲ以テ右條例ヲ廢止シ新ニ私設鐵道法ヲ公布スルニ及ヒテモ大要右規定ト異ナル所ナシ

第四十一條 左ニ掲クルモノヲ以テ鐵道用地トス

一 線路用地

二 停車場信號費及車庫貨物庫等ノ建設ニ要スル土地

三 鐵道構内ニ職務上常住ヲ要スル鐵道員ノ舍宅及運輸保線ニ從事スル鐵道員ノ駐在所等ノ建設ニ要スル土地

四 鐵道ニ要スル車輛器具ヲ修理製作スル工場及其資材器具ヲ貯藏スル倉庫ノ建設ニ要ス



ル線路ニ沿ヒタル土地

線路用地ノ幅員ハ築堤、切取、架橋等工事ノ必要ニ應シ工事方法書ニ依リ之ヲ定ム  
又明治二十三年二月十三日法律第九號ヲ公布シ水道條例ヲ規定シ水道用地ハ免稅トセリ今同條  
例中關係アル箇條ヲ抄録セン

第一條 水道トハ市町村ノ住民ノ需要ニ應シ給水ノ目的ヲ以テ布設スル水道ヲ云ヒ水道用地  
トハ水源貯水地、唧水場及水道線路ニ要スル地ヲ云フ

第五條 水道用地ハ國稅地方稅ヲ免除ス

同三十年三月二十七日法律第二十九號ヲ以テ砂防法ヲ制定セラレ同法第十一條ニ於テ第二條ニ  
掲クル土地ハ勅令ノ定ムル所ニ隨ヒ地租其他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得トセリ乃チ同法中其關  
係ノ條文ヲ摘録セン

第二條 砂防設備ヲ要スル土地又ハ此法律ニ依リ治水上砂防ノ爲メ一定ノ行爲ヲ禁止若クハ  
制限スヘキ土地ハ主務大臣之ヲ指定ス

第十一條 第二條ニ依リ主務大臣ノ指定シタル土地ニ對シテハ勅令ノ定ムル所ニ從ヒ地租其  
他ノ公課ヲ減免スルコトヲ得

第四十七條 此法律ハ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

尋テ同年四月六日法律第四十六號ヲ以テ森林法ヲ公布セラレシカ今同法律中地租ニ關係スル條  
文ヲ抄録スレハ乃チ左ノ如シ

森林法

第一條 此ノ法律ニ於テ森林ト稱スルハ御料林、部分林、社寺林及私有林ヲ謂フ

第二條 原野、山嶽其他ノ土地ニシテ第八條第一乃至第五ニ該當スルモノハ森林ニ準シテ此法  
律ヲ適用ス

第三條 公有林及社寺林ニシテ其經濟ノ保納ヲ損シ又ハ荒廢スルノ虞アルトキハ主務大臣ニ  
於テ營林ノ方法ヲ指定スヘシ

第四條 前條指定ノ方法ニ背キ伐木ヲ爲シタル者ニハ主務大臣ハ其伐採ヲ停止シ伐木跡地ニ  
造林ヲ命スルコトヲ得

第五條 前條ノ造林ヲ怠ル者アルトキハ政府ニ於テ之ヲ行ヒ其費用ヲ徵收シ又ハ其造林ニ係  
ル部分ヲ部分林ト爲スコトヲ得

第六條 森林ヲ開墾セントスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 國土保安ニ危害ノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ豫メ其箇所ヲ指定シ森林ノ開墾  
ヲ禁止スルコトヲ得

第八條 森林ニシテ左ニ列記スル箇所ニ在ルモノハ保安林ニ編入スルコトヲ得

- 一 土砂崩塌流出ノ防備ニ必要ナル箇所
- 二 飛砂ノ防備ニ必要ナル箇所
- 三 水害、風害、潮害ノ防備ニ必要ナル箇所
- 四 積雪、墜石ノ危險ヲ防止スルニ必要ナル箇所



五 水源ノ涵養ニ必要ナル箇所

六 魚附ニ必要ナル箇所

七 航行ノ目標ニ必要ナル箇所

八 公衆ノ衛生ニ必要ナル箇所

九 社寺名所又ハ舊跡ノ風致ニ必要ナル箇所

第十三條 保安林ニ編入ノ爲メ地方森林會ノ會議ニ付セムトスル森林ハ前條告示ノ日ヨリ決定日マテ其立木ノ伐採土石切芝ノ採取樹根ノ採掘及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 保安林ニ於テハ皆伐及開墾ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 主務大臣ハ保安林ニ關シ其森林ノ所有者ニ營林及保護ノ方法ヲ指定シ且其使用收益ヲ制限スルコトヲ得

第二十三條 主務大臣ハ保安林又ハ開墾禁止ノ森林ヲ開墾シタル者ニ對シ復舊ノ造林ヲ命スルコトヲ得

第二十八條 保安林ニ編入セラレタル森林ハ地租及公課ヲ免ス

第三十條 從來ノ禁伐林風致林又ハ伐木停止林ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ保安林トシ其森林ニ對スル從來ノ制限ハ仍其效力ヲ有ス

第四十五條 第六條ノ許可ヲ得スシテ森林ヲ開墾シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス保安林又ハ開墾禁止ノ森林ニ係ルトキハ罰金ノ外仍十一日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ス

第四十七條 第十三條又ハ第二十條ニ違背シタル者ハ參圓以上參拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十二條 此ノ法律ニ於テ開墾ト稱スルハ燒畑切替畑及地目變換ヲ包含ス

第五十五條 森林ニシテ此ノ法律發布以前ヨリ無立木トナリ又ハ荒廢ニ屬スルモノハ主務大臣ニ於テ期限ヲ定メ造林ヲ命スルコトヲ得其造林ヲ怠ル場合ニ於テハ第五條ノ規程ヲ適用ス

第五十六條 前條ニ依リ造林ヲ命セラレタル森林ハ其造林シタル部分ニ限り翌年ヨリ二十五箇年以内地租及公課ヲ免スルコトヲ得

第五十七條 北海道沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ノ森林ニ就テハ保安林ニ關スル規程ニ限リ此ノ法律ヲ適用ス

第五十八條 此ノ法律ハ明治三十一年一月一日ヨリ施行ス

明治三十一年六月八日法律第四號ヲ發布シテ傳染病院隔離病舎等ノ敷地ノ地租ヲ免除スルコトトセリ蓋シ傳染病院等ハ公益上ノ必要ニ依リ法律カ市町村ニ強制シテ設置セシムルモノナレハナリ

明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法ニ依ル常設ノ傳染病院隔離病舎隔離所及消毒所ノ敷地ニシテ設立者ノ所有ニ係ル者ハ工事著手ノ月ヨリ使用廢止ノ月迄月割ヲ以テ其地租ヲ免ス又同年十一月二十二日大藏省令第十八號ヲ發シテ森林法第五十六條ニ依リ造林地ノ地租免除ヲ請ハントスル者ハ其旨ヲ所轄稅務管理局ニ願出テシメ更ニ此ノ省令ト同時ニ同省訓令第七十三號ヲ以テ之ニ對スル免租ノ處分手續ヲ規定セリ

明治三十年法律第四十六號森林法第五十六條ニ依リ造林地ノ地租免除ヲ出願シタルモノアル



トキハ地方廳ト協議シ相當免租年期ヲ定メ之カ許可ヲ與フヘシ但許可ノ上ハ免租年期及段別  
 ヲ地方廳ニ通知スヘシ  
 茲ニ於テ同年十二月二十八日農商務省訓令第四十四號ヲ以テ右地ニ對スル免租ノ取扱方ヲ定メ  
 之ヲ各府縣ニ示スコト左ノ如シ

森林法第五十六條ノ造林地免租ニ關シテハ左項ニ據リ取扱フヘシ  
 府縣知事ハ大藏省訓令第七十三號ニ依リ造林地免租ノ協議ヲ受ケタルトキハ左ノ標準ニ依リ  
 尙ホ造林ノ難易地味ノ良否等ヲ斟酌シテ免租年期ヲ査定スヘシ

- 一 喬林及中林ヲ任立ツル目的ヲ以テ植樹シタルモノハ十箇年以上二十五箇年以内
  - 二 矮林ヲ任立ツル目的ヲ以テ植樹シタルモノハ十箇年以内
  - 二 府縣知事ハ造林地免租許可地ノ林種面積等左表ノ例ニ依リ毎年末ノ合計ヲ翌年三月末  
 日限リ本省ニ報告スヘシ
- 明治何年中許可

造林地免租報告表			
地目	林種	面積	免租年期
森林	喬林及中林		
	矮林		

原野山岳等		喬林及中林	矮林
合計			
備考 本表ハ森林原野等其名簿 ナル毎ニ別表トスヘシ			

又明治三十年法律第二十九號ヲ以テ砂防法ヲ公布シテ同法第十一條ニ於テ第二條ニ掲クル土地  
 ハ其地租及ヒ公課ヲ減免スルヲ得ト規定セシヲ以テ同三十二年八月勅令第三百七十四號ヲ發シ  
 更ニ詳細ナル規定ヲ設ケタリ

- 第一條 砂防法ニ依リ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ對シテハ其所有者ノ申請ニ依  
 リ地租ヲ免除又ハ輕減スルコトヲ得
- 第二條 前條ニ依リ地租ヲ免除シタル土地ニ對シテハ地租以外ノ公課ヲ免除シ其地租ヲ輕減  
 シタル土地ニ對シテハ同一ノ割合ヲ以テ地租以外ノ公課ヲ輕減ス
- 第三條 本令ニ依ル地租其他ノ公課ノ免除又ハ輕減ノ期間ハ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限ヲ解  
 キタル月迄トス
- 第四條 本令ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ受ケントスル者ハ一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限セラ  
 レタル日ヨリ三十日以内ニ稅務管理局長ニ申請スヘシ
- 第五條 本令施行前一定ノ行爲ヲ禁止又ハ制限シタル土地ニ付テハ第三條ノ期間ハ此ノ勅令  
 施行ノ月第四條ノ期間ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス



之ニ依テ翌九月四日大藏省訓令第六十二號ヲ發シ更ニ右規定第四條ニ基ク地租ノ免減ニ係ル取扱方ヲ示セリ

明治三十二年勅令第三百七十四號第四條ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ申請シタルモノアルトキハ地方廳ト協議シ禁止又ハ制限セラレタル行為ノ程度ニ依リ地租ノ免除又ハ輕減ヲ決定シ輕減スヘキモノハ其割合ヲ定メ之カ許可ノ手續ヲ爲スヘシ

此ノ如ク地方廳ト協議スルコト、セシヲ以テ尙同月十三日內務省訓令第八百四十五號ヲ以テ其旨ヲ各府縣ニ示セリ

明治三十二年勅令第三百七十四號ニ依レル地租ノ免除又ハ輕減ニ關シ稅務管理局長ヨリ協議アリタルトキハ其協議ニ應シ處分上ノ便宜ヲ與フヘシ

又同三十三年二月二十四日法律第十九號ヲ公布シテ府縣其他ノ公共團體ノ所有地ヲ公用ニ供スル場合ニハ地租及公課ヲ免除スヘキ旨ヲ規定セリ

府縣都市町村其他之ニ準スヘキ公共團體ノ所有地ニシテ其公用ニ供スルモノハ公用ニ供シタル年ノ翌年ヨリ公用廢止ノ年マテ地租及公課ヲ免ス

附 則

本條ハ明治三十三年分地租及公課ヨリ適用ス

第三 土地ノ整理

耕地一筆ノ面積ハ概ネ狹窄ニシテ稼穡ノ不便ヲ免レス輓近之レカ改良ヲ圖リ無用ノ畦畔ヲ除去

シ屈曲ノ徑路ヲ矯正スル等大ニ其區劃形狀ヲ變更スルノ事業漸ク興起セシヲ以テ茲ニ地租條例第十六條中ニ地價據置年期ヲ附與スルノ途ヲ開キ土地ノ改良ヲ獎勵シ以テ農事ノ發達ヲ期セシモ尙未タ其效果ノ普及ヲ觀ル能ハサルノ情況アルカ故ニ其取扱上便宜ノ方法ヲ設クルノ必要ヲ認メ明治三十年三月三十日法律第三十九號ヲ公布セリ

政府ノ許可ヲ受ケ土地改良ノ爲メ市町村内ノ土地所有者ヲ全部又ハ一部共同シテ其區劃形狀ヲ變更スルトキハ其變更ニ係ル土地ノ地價ハ現地價ノ合計額ヲ每筆相當ニ配賦シテ之ヲ定ム同一土地所有者ニシテ地續數筆ノ土地ノ區劃形狀ヲ變更スルトキ亦同シ

此ノ如ク土地區劃改正ノ法律ヲ制定セラレシヲ以テ同年十一月六日大藏省令第十九號及ヒ大藏省訓令第七十號ヲ發シテ之ニ關スル取扱方ヲ規定セリ

大藏省令第十九號 (明治三十年十一月六日)

明治三十年法律第三十九號ニ依リ土地改良ノ爲メ區劃形狀ノ變更ヲ爲サントスル者ハ設計書現地圖及變更豫定圖ヲ添付シ所轄稅務管理局長ニ願出ツヘシ但出願地中ニ官有地又ハ民有地第二種地ヲ包含シ之レカ異動ニ付官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其異動ニ付豫メ主管廳ノ許可ヲ受ケ其指令書ヲモ添付スヘシ

前項ニ依リ許可ヲ得タル事業竣功シタルトキハ地價ノ配賦ヲ受クル爲メ各筆ノ區域ヲ豫定シ其假定地價ヲ記載シタル書面ニ地圖野取圖ヲ添付シ所轄稅務管理局長ニ届出ツヘシ

大藏省訓令 第七十號

一 本年法律第三十九號ニ依リ土地改良ノ爲メ區劃形狀ノ變更ニ付意願シタルモノアルトキ



ハ地方廳ト協議シ支障ナキヲ認メタル上許可ヲ與フヘシ

一 事業竣工ノ届出ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ヲシテ實地検査ノ上地價ノ配付及土地臺帳整理ノ手續ヲ爲サシムヘシ

一 改良地ハ臺帳ニ用紙ヲ挿入シ式ノ如ク記載ノ上之ニ對スル從來ノ每筆ハ其沿革ノ欄ヘ年月日及異動ノ理由ヲ記載シ斜線ヲ施スヘシ

一 改良地ノ地番ハ順次從來ノ地番ヲ用キ其不用ニ歸シタルモノハ缺番トシ不足アルモノハ最終ノ地番ノ内一二三等ト爲スヘシ

一 改良地區域内ニ荒地免租年期中ノ土地ヲ包含スルトキハ其全部ナルト部分ナルトニ依リ臺帳面記載方ハ全部荒地又ハ部分荒地ノ例ニ依ルヘシ

一 改良區域内ニ低價年期中ノ土地ヲ包含スルトキハ臺帳面初欄ニ原地價ヲ合算シタルモノヲ掲ケテ斜線ヲ施シ次欄ヘ低價合筆ノ分ヲ記載シ置年期明ニ至レハ普通低價年期明ノ例ニ依テ整理スヘシ

一 免租年期中又ハ低價年期中ノ土地ニシテ改良ノ結果二筆以上ニ分屬スルコト、ナリタルトキハ關係地主ノ定ムル所ニ依リ免租ト爲ルヘキ地又ハ低價ノ地價地租ヲ各改良地ニ配當シテ處分スヘシ

然ルニ前述セシ所ノ法律第三十九號ハ尙未タ不備ノ點アリシヲ以テ更ニ同三十三年三月十五日法律第六十二號ヲ公布シテ前記明治三十年法律第三十九號ニ左ノ一項ヲ加ヘ土地改良ノタメ區劃形狀ヲ變更スルニ際シ地價ヲ配賦スル方法ヲ定メタリ

前二項ニ依リ政府ノ許可ヲ受ケタル土地中地目若クハ地類變換後五年開墾著手後九年ヲ經過セサルモノ又ハ鐵下年期新開免租年期中地價据置年期荒地免租年期若クハ低價年期ヲ有スルモノアルトキハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依ル

一 地目變換地ニシテ地價ノ修正ナキモノ地類變換若クハ開墾ヲ爲シタル土地又ハ鐵下年期新開免租年期若クハ地價据置年期ヲ有スル土地ハ事業著手ノ際其地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正シ又ハ地價ヲ設定ス

二 第一號ニ依リ地價ヲ修正シ又ハ地價ヲ設定シタル土地ニ付テハ變換後六年目開墾著手後十年目若クハ年期明ニ至リ修正地價又ハ設定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但事業竣工ニ至リタルトキハ此ノ限ニ在ラス

三 事業竣工ニ至リタルトキハ第一號ニ記載シタル土地及地目變換地ニシテ地價ノ修正アリタルモノニ付テハ修正地價又ハ設定地價ヲ以テ荒地免租年期又ハ低價年期ヲ有スル土地ニ付テハ原地價ヲ以テ第一項ニ規定スル地價トス

四 第一項ニ依リ地價ヲ定メタル場合ニ於テ第三號ニ依リ修正地價設定地價又ハ原地價ヲ以テ第一項ノ原地價トシタル土地ニシテ事業竣工ノ時變換後五年開墾著手後九年ヲ經過セサルモノ又ハ年期ノ終了セサルモノアルトキハ事業關係者ハ其協議ヲ以テ殘年間修正地租若クハ低減地租ト從前ノ地租若クハ原地租トノ差額ノ負擔若クハ利益又ハ免除スヘキ地租額ノ利益ヲ受クヘキ土地及金額ヲ加除シテ其土地ノ地租ヲ納ムヘシ協議一致セサルトキハ政府ニ於テ之ヲ定ム



前掲法律ノ追加ト共ニ明治三十年大藏省令第十九號中追加改正ヲ要シ明法三十三年三月三十日大藏省令第八號ヲ以テ左ノ如ク改メタリ

第一項中區劃形狀ノ變更ヲ爲サントスル者ハ下ニ事業著手ノ時期ヲ定メラ挿入ス  
第二項ニ左ノ但書ヲ追加ス

但改良地區域内ニ地目又ハ地類變換後五年開墾著手後九年ヲ經過セサル土地若クハ墾下年期新開免租年期地價据置年期荒地免租年期又ハ低價年期ノ終了セサル土地アル時ハ殘年間に修正地租若クハ低減地租ト從前ノ地租若クハ原地租トノ差額ノ負擔若クハ利益又ハ免除スヘキ地租額ノ利益ヲ受クヘキ土地及其土地ニ對スル金額ヲ定メテ併セ届出ツルコトヲ要ス  
更ニ同年四月五日大藏省訓令第二十號ヲ發シ土地區劃改良ニ係ル地價取扱手續ナルモノヲ規定シ而シテ曩ニ發布セシ明治三十年大藏省訓令第七十號ヲ廢止スルコト、セリ

土地區劃改良ニ係ル地價取扱手續

- 一 明治三十年法律第三十九號ニ依リ土地改良ノ爲メ區劃形狀ノ變更ニ付出願シタル者アルトキハ地方廳ト協議シ支障ナキヲ認メタル上許可ヲ與フヘシ
- 二 改良地域内ニ變換地開墾地又ハ年期ヲ有スル土地アリ事業著手ノ際其地價ノ修正又ハ設定ヲ要スルトキハ事業著手前所轄稅務署ハ實地檢査ノ上毎筆地價ノ修正若クハ設定ヲ爲シ土地臺帳整理ノ手續ヲ爲スヘシ但土地臺帳沿革欄ニハ明治三十年法律第三十九號ニ依リ地價ノ修正又ハ設定ヲ爲シタル旨ヲ記入スヘシ
- 三 事業竣功ノ届出アリタルトキハ所轄稅務署ヲシテ實地檢査ノ上毎筆ノ區域ヲ定メ地番ヲ

付シ毎筆相當地價配賦ノ手續ヲ爲サシムヘシ

- 四 改良地ノ一筆從前ノ土地二筆以上ヲ包含シ又ハ從前ノ土地二筆以上ノ各部分ヲ包含スルトキハ其地番ハ適宜從前ノ土地中其一ノ地番ヲ用ユヘシ  
改良地ノ一筆從前ノ土地一筆ノ部分ニ該當スルトキハ其地番ハ從前ノ土地ノ地番ヲ用キ又ハ其地番ニ一、二、三等ノ符號ヲ付シタルモノヲ用ユヘシ
- 五 明治三十年法律第三十九號第三項第四號ニ依リ事業關係者ニ於テ負擔又ハ利益ヲ受クヘキ土地及其金額ヲ定ムルコトニ付協議一致セサルトキハ稅務署ヲシテ實地ノ狀況ヲ觀察セシメ其報告ヲ斟酌シ稅務管理局長ニ於テ公平適實ニ之ヲ定ムヘシ
- 六 改良地ニ關シ土地臺帳ノ登記ヲ爲ストキハ改良地ノ地番ト同一地番ヲ有スル從前ノ土地ニ對スル用紙中ノ沿革欄ニ年月日及土地改良ノ爲メ次欄ニ改記スル旨ヲ記載シテ斜線ヲ施シ次欄ニ於テ改良地ノ地目、段別、地價、地租所有者等ヲ記入シ其沿革欄ニ其包含スル從前ノ土地ノ地番ヲ掲テ沿革ヲ明ニスヘシ從前ノ土地ノ番號ニシテ改良地ノ地番ト同一ナラサル者アル時ハ其沿革欄ニ年月日及土地改良ノ爲メ異動ヲ生シタル理由ヲ記載シ斜線ヲ施スヘシ
- 七 前項ニ依リ改良地ヲ土地臺帳ニ登記シタル場合ニ於テ變換ノ後五年間開墾著手ノ後九年ヲ經過セサルモノ又ハ各種ノ年期ヲ有スル土地ニシテ其年期終了セサルモノアルトキハ地目變換地臺帳、荒地臺帳等ニ於ケル當該土地ノ事故欄ニ土地改良竣功ノ爲メ變換又ハ年期消滅ノ旨ヲ記入シテ斜線ヲ施スヘシ
- 八 明治三十年法律第三十九號第三項第四號ニ依リ負擔又ハ利益ヲ受クヘキ土地及ヒ其金額



ノ定マリタルモノハ土地臺帳ニ於ケル其土地ノ沿革欄ニ其負擔又ハ利益ヲ受クヘキ期間及其金額竝ニ其金額ト地租額トノ合計又ハ差額ヲ記載シ其期間ハ之ニ依リテ地租ノ徵收ヲ爲スヘシ

九 明治三十年法律第三十九號第三項第四號ニ依リ一定ノ年期間負擔又ハ利益ヲ受クヘキ土地ニ付テハ地目變換地臺帳又ハ荒地臺帳ニ準シテ帳簿ヲ調製シ取扱上ノ便ヲ謀ルヘシ

十 明治三十年法律第三十九號第三項第四號ニ依リ一定ノ年期間負擔又ハ利益ヲ受クヘキ土地ニ付第六項第八項ニ依リ土地臺帳ノ整理ヲ爲シタル時及年期限滿了ノ時ニ於テ有租地集計簿ノ加除増減ヲ整理スヘシ

是ヨリ先キ同三十二年三月二十日耕地ヲ整理シテ土地ノ改良ヲ圖リ以テ其利用ヲ増進センカ爲メ法律第八十二號ヲ發布シテ耕地整理法ヲ制定セリ

耕地整理法

第一章 總 則

第一條 本法ニ於テ耕地整理ト稱スルハ耕地ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ其所有者共同シテ土地ノ交換若クハ分合區劃形狀ノ變更及道路畦畔若クハ溝渠ノ變更廢置ヲ行フヲ謂フ

第二條 第五條第九條第十條第十二條乃至第十六條第二十六條第三十條乃至第三十二條及第五十一條ノ規定ハ一人ニシテ其所有地ノ整理ヲ施行スル場合ニ之ヲ準用ス

第三條 耕地ニシテ特別ノ價值用途アル土地及耕地ニアラサル土地ハ其所有者ノ同意アルニアラサレハ之ヲ整理區ニ編入スルコトヲ得ス

前項ノ土地ニシテ其所有者ノ同意ナキト雖モ整理ノ施行ニ必要ナルトキハ其全部又ハ一部ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得

但府縣郡市町村其他公共團體ノ公用ニ供スル土地宅地名勝地舊蹟地古墳墓地社寺院內地、鐵道用地及軌道用地ハ此限ニ在ラス

第四條 建物アル宅地又ハ鐵道用地ハ其建物ノ所有者及登記ヲ爲シタル第三權利者ノ同意アルニアラサレハ之ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得ス

第五條 御料地國有地又ハ官ノ用ニ供スル土地ハ主務官廳ノ認許アルニアラサレハ之ヲ整理地區ニ編入スルコトヲ得ス

第六條 整理施行ヲ發起セントスル者又ハ整理委員ハ市町村長ノ證明ヲ得テ整理地區ヲ管轄スル登記所土地臺帳所管廳又ハ市役所町村役場ニ對シ無償ニテ整理ニ必要ナル簿書ノ閱覽又ハ謄寫ヲ求ムルコトヲ得

第七條 參加土地所有者ハ整理施行中其土地ヲ利用スルコト能ハサルモ補償ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス但シ整理施行ノ爲溝渠堤防又ハ道路ノ敷地ニ充テタル土地ニ付テハ規約ヲ以テ補償ノ規程ヲ設クルコトヲ得

第八條 整理施行ノ爲必要アルトキハ整理地區内ノ工作物木石等ヲ移轉シ又ハ破壊スルコト得但之レニ依テ生シタル損害ヲ賠償スヘシ

第九條 整理地區ニ編入シタル土地ヲ讓受ケタル者ハ整理ニ關シテ其讓渡人ノ有スル一切ノ權利義務ヲ承繼ス



第十條 整理施行ノ爲國有ニ屬スル溝渠堤塘道路等ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタル場合ニ於テ其ノ不用ニ歸シタル土地ハ無償ニテ之ヲ參加土地所有者ニ交付ス整理地區内ニ開設シタル溝渠堤塘道路等ニシテ前項ノ規定ニ依リテ廢止シタルモノニ代ルヘキモノハ無償ニテ之ヲ國有地ニ編入ス

第十一條 參加土地所有者ニハ從前ノ土地ノ地目面積等位等ヲ標準トシ換地ヲ交付スヘシ但シ地目面積等位等ヲ以テ相殺ヲナスコト能ハサル場合ニ於テ從前ノ土地ト換地トノ價額ノ差ハ金錢ヲ以テ之ヲ清算ス

第十二條 整理地區ニ市町村以上ニ涉ル場合ニ於テ換地トシテ交付スル一筆ノ土地ハ二市町村以上ニ涉ルコトヲ得ス

第十三條 整理施行中土地ノ區別形狀ノ變更及道路畦畔若クハ溝渠等ノ變更廢置ハ地目變換又ハ開墾ト看做サス

第十四條 整理地區ニ編入シタル土地ノ地租ハ其地區ノ全部ニ付土地臺帳ノ整理ヲ完了スルマテ從前ノ地域地目地價ニ依リテ之ヲ徵收ス

第十五條 整理ヲ施行シタル土地ノ地價ハ明治三十年法律第三十九號ノ規定ニ依リテ之ヲ定ム

第二章 發起及監督

第二十條 整理施行ヲ發起スルニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一 整理地區内ニ於ケル土地所有者ノ三分二以上ノ同意アルトキ

二 整理地區内ニ於テ同意者ノ所有スル土地ノ面積整理地區ノ總面積ノ三分ノ二以上ナルコト

三 整理地區内ニ於テ同意者ノ所有スル土地ノ地價額整理地區ノ地價總額ノ三分ノ二以上ナルコト

第七十條 整理地區ニ編入シタル土地ノ登記ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

依テ同年十二月二十六日農商務省令第三十號ヲ以テ右耕地整理法ノ施行規則ヲ規定シタリ今同施行規則中地租ニ關係アル箇條ヲ掲ケレハ則チ左ノ如シ

第九條 耕地整理法第二十條第一項第三號ノ整理地區ノ地價額ヲ計算スル場合ニ於テ整理地區内ニ地類若クハ地目ノ變換ヲ爲シタル土地又ハ開墾地其他地價ヲ付セサル土地アルトキハ發起人ハ其現況ニ依リ整理地區内ノ土地ノ地價ヲ參酌シテ相當ノ價格ヲ評定スヘシ發起人カ前項ノ規定ニ依リ價格ヲ評定シタルトキハ其價額及ヒ其評定ノ標準ヲ創業總會ニ報告シテ其承認ヲ求ムヘシ

第十八條 整理地區及ヒ之ニ隣接スル土地ノ現形圖竝ニ整理豫定圖ハ全圖及ヒ切圖ニ分チテ之ヲ作ルヘシ

切圖ニハ土地各筆ノ番號地目及ヒ面積ヲ記入スヘシ (第三十四年農商務省令第三十二號ヲ以テ削除)

第三十七條 整理委員明治三十年法律第三十九號ノ規定ニ從ヒ地價配當案ヲ作り耕地整理法



第四十七條ノ整理總會ノ決議ヲ經ヘシ

然ルニ右耕地整理法ノ施行期日ニ就キ翌同三十三年一月十二日勅令第四號ヲ以テ之ヲ定ムルコト左ノ如シ

耕地整理法ハ明治三十三年一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

第二目 地租ノ徵收

第一 地租徵收期限

明治十八年六月布告第十五號ヲ以テ地租徵收期限第三期以下ヲ改正ス蓋シ田租徵收ノ金額タル參千五拾九萬餘圓ノ多キニ居ルヲ以テ該納期ニ際シテハ農家ニ於テ一時米穀ヲ競賣スルノ勢ヲ爲シ忽チ市價ノ低落ヲ招キ亦隨テ金融逼迫シ農民ノ困難少カラサルニ由リ疑ニ明治十六年布告第三十六號ヲ以テ第四期即田租半額ノ徵收期限ヲ改正セラレタリト雖モ尙未タ充分ノ便ヲ得サルノ狀況アルヲ以テ更ニ一層ノ餘裕ヲ與ヘ田租徵收期限ヲ該年十一月一日ヨリ翌年四月二十日迄ニ二分五厘ツ、徵收スルコト、セリ其改正セラレタルモノ左ノ如シ

明治十四年二月第十四號布告地租徵收期限第三期以下左ノ通改正ス

第三期	同	該年十一月十五日ヨリ	田方二分五厘
第四期	同	同	同
第五期	同	同	同
第六期	同	同	同

明治二十三年第一期帝國議會ノ開會セラレヤ衆議院ハ地租徵收期限改正法律案ヲ提出シ從來ノ納期ヲ一般ニ繰延フルノ必要アリト爲シ遂ニ協贊裁可ヲ經テ明治二十四年三月十四日法律第二號ヲ以テ之ヲ公布セリ即左ノ如シ

地租徵收期限左ノ通改正シ明治二十三年第六期分ヨリ施行ス但市街宅地地租ハ該年七月三十一日翌年一月三十一日限リ兩期ニ其五分宛ヲ徵收ス

第一期	同	該年九月一日ヨリ	畑方宅地山林五分
第二期	同	同	同
第三期	同	同	同
第四期	同	同	同
第五期	同	同	同
第六期	同	同	同

鹿兒島縣管下大隅國大島郡及薩摩國川邊郡各島地ハ交通極メテ不便ニシテ内地ト事情ヲ異ニスルモノアリ地租徵收ニ關シ特別ノ納期ヲ定ムルノ必要アルヲ以テ明治三十年三月九日法律第五號ヲ以テ該島地地租徵收期限ニ關スル特別法ヲ公布セリ即左ノ如シ

鹿兒島縣管下大隅國大島郡及薩摩國川邊郡各島ノ地租ハ明治二十四年法律第二號地租徵收期限ニ依ラス左ノ期限ニ依リ徵收ス

大隅國大島郡ノ内大島、徳ノ島、沖永良部島、喜界島、與論島

翌年五月一日ヨリ同三十一日限リ



薩摩國川邊郡ノ内硫黃島竹島黑島口ノ島中ノ島平島諏訪ノ瀬島臥蛇島惡石島寶島  
翌年五月一日ヨリ同八月三十一日限リ

### 第二 地租徵收特別處分

地價修正、荒地ノ免租低價年期附與等地租賦課徵收上處分ニ關シテハ地租條例中ニ於テ規定スル所アリト雖モ天災地變ニ由ル災害ノ状態ハ悉ク之ヲ豫期スルコト難ク一片ノ法規ヲ以テ律スヘカラサルモノアリ是ヲ以テ事變ニ由ル損害ニシテ地租減免延納等ノ處分ヲ要スルモ一般成規ノ範圍内ニ於テ處理スルヲ以テ足ラサル場合ニ於テハ法律ヲ以テ之カ徵收上特別法ヲ定メ處分ノ準則タラシムルノ必要アリ乃チ明治二十四年十月岐阜、愛知、三重、滋賀、福井等ノ諸縣ニ劇烈ナル震災アリ其被害ノ程度甚シク一般法規ノ範圍内ニ於テ徵收上特別處分ヲ施スニ途ナキヲ以テ明治二十五年六月十三日法律第一號ヲ以テ震災地方租稅特別處分法ヲ公布シ震災被害地ノ地租徵收ニ關スル特別處分方ヲ定メ地價修正低價年期附與、地租延納、年賦金免除、地租延納ヲ許セリ而シテ該法律ハ地租外ノ租稅ニ關スル所アルモ便宜其全文ヲ錄ス

#### 震災地方租稅特別處分法

第一條 本法ハ三重縣、愛知縣、滋賀縣、岐阜縣、福井縣ニ限リ明治二十四年十月二十八日ノ震災ニ因リテ生シタル損害ニ適用ス

第二條 水源涸渴、水路破滅等ノ爲地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ハ明治二十四年分ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第三條 荒地ニ至ラサルモ土地ニ變動ヲ生シタル爲メ又ハ其餘害ヲ受ケタル爲收利ノ減損甚シキ土地ハ其實況ニ依リ明治二十四年ヨリ十年以内七割以下ノ低價年期ヲ附與スルコトヲ得

第四條 過半ノ家屋燒失若クハ壞倒シ營業ノ景狀容易ニ回復シ難キ市街若クハ市街ニ準スヘキ部落ハ其ノ實況ニ依リ明治二十四年ヨリ七年以内七割以下ノ低價年期ヲ其ノ地ノ宅地ニ附與スルコトヲ得

第五條 第三條、第四條ノ低價年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ其地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正スルコトヲ得

第六條 地租條例第二十條又ハ本法第二條、第三條ノ處分ヲ爲シタル土地ニ係ル地租延納年賦金ハ之ヲ免除ス

第七條 居住家屋ノ燒失又ハ其他ノ損害ヲ受ケタルモノハ被害ノ景況ニ依リ明治二十四年分地租未納金ハ明治二十五年ヨリ三年以内延納ヲ許スコトヲ得

第八條 酒造又ハ醬油營業者ニシテ營業ノ建物燒失壞倒若クハ大破シタルモノハ其ノ實況ニ依リ震災前檢査濟ニ係ル未納造石稅ヲ減免スルコトヲ得

第九條 醬油、菓子、賣藥、煙草、度量衡ノ營業者ニシテ營業用建物燒失壞倒若クハ大破シタルモノハ其ノ實況ニ依リ左ニ掲クル稅金ニ限リ減免スルコトヲ得

- 一 菓子製造度量衡稅ハ明治二十四年後半年分ノ稅金
- 一 醬油營業稅、菓子營業稅、賣藥營業稅、煙草營業稅ハ明治二十五年前半年分ノ稅金



第十條 本法ニ依リ損害取調中ハ其租稅ノ徵收ヲ猶豫ス

第十一條 本法ノ施行ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十二條 本法ニ依リ處分ヲ受ケントスル者ハ明治二十五年八月三十一日マテニ申出ヘシ若シ此ノ期限内ニ申出サル者ハ本法ノ處分ヲ受クルコトヲ得ス

之レニ依テ其處分ヲ爲サシメ後數日ヲ經テ同月十八日大藏省達第千二百二號ヲ發シ尙同法施行方心得ヲ定メテ其手續ヲ示セリ今左ニ其施行方心得中地租ニ關スルモノヲ抄録スヘシ

第一條 處分法第二條ノ土地ハ左ニ掲クル如キ被害ヲ蒙リ地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタルモノトス

一 灌溉ノ用ニ供シタル湧水ノ絶止シタル爲水掛ノ用ヲ失ヒタルモノ

二 水路ノ崩壞膨起陷落等ニ依リ之ヲ修理改設スルノ道ナク又ハ修理改設スルモ得失相償ハスシテ灌溉ノ用ヲ失ヒタルモノ

第二條 處分法第三條ノ土地ハ左ニ掲クル如キ被害ニ依リ收利ノ減損半年ノ凡ソ三割以上ニ及フモノトス

一 耕地ニ冷水湧出若クハ滲出シ容易ニ之ヲ防遏スルコト能ハサルモノ

二 土地ノ陷落膨起傾斜等ノ爲メ排水又ハ灌溉ノ利便ヲ害シ容易ニ回復シ難キモノ

三 下流土地ノ膨起又ハ隣接地ノ變動ニ依リ水持ヲ惡クシ又ハ濕地ト爲リタルモノ

第三條 處分法第四條ノ市街及市街ニ準スヘキ部落ハ左ノ區別ニ依ルモノトス

一 市街ハ地租條例第三條ノ市街宅地ニ屬スル土地トス

二 市街ニ準スヘキ部落ハ連楯一市街ヲ爲シ地價ノ測定方市街ニ準シタル土地トス

第四條 處分法第三條ノ土地ハ其地主ノ協議ヲ以テ一町村內每地被害ノ厚薄ト收利減損ノ程度トニ從ヒ其等級ヲ設ケ地方廳ヘ申出サシムヘシ

第五條 處分法第四條ノ土地ハ其被害ノ厚薄ト營業ノ景況回復ノ難易トニ由リ前條ノ手續ヲナサシムヘシ

第六條 縣知事ハ管内被害ノ實況ヲ通觀シ適宜ノ市町村ニ就キ被害ノ厚薄等彼此ノ權衡ヲ調在シ其最甚シキモノヲ以テ一等トシ之ニ次クモノヲ以テ順次等差ヲ設ケテ其每等ノ模範地ヲ撰定シ之レニ對スル低價及年期ノ程度ヲ立テ處分上之レニ準據シ平衡ヲ保タシムヘシ

第七條 處分法第七條ノ延納ハ縣知事ニ於テ其年限又ハ年賦ノ割合ヲ定ムヘシ

同條居住家屋燒失外ノ損害ヲ受ケタル者ハ左ノ定ムル處ニ依ルヘシ

三 潜水其他一時ノ被害ニ依リ土地ノ作毛平年ノ凡ソ四分一以上減損シタルモノ

四 前各項ノ外被害ニ依リ納稅シ能ハサルモノ

第九條 縣知事ハ關係諸縣ト第六條模範地ヲ交互對照シテ各其順位ヲ定メ其他各條ノ處分上協議ヲ遂ケ彼此ノ權衡ヲ保タシムヘシ

第十條 處分法第三條、第四條、第五條及第八條ノ處分ハ知事ニ於テ調査ノ上大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 處分法第二條、第六條、第七條、第九條及第十條ニ依リ縣知事ニ於テ其處分ヲ了シタル時ハ要領ヲ具シ大藏大臣ヘ報告スヘシ



明治二十七年十月十日山形縣地方ニ震災アリ縣下一般ニ非常ノ損害ヲ與ヘシヲ以テ翌同二十八年四月法律第二十九號ヲ公布シ震災地方租稅特別處分法ヲ制定シ地價修正低價年期附與未納金延納ヲ許セリ同法ハ主トシテ地租ニ關スル處分法ナルヲ以テ左ニ其規定ノ全文ヲ掲クヘシ

震災地方租稅特別處分法

- 第一條 本法ハ山形縣ニ限り明治二十七年十月二十二日ノ震災ニ因リ生シタル損害ニ適用ス
- 第二條 水源涸渴水路破滅等ノ爲メ地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ハ明治二十七年分ヨリ修正地價ニ依リ徵收ス
- 第三條 荒地ニ至ラサルモ土地ニ變動ヲ生シタル爲メ又ハ其餘害ヲ受ケタル爲メ收利ノ減損甚シキ土地ハ其實況ニ依リ明治二十七年ヨリ十箇年以内七割以下ノ低價年期ヲ附與スルコトヲ得
- 第四條 過半ノ家屋燒失若クハ壞倒シ營業ノ景狀容易ニ回復シ難キ市街若クハ市街ニ準ス可キ部落ハ其實況ニ依リ明治二十七年ヨリ七箇年以内七割以下ノ低價年期ヲ其ノ地ノ宅地ニ附與スルコトヲ得
- 第五條 第三條第四條ノ低價年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ其ノ地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正スルコトヲ得
- 第六條 居住家屋ノ燒失又ハ其他ノ損害ヲ受ケタルモノハ被害ノ景況ニ依リ明治二十七年分地租未納金ハ明治二十八年ヨリ三箇年以内延納ヲ許スコトヲ得但延納ニ係ル地租ハ三箇年以内年賦ヲ以テ納ムルコトヲ得

第七條 酒造又ハ醬油營業者ニシテ營業用ノ建物燒失壞倒若クハ大破シタルモノハ其實況ニ依リ震災前檢査濟ニ係ル未納造石稅ヲ減免スルコトヲ得

第八條 醬油、菓子、賣藥、煙草度量衡ノ營業者ニシテ營業用ノ建物燒失壞倒若クハ大破シタルモノハ其實況ニ依リ左ニ掲クル稅金ニ限り減免スルコトヲ得

一 菓子製造稅度量衡稅ハ明治二十七年後半年分ノ稅金

一 醬油營業稅、菓子營業稅、賣藥營業稅、煙草營業稅ハ明治二十八年前半分ノ稅金

第九條 本法ニ依リ損害取調中ハ其ノ租稅ノ徵收ヲ猶豫ス

第十條 本法ノ施行ニ關シテハ訴訟又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十一條 本法ニ依リ處分ヲ受ケムトスル者ハ明治二十八年七月三十一日迄ニ申出ヘシ若此ノ期限内ニ申出サル者ハ本法ノ處分ヲ受クルコトヲ得ス

越ヘテ同二十九年八月ニ至リ又秋田、巖手ノ兩縣地方ニ震災起リ其損害頗ル甚シク一般徵稅法規ヲ以テ律ス可ラサル事情アルヲ以テ翌三十年三月二十九日法律第二十二號ヲ發シテ震災地方租稅特別處分法ヲ規定シ地價修正低價年期附與未納金延納ヲ許スコト、セリ而シテ該法律ハ地租以外ノ諸稅ニ關スル處アリト雖モ左ニ其全文ヲ錄ス

震災地方租稅特別處分法

第一條 本法ハ秋田縣巖手縣ニ限り明治二十九年八月三十一日ノ震災ニ因リテ生シタル損害ニ適用ス

第二條 水源涸渴、水路破滅等ノ爲地目ヲ變換シ地價ヲ修正シタル土地ハ明治二十九年分ヨリ



修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス

第三條 荒地ニ至ラサルモ土地ニ變動ヲ生シタル爲又ハ其餘害ヲ受ケタル爲收利減損甚シキ土地ハ其ノ實況ニ依リ明治二十九年ヨリ十箇年以内七割以下ノ低價年期ヲ附與スルコトヲ得

第四條 市街ニ準スヘキ部落ニシテ過半ノ家屋壞倒シ營業ノ景狀容易ニ回復シ難キモノハ其實況ニ依リ明治二十九年ヨリ七箇年以内七割以下ノ低價年期ヲ其地ノ宅地ニ附與スルコトヲ得

第五條 第三條第四條ノ低價年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ其ノ地ノ現況ニ依リ地價ヲ修正スルコトヲ得

第六條 居住家屋ノ燒失又ハ其ノ他ノ損害ヲ受ケタルモノハ被害ノ景況ニ依リ明治二十九年分地租未納金ハ明治三十年ヨリ三箇年以内延納ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ延納ニ係ル地租ハ年賦納付ヲ許可スルコトヲ得

第七條 酒造又ハ醬油營業者ニシテ營業用ノ建物燒失壞倒若クハ大破シタルモノハ其ノ實況ニ依リ震災前檢査濟ニ係ル未納造石稅ヲ減免スルコトヲ得

第八條 菓子、賣藥ノ營業者ニシテ營業用ノ建物燒失壞倒若クハ大破シタルモノハ其ノ實況ニ依リ菓子製造稅ハ明治二十九年分未納稅金賣藥營業稅ハ明治三十年前半年分ノ稅金ニ限り減免スルコトヲ得

第九條 本法ニ依リ損害取調中ハ其ノ租稅ノ徵收ヲ猶豫ス

第十條 本法ノ施行ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第十一條 本法ニ依リ處分ヲ受ケムトスル者ハ明治三十年七月三十一日迄ニ申出ツヘシ若此ノ期限内ニ申出テサル者ハ本法ノ處分ヲ受クルコトヲ得ス

明治二十九年ニ於テハ右ノ震災ノ外七月ヨリ十月ニ至ル間ニ於テ各地非常ノ洪水アリ其損害甚シク之カ特別處分ヲ爲ス必要アルヲ以テ明治三十年三月二十九日法律第三十號ヲ以テ水害地方地租特別處分法ヲ發布シ荒地ニ至ラサルモ收穫皆無トナリタル地ニ限り明治二十九年分ノ地租ヲ免除シ且ツ之ニ該當スル土地ノ地租延納年賦金ハ同年度ニ限り之ヲ免除スル旨ヲ定メタリ

水害地方地租特別處分法

- 第一條 本法ハ明治二十九年七月ヨリ十月迄ノ洪水ニ因リテ生シタル損害地ニ適用ス
- 第二條 荒地ニ至ラサルモ收穫皆無トナリタル土地ニ限り明治二十九年分ノ地租ヲ免除ス
- 第三條 前條ニ該當スル土地ノ地租延納年賦金ハ明治二十九年分ニ限り之ヲ免除ス
- 第四條 本法ニ依リ損害取調中ハ其地租ノ徵收ヲ猶豫ス
- 第五條 本法施行前ニ徵收シタル既納ノ地租金ハ之ヲ還付ス
- 第六條 本法ノ施行ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス
- 第七條 本法ニ依リ處分ヲ受ケムトスル者ハ明治三十年六月三十日迄ニ申出ヘシ若此期限内ニ申出サル者ハ本法ノ處分ヲ受クルコトヲ得ス

附則

第八條 此ノ法律ニ依リテ特免シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス



以上ノ如ク水害地方地租特別處分法ノ公布アリシヲ以テ同年四月二十日大藏省令第七號ヲ發シテ之カ請願手續ヲ定ム

明治三十年法律第三十號ニ依リ水害地地租免除ヲ請ハントスルモノハ收穫皆無タリシ事實ヲ證明シ願書ヲ所轄稅務署ニ差出スヘシ

明治三十年七月ヨリ十月迄ノ間ニ各地水害ニ罹リシ地方アリ地租徵收上特別處分ヲ爲ス必要アルヲ以テ翌三十一年七月二十七日法律第二十二號ヲ公布シテ水害地方地租特別處分法ヲ制定セリ

水害地方地租特別處分法

第一條 本法ハ明治三十年七月ヨリ十月迄ノ洪水ニ因リテ生シタル損害地ニ適用ス

第二條 荒地ニ至ラサルモ收穫皆無トナリタル土地ニ限り明治三十年分地租ヲ免除ス

第三條 前條ニ該當スル土地ノ地租延納年賦金ハ明治三十年分ニ限り之ヲ免除ス

第四條 本法ニ依リ損害取調中ハ其地租ノ徵收ヲ猶豫ス

第五條 本法施行前ニ徵收シタル既納ノ地租金ハ之ヲ還付ス

第六條 本法ノ施行ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七條 本法ニ依リ處分ヲ受ケムトスル者ハ明治三十一年八月三十一日迄ニ申出ヘシ若シ此ノ期限内ニ申出サルモノハ本法ノ處分ヲ受クルコトヲ得ス

附 則

第八條 此法律ニ依リテ特免シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス

右特別處分法施行ニ關シテ豫メ願書提出ノ手續ヲ定メ置クノ要アルヲ以テ同年七月二十九日大藏省令第十三號ヲ以テ左ノ如ク定メタリ

明治三十一年法律第二十二號ニ依リ水害地地租免除ヲ請ハントスル者ハ收穫ノ皆無タリシ事實ヲ證明シ願書ヲ所轄稅務署ニ差出スヘシ

又同三十一年八月ヨリ十月迄ノ間ニ至ル洪水ニ由リ水害ニ罹リシ地方アリタルヲ以テ翌同三十二年二月一日法律第三號ヲ以テ地租特別處分法ヲ發布セリ

水害地方地租特別處分法

第一條 本法ハ明治三十一年八月ヨリ十月迄ノ洪水ニ因リテ生シタル損害地ニ適用ス

第二條 荒地ニ至ラサルモ收穫皆無トナリタル土地ニ限り明治三十一年分地租ヲ免除ス

第三條 前條ニ該當スル土地ノ地租延納年賦金ハ明治三十一年分ニ限り之ヲ免除ス

第四條 本法ニ依リ損害取調中ハ其地租ノ徵收ヲ猶豫ス

第五條 本法施行前ニ徵收シタル既納ノ地租金ハ之ヲ還付ス

第六條 本法ノ施行ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七條 本法ニ依リ處分ヲ受ケントスル者ハ明治三十二年六月三十日迄ニ申立ツヘシ若シ此期限内ニ申出サルモノハ本法ノ處分ヲ受クルコトヲ得ス

附 則

第八條 此ノ法律ニ依リテ特免シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス  
次テ同月七日大藏省令第一號ヲ以テ其出願手續ヲ定ムルコト左ノ如シ



明治三十二年法律第三號水害地方地租特別處分法ニ依リ水害地地租ノ免除ヲ請ハントスル者ハ收穫ノ皆無タリシ事實ヲ證明シ願書ヲ所轄稅務署ニ差出スヘシ

而シテ損害地方地租特別處分ハ從來經伺ノ上之ヲ爲シ來リシモ大藏省ニ於テハ之レカ實況ヲ視察セス單ニ提出ニ係ル書類ニ依リ其計數ヲ調査スルニ過キササルヲ以テ特ニ稟申セシムル必要ナキヲ認メ同三十二年十一月主稅局長ハ那桐ヲ除キ各稅務管理局長ニ左ノ如ク通牒セリ

水害地方地租特別免除ノ儀ニ付テハ從來經伺ノ上處分シ來リ候處右ハ精密調査ノ上貴局限リニテ御處分相成可然最モ處分濟ノ上ハ免租地ヲ府縣ニ區別シ地目段別地價地租筆數ヲ記載シ處分願末書ト共ニ大臣ヘ報告相成度此段及通牒候也

明治三十二年七月ヨリ十月迄ノ間ニ各地非常ノ洪水アリ其被害頗ル甚シキヲ以テ翌三十三年一月八日法律第一號ヲ公布シテ水害地方地租特別處分法ヲ定メタリ

水害地方地租特別處分法

- 第一條 本法ハ明治三十二年七月ヨリ十月マテノ洪水ニ因リテ生ジタル損害地ニ適用ス
- 第二條 荒地ニ至ラサルモ收穫皆無トナリタル土地ニ限リ明治三十二年分地租ヲ免除ス
- 第三條 前條ニ該當スル土地ノ地租延納年賦金ハ明治三十二年分ニ限リ之ヲ免除ス
- 第四條 本法ニ據リ損害取調中ハ其地租徵收ヲ猶豫ス
- 第五條 本法施行前ニ徵收シタル既納ノ地租金ハ之ヲ還付ス
- 第六條 本法ノ施行ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス
- 第七條 本法ニ依リ處分ヲ受ケムトスル者ハ明治三十三年七月三十日マテニ申出ヘシ若此ノ

期限内ニ申出サル者ハ此ノ處分ヲ受クルコトヲ得ス

附則

本法ニ依リテ特免シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス

次テ四月十一日大藏省令第一號ヲ以テ其出願手續ヲ左ノ如ク規定セリ

明治三十三年法律第一號水害地方地租特別處分法ニ據リ水害地地租ノ免除ヲ請ハントスル者ハ收穫ノ皆無タリシ事實ヲ證明シ願書ヲ所轄稅務署ニ差出スヘシ

又同年德島縣那賀郡立江村外二箇村ニ於テ螟蟲ノ害ヲ被リシヲ以テ同三十三年二月二十八日法律第二十四號ヲ公布シテ蟲害地地租特別處分法ヲ規定スルコト左ノ如シ

蟲害地方地租特別處分法

- 第一條 本法ハ明治三十二年中德島縣那賀郡立江村、坂野村、羽ノ浦村ニ於テ螟蟲ノ害ヲ被リタル土地ニ適用ス
- 第二條 前條ノ土地ニシテ收穫皆無ナルモノニ限リ明治三十二年分地租ヲ免除ス
- 第三條 前條ニ該當スル土地ノ地租延納年賦金ハ明治三十二年分ニ限リ之ヲ免除ス
- 第四條 本法ニ依リ被害取調中ハ其地租徵收ヲ猶豫ス
- 第五條 本法ニ依リ地租ヲ免除セラルヘキ土地ニ付既ニ納メタル地租金ハ之ヲ還付ス
- 第六條 本法ノ施行ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス
- 第七條 本法ニ依リ處分ヲ受ケムトスル者ハ明治三十三年三月三十一日迄ニ收穫ノ皆無タリシ事實ヲ證明シ所轄稅務署ニ申請スヘシ此期限内ニ申請セサル者ハ本法ノ處分ヲ受クルコ



トヲ得ス

附則

本法ニ依リ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス  
 從來水害ニ罹リ收穫皆無ニ歸シタル土地ノ地租ニ關シテハ明治二十九年以降時々特別法ヲ以テ  
 之カ免除ヲ爲シ來レリト雖モ事後ニ於テ法律ヲ制定スルトキハ之カ施行上相當ノ調査ヲ爲ス能  
 ハサルカ故ニ往々事實ニ適合セサルコトアルノミナラス事ニ臨ミ法律ヲ制定スルハ頗ル煩ニ堪  
 ヘサルヲ以テ永久的法律ヲ以テ水害地方田畑地租特別處分法ヲ定メ災害ノ當時直ニ十分ノ調査  
 ヲ爲シ免租ノ必要アルモノニ對シテハ之カ地租免除ヲ爲スコト、シ明治三十四年四月十二日法  
 律第二十七號ヲ以テ之ニ關スル法律ヲ公布セリ

一府縣又ハ數府縣ノ全部若クハ一部ニ亘レル水害ニ因リ收穫皆無ニ歸シタル田畑ノ地租ハ其  
 年分ニ限リ之ヲ免除ス

前項ニ依リ免租ノ處分ヲ受ケムトスル者ハ罹災後三十日內ニ主務官廳ニ申出ツヘシ此ノ期間  
 內ニ申出テサルモノハ免租ノ處分ヲ受クルコトヲ得ス

附則

本法ノ規定ハ之ヲ本法規定期前一年間ニ水害、蟲害、風害又ハ旱害ヲ被リタル田畑ニ準用ス但シ申  
 出期間ハ本法施行ノ日ヨリ起算ス

右法律第二十七號ニ基キ被害ノ種類及時日ヲ記載シ收穫ノ皆無ニ至リタルコトヲ證明シテ出願  
 セシムルノ要アルヲ以テ同月大藏省令第三號ヲ以テ左ノ如ク定メタリ

明治三十四年法律第二十七號ニ依リ地租ノ免除ヲ請ハントスル者ハ被害ノ種類及時日ヲ記載  
 シ收穫ノ皆無タリシ事實ヲ證明シ願書ヲ所轄稅務署ニ差出スヘシ

明治三十四年德島縣下各郡へ發生セル蟲害頗ル甚シク之カ收穫皆無ニ歸シタル土地ニ對シテハ  
 特ニ當年ノ地租ヲ免除シ之カ救済ノ道ヲ計ラサルヘカラス是ニ於テ明治三十五年三月十七日法  
 律第二十五號ヲ以テ蟲害地租特別處分法ヲ公布シ之カ處分方ヲ左ノ如ク定メタリ

蟲害地租特別處分法

- 第一條 本法ハ明治三十四年中蟲害ニ因リ生シタル損害地ニ適用ス
- 第二條 前條ノ土地ニシテ收穫皆無ナルモノニ限リ明治三十四年分地租ヲ免除ス
- 第三條 前條ニ該當スル土地ノ地租延納年賦金ハ明治三十四年分ニ限リ之ヲ免除ス
- 第四條 本法ニ依リ損害取調中ハ其地租徵收ヲ猶豫ス
- 第五條 本法ニ依リ地租ヲ免除セラルヘキ土地ニ付テハ既ニ納メタル地租金ハ之ヲ還付ス
- 第六條 本法ノ施行ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス
- 第七條 本法ニ依リ處分ヲ受ケムトスル者ハ本法施行後三十日以内ニ申出ヘシ若シ此ノ期限  
 內ニ申出サル者ハ本法ノ處分ヲ受クルコトヲ得ス

附則

本法ニ依リテ特免シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス

又同年栃木縣下ニ雹害アリ田畑ノ收穫多クハ皆無ニ歸セルヲ以テ此等被害ノ土地ニ對シ地租ヲ  
 免除シ之カ救済ヲ爲スノ必要アルヲ以テ明治三十五年三月十七日法律第二十六號ヲ以テ雹害地



地租特別處分法ヲ公布セリ即左ノ如シ

害害地地租特別處分法

- 第一條 本法ハ明治三十四年中害害ニ因リテ收穫皆無ト爲リタル土地ニ適用ス
- 第二條 前條ニ該當スル土地ノ地租及地租延納年賦金ハ明治三十四年分ニ限り之ヲ免除ス
- 第三條 本法ニ依リ害害調査中ハ其地租徵收ヲ猶豫ス
- 第四條 本法ニ依リ地租ヲ免除セラルヘキ土地ニ付テハ既ニ徵收シタル地租金ハ之ヲ還付ス
- 第五條 本法ノ施行ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス
- 第六條 本法ニ依リ處分ヲ受ケムトスル者ハ本法施行後三十日以内ニ申出ヘシ若此ノ期限内ニ申出サル者ハ本法ノ處分ヲ受クルコトヲ得ス

附 則

本法ニ依リテ免除シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス

右法律第二十五號及同第二十六號地租特別處分法實施ニ關シ四月大藏省令第三號ヲ以テ左ノ如ク其手續ヲ定メタリ

明治三十五年法律第二十五號蟲害地、地租特別處分法ニ依リ蟲害地、地租ノ免除ヲ請ハントスルモノ及同年法律第二十六號害害地、地租特別處分法ニ依リ害害地、地租ノ免除ヲ請ハントスル者ハ收穫皆無タリシ事實ヲ證明シ願書ヲ所轄稅務省ニ差出スヘシ

第三目 地租ノ帳簿

第一 一般帳簿

地租及之ニ關係スル帳簿圖表ハ前ニ述ヘタルカ如ク稍整頓セシト雖地租ニ關スル條例及其附屬法ヲ改正シ從テ地租ノ取扱竝ニ土地ノ處分等ノ手續方法發達改良セラル、ニ伴ヒ帳簿モ亦益進歩整頓ヲナセリ而シテ茲ニハ明治十七年地租條例發布以後ニ於ケル地租竝ニ之ニ關係スル帳簿圖表ノ沿革ヲ説明セントス然レトモ土地臺帳ハ此等ノ帳簿中ニ於テ實ニ重要ノモノニシテ其事柄モ亦複雜ナルヲ以テ之ト分離シテ特ニ其説明ヲ爲シタリ其他帳簿圖表ニ關スル事項ニシテ既ニ地租條例若クハ其附屬法ニ掲ケアルモノハ直ニ其處ニ於テ之ヲ説明セリ蓋シ強テ之ヲ分離スレハ説明上却テ明瞭ヲ缺クノ虞アルヲ以テナリ

明治十七年七月二十五日大藏省ハ達第五十六號ヲ以テ地租表、地租増減表、追加地租表、免租段別表、地券證印稅表、地租年賦延納金表、十七年分ヨリ別紙樣式(別紙)之通相定ムトナシ從來ニ於ケル地租表其他諸般ノ樣式ヲ改正セリ又諸稅表ノ進達ハ往々之ヲ遲延スル傾向アルヲ以テ其進達期限ヲ決議シ同年十一月十九日主稅局部長ハ第五百十三號ヲ以テ各府縣收稅長ニ向ケ通知セリ

諸稅表ノ儀ハ期限無延滯進達可相成ハ論ヲ不俟儀ニ候處動モスレハ該期ヲ經過シ甚シキハ決算期限ニ際シ尙延期ヲ請求セラル、向モ有之一體諸表之儀ハ國稅徵收ノ基礎ニシテ殊ニ國庫ノ收入額ヲ確定スルモノナレハ自ラ其關係スル所尠カラサルニ付爾來諸稅表進達期限ハ一切延期相成ラサル等ニ省議決定候條御心得迄申進候也

尋テ同年十二月十六日同省達第八十九號ヲ以テ地租ノ諸帳簿樣式ヲ改定セリ然ルニ翌同十八年六月十五日ニ至リ主稅局ハ報告第六百十五號ヲ發シテ地租ニ關スル諸帳簿樣式中ヲ更正セリ



明治十七年當省第八十九號達別冊中左ノ通正誤ス

- 一 第十七號式凡例第一項ヲ左ノ通更正シ第三項ヲ削除ス  
處分濟ノ時々記入シ納期前ニ於テ其要スル地目ノ部分ヲ差別シテ現在計ヲ爲シ追テ一年分各地目ヲ合集セシ一町村計ヲ付スヘシ
- 一 第十九號式土地臺帳ノ卷首ヘ(丙號)ノ式ヲ挿入ス其總計式ヲ(丁號)ニ改メ又其次ヘ(戊號)ノ式ヲ加フ
- 一 第二十號式凡例ヘ左ノ二項ヲ加フ

地目中田畑多筆ニシテ他地目ノ區劃ニ多ク空位ヲ存スルモノハ第二欄第四區ヘ宅地ヲ併  
七(宅地鹽田續泉山野其他トシ計ニ)以上ノ三區ヲ田畑ノ區劃ニ充ツヘシ則田ノ多キモノハ  
(宅地鹽田以下ト兩様ニ區別ス)第一第二區ヲ田トシ畑多キモノハ第二第三區ヲ畑トシ皆田(畑)ハ三區共ニ田畑ト爲スカ如  
 シ

質地ハ質取主持地ノ部ヘ記入シ質入主ノ方ハ朱線ヲ以テ消抹シ各其筆ノ屆書ニ何年ヨリ  
 質取(入)地ト記入スヘシ(書式略)

又同年六月二十日同省ハ町村地圖調製ニ關スル方式及更正手續竝ニ製圖略法ヲ制定内訓スル所  
 アリタリ左ニ之ヲ抄録スヘシ

町村地圖調製式及更正手續(抄録)

- 第一項 地圖ヲ調製スルニハ別紙町村製圖略法ニ據ルモノトス但シ從來ノ分間法等ニ據ルモ  
 便宜タルヘシ

第二項 地圖ハ村圍字圍ノ二種ヲ製スルモノトス村圍ニハ(イ)號雜形ノ如ク每字ノ地形ヲ畫キ

字圍ニハ(ロ)號雜形ノ如ク每筆ノ地形ヲ畫クモノトス

第五項 町村圍ハ五間ヲ以テ曲尺一分(即チ三千)トシテ字圍ハ一間ヲ以テ曲尺一分(即チ六百)ト  
 ス第八項町村圍ハ一部字圍ハ正副各一部ヲ府縣廳及ヒ戶長役場ニ備置クモノトス

町村製圖略法

第一項 圖ヲ製スルニハ第一圖ニ示ス見透器(原名「アリダ」)分見ノ器(在來ノ板)ヲ用ヒテ量地スルヲ可

トス此見透器ハ使用簡易ニシテ地形ヲ直チニ製圖板上ニ縮寫スルヲ得ルモノナリ

第二項 見透器ハ左ノ附屬品ヲ具備スルヲ要ス

羅針盤 製圖板 三脚臺

示心器(同上ノ點ヲ地上ノ測點) 垂球

第三項 字圍ハ六百分ノ一即チ一間(即チ六尺)ハ曲尺ノ一分一尺ハ曲尺ノ一厘六毛六絲餘ニ相當ス

ルヲ以テ質地ノ模様ニヨリテハ前項ニ示ス示心器ヲ用ヒサルモ大差ヲ生スルノ憂ヒナシ故  
 ニ從前ノ板分見法ヲ用ユルモ亦妨ケナシ

第四項 製圖ニ著手セント欲スルトキハ先ツ左ノ諸品ヲ用ヒテ量地スヘシ

見透器附屬品共

間繩 (苧繩竹繩或ハ苧葛繩ノ類ニテ成ルヘク伸縮セサル品ヲ用フ) 用フルハ最モ良トス

測標 (即チ苧天ニシテ竹竿ノ真直ナルモノヲ用フ) 用フルハ最モ良トス

製圖紙 (美濃紙フ用フヘシ) 但散セサル様注意スヘシ



兩脚規 (原名コ)

三角規

鉛筆

第五項 宅地田畑等地面平坦ニシテ樹林家屋等ノ見透シヲ妨ルモノナキ一筆ノ土地ヲ板上ニ縮寫スルニハ第一圖ノ如ク其土地ノ中央ト視認メタル位置ニ製圖板ヲ据ヘ(製圖板ニ製圖紙其上ニ)見透器ニ附著セル水準器ニ據リテ能ク水平ナラシメ製圖板ヲ回轉シテ羅針ノ方位ヲ正シ此羅針盤ヲ定規トシ製圖紙端ニ南北線ヲ畫シ製圖盤ニ小心器ヲ咬セ測點ノ中心ヲ定ム即チ基點ナリ後此點ニ見透器ノ零點ヲ宛テ置キ以テ(イ)ノ測標ヲ見透シテ其距離ヲ丈量シ得タル處ノ數間ヲ虛線ニテ畫シ其線端ニ(イ)ノ符號ヲ印シ且其傍ニ間數ヲ記載スヘシ次ニ其透器ヲ轉シ(ロ)ノ測標ニ向ケ基點中(ヨリ(ロ)ノ測標ヲ見透シ其距離ヲ量リ虛線ヲ畫シ其線端ニ(ろ)ノ符號ヲ印シ間數ヲ傍記シ且(イ)則チ紙上ノ(いろ)ノ間ニ實線ヲ畫スヘシ

而シテ順序前ノ如ク(ロハニハニ)ニホ(ホイ)等ノ實線ヲ畫スレハ自ラ其土地ノ實形ヲ板上ニ顯スヲ得ヘシ故ニ(イ)ヨリ(ロ)ヨリ(ハ)イヨリ(ハ)等ノ距離ヲ知ラント欲セハ先ツ曲尺ヲ以テ(イ)ヨリ(ろ)ヨリ(ハ)イヨリ(ハ)等ノ距離ヲ測リ以テ其間數ヲ得ルナリ

(第一圖略ス)

第六項 測地ノ模様ニヨリ中央基點ト爲サル、トキハ第二圖ノ如ク測地ノ一端假令(ハ)イニ基點ヲ定ムルヲ便トス其施業方ハ總テ前項ノ法ニ據リ(イ)ロ(イ)ハ等ノ距離ヲ丈量シテ(いろ)いはノ如ク紙上ニ縮寫スヘシ若シ又第三圖ノ如キ地形ニシテ基點(イ)ヨリ(ハ)ノ測標ヲ遮斷スルモノアリ見透スコト能ハサルトキハ(イ)ロ(イ)ニ(イ)ホ(ハ)前項ノ法ニヨリ先ツ之ヲ縮寫シ其他(イ)ロ及(ハ)ニノ距離ヲ丈量シテ得タル間數ヲ兩脚規ヲ以テ紙上ノ(ろ)及(ハ)ノ點ヲ圓心トシ孤線ヲ畫スルトキハ其切合ハ則チ求ムル所ノ(ハ)ノ點ヲ顯スヘシ或ハ又(ロ)ノ點ニ測量器ヲ移シテ(ロ)ヨリ(ハ)ヲ見透シ其距離ヲ丈量シテ(ハ)點ヲ求ムルモ亦可ナリ

(第二圖第三圖略ス)

第七項 數筆ヲ連接シテ製圖セントスルトキハ或ハ第四圖ノ如キ測内地ニ家屋又ハ森林丘阜其他ノ障礙物アリテ各測點ヲ見透シ能ハサルトキハ先ツ(イ)ヲ基點トナシ前法ノ如ク(イ)ホ(イ)ロヲ見透シ其距離ヲ丈量シテ(いろ)ノ實線ヲ引キ夫ヨリ製圖板ヲ(ロ)ノ處ニ移シ先ツ見透器ヲ(いろ)ノ線ニ正常セシメ(イ)ヲ見返シ以テ板ノ位置ヲ定メ而シテ後(ハ)ヲ見透シ且其距離ヲ丈量シテ紙上ニ(ろ)ハ(ハ)ノ實線ヲ引クヘシ又測量器ヲ(ハ)ニ移シ見返スコト等總テ(ロ)點ニ於ケルカ如ク等シキ順序ヲ以テ施業スヘシ最後ニ至テ(ニ)ホ(ノ)點接合スレハ全ク地形ヲ製圖紙ニ寫シテ誤謬ナキモノト認ムヘシ但終リニ至テ接合セサルコト間々之レアルモノ故ニ若シ他點ノ見ユルアラハ見透シ置キ誤謬ヲ正スノ用ニ供スヘシ

(第四圖略ス)

第八項 池沼等一目シテ四至境界ヲ見透スヲ得ルト雖モ自由ニ丈量ヲナシ難キ場合ニ於テハ第五圖ニ示ス如ク池沼ノ邊ナル(イ)及(ヒ)ノ二點ニ於テ施業スヘシ其ノ方法ハ總テ前項一揭クルカ如クニシテ第一(ニ)イニ於テ(ロ)ハ(ニ)等ナル各測點ヲ見透シ各其方面ニ虛線ヲ畫シ(イ)ロ間ノ距離ヲ丈量シテ其得タル間數ニ依テ紙上ニ(ろ)ノ點ヲ定メ測量器ヲ(ロ)ニ移ス可シ第二ニ



(ロ)ニ於テ前ノ如ク各測點ヲ見透ストキハ(ハ)ニ等ニ於テ虛線ノ交叉スル處ノモノハ即チ(ハ)ニ等ノ各測點トス故ニ(ハ)ニ等ニ實線ヲ畫シ連續スルトキハ即チ現地形ヲ得ルナリ故ニ若シ周圍其他ノ間數ヲ求メント欲セハ前法ノ如ク曲尺ニテ量ルトキハ周圍ノ間數ヲ得ヘシ

(第五圖略ス)

第九項 距離ヲ丈量スルハ勉メテ水平ニ繩ヲ引クヘシ然ラサレハ自然差ヲ生スルモノナリ且第六圖ノ如キ斜面地ニ於テハ其繩ノ一端ヨリ垂球ヲ地上ニ垂レテ順次丈量スヘシ然ルトキハ眞ノ水平距離ヲ量リ得ルモノナリ

(第六圖略ス)

第十項 市街若クハ連嶺ノ町村圖ヲ製スルニハ三千分ノ一ニ縮ムルノ式ナルニ依リ最初ノ地形ヲ縮寫スルニ際シ曲尺ノ一分ヲ以テ現地ノ五間ノ割合トナセハ三千分ノ一ナル圖ヲ得ヘシ然レトモ道路溝渠等ノ屈曲多キ場所ヲ精密ニ圖セントスルニハ一間ヲ曲尺ノ二厘トナス故其割合小ニシテ其實ヲ失フノ恐レアレハ寧ロ六百分ノ一ニ之ヲ製シ而シテ五分ノ一ニ縮寫スル方却テ誤リ鮮ナカルヘシ但縮圖法ハ其弊目ノ野紙ヲ製シテ曲尺又ハ比例兩脚規ニ據リ縮寫スルカ或ハ縮圖器械ヲ用ユルモ便宜タルヘシ然レトモ不善良ナル器械ハ却テ誤謬ヲ生ス是レ讒カニ曲尺ノ二厘ハ一間ニ當ルヲ以テナリ

第十一項 畦畔ヲ測ルトキ其幅等シキトキハ製圖上ニ於テ順次平行シテ適宜ニ線ヲ畫シテ畦畔ヲ圖スヘシ其等シカラサルモノハ箇所毎ニ丈量シテ其廣狹ヲ示スヘシ  
第十二項 羅針盤ヲ使用スルトキハ鐵器ヲ避クヘシ

(其諸圖略ス)

而シテ同年十一月十三日ニ至リ同省ハ租稅表報告表調理順序及諸表様式ニ關シ達第七十四號ヲ以テ更ニ其改正ヲナスコト左ノ如シ

租稅表報告表調理順序及諸表様式自今左ノ通改正ス  
但諸表様式ハ主稅局ヨリ送付スヘシ

租稅表及報告表調理順序

第一章 總則

第一條 租稅表及報告表ハ毎會計年度ノ租稅額及課稅物件等ヲ詳記シテ稅則ノ適用及收稅ノ景況ヲ證明スヘキモノトス

第二條 租稅表及報告表ハ收稅長ノ名印ヲ以テ主稅官長ニ宛送付セシムヘシ  
但租稅表及報告表ノ内差出スヘキ分無之トキハ十六年(五)第三十二號達ニ據リ每期限必ス其旨ヲ報告スヘシ

第三條 租稅表ニ掲クル租稅金額ハ地租ハ之ヲ租額ト稱シ其他諸稅ハ之ヲ稅額ト稱スヘシ  
第四條 表面ノ金員等四捨五入ノ算則ヨリ生スル過不足又ハ月割收入ニ基ク差額ハ表中金員ノ左傍(内)外(算)出(不足)過(若)干ト朱書スヘシ

第二章 租稅表

第五條 租稅表ハ其年度間賦課シタル租稅金額(地租ハ)ヲ掲載シ之ニ對シテ其年度ノ決算ヲ爲スモノトス但租稅不納ニ由リ公賣處分ノ未租稅金官損ニ歸シ或ハ十六年(五)第五十九號達ニ



據リ勘定除却ノ手續ヲ經シモノト雖モ仍ホ本表ニ掲載スヘシ

第六條 租税金ノ收入シタルモノ又ハ收入スヘキモノ、内事故ニ由リ其租税金ヲ還付シ若クハ免除シタルトキハ都テ租税表ニ掲載セサルモノトス

第七條 不納金ヲ追徴シタルトキ既往年度ニ屬スルモノハ過年度收入(十八年度後追納)ニ編入スヘシ且既年度ノ過納金ヲ還付スルモ租税表ノ金額ハ控除セサルモノトス

第八條 租税決算後誤謬ヲ發見シ既往ニ遡リ税金ヲ追徴セシ分ハ其許可セシ年度ニ於テ追加税表ヲ製シ該追納金ハ其年度ノ本税ヘ編入シ決算スヘシ

第九條 受恩典者ヘ拂下ノ諸印紙税金延納許可ノ分ハ十八年(四)第十九條達ニヨリ其税金ニ限リ收入年度ノ税表ニ編入スルモノトス

第十條 租税表ノ員數ハ臺帳ニ據テ記入シ仍ホ第三章ノ手續ニ由リ差出シタル報告表ノ員數ニ照シテ精覈調査スヘキモノトス

第十一條 租税表送付ノ後已ヲ得サル事故ニ由リ訂正又ハ引換ヲ要スルトキハ租税皆済帳進達以前ニ限リ詳細事由ヲ具シ收税長ヨリ主税官長ヘ稟申セシムルコトヲ得

第十二條 租税表ヲ要スル府縣長官ノ認印位置ハ表題ノ上府縣名ノ下トス又其調理ヲ爲セシモノハ必ス下部ノ欄外ヘ小印ヲ捺セシムヘシ

第十三條 租税表ハ第一號ヨリ第三十號ニ至ル様式ノ通り調製シ各期限表ニ照シテ其應ヲ差立ツヘシ

第三章 報告

- 第十四條 報告表ハ課税物件及印紙鑑札等ノ増減ヲ調査シテ時々之ヲ報告スルモノトス
- 第十五條 報告表ノ員數ハ凡テ臺帳ニ據テ記入シ他日税表ノ員數ニ照合シ必ス差異ナキヲ期スルモノトス
- 第十六條 賣却販賣石數報告表ハ其様式ヲ示サ、レハ適宜之ヲ報告スヘシ
- 第十七條 公賣處分濟報告表及税則違犯者處刑表ハ地租ニ關スル分ノミ其様式ヲ示スト雖モ其他ハ之ニ準シテ調査スヘシ
- 第十八條 報告表ハ第一號ヨリ第四十三號ニ至ル様式ノ通り調製シ各期限表ニ照シテ其應ヲ差立ツヘシ

第四章 製表心得

- 第十九條 租税表及報告表ハ記入ノ件數多クシテ料紙ノ裏面ニ涉ルモノハ其首野ヘ標目ヲ掲クヘシ但料紙ハ普通美濃紙ヲ用フヘシ若シ紙面狹少ニシテ記入シ得サルモノアルトキハ適宜分裂シテ更ニ標目ヲ設ケ調製スルヲ得
- 第二十條 租税表及報告表ノ員數ハ單數(一ニ三ニ)ヲ以テ記入シ金員ハ圓錢、物件ハ石高ニハ石斗段別ニハ町段ノ間ニ各〇點ヲ付シ以上三字毎(十億位百萬位)、點ヲ付スヘシ若シ記入スヘキ員數ナキトキハ其空野ニハ圈點又ハ斜線等ヲ施シテ脱漏ナキヲ表スヘシ
- 第二十一條 租税表及報告表ニ掲クル計數區劃ノ劃線及其區劃内ノ文字ハ之ヲ其他ノ野線及文字ヨリ肉太ニ記載シテ視易カラシムヘシ
- 第二十二條 租税及報告表ノ各小計ハ集計上便宜ノ爲メニ設クルヲ以テ可成計查スヘシト雖



モ其手數ヲ要スルモノハ單ニ合計ノミヲ計査シ該小計ニ限り一々之ヲ登記セス空罅ノ儘進達スルモ苦シカラス

尋テ同十九年一月二十二日大藏省達第十號ヲ發シテ舊ニ明治十七年同省達第八十八號及同十八年同第七十四號ニ依テ公布セシ地租諸帳簿様式竝ニ地租表様式中ヲ改正セリ

然ルニ同年二月二十二日主稅局ハ各收稅長ニ通知シ更ニ前記明治十八年十一月大藏省達第七十四號ニ於ケル別冊地租増減表及ヒ追加地租表様式中ノ増減名稱ヲ摘記セシ外別種ノモノ、名稱記載方竝ニ各欄内へ編入ノ方法區々ニ涉リ不都合少カラサルカ故ニ其取扱ヲ改正ス

尙同年六月十八日同省訓令第二十四號ヲ發シ又更ニ同別冊中ノ租稅報告表雜形第二十三號、第二十八號、第二十九號、第三十一號、第三十四號ヲ改正シ本年度ヨリ施行セリ

越ヘテ同二十年三月二日同省訓令第十五號ヲ以テ同別冊租稅報告表調理順序表様式中稅表ノ部第十二號乃至第十五號迄ノ様式ヲ更正シタリ

斯クテ同年七月十四日同省訓令第五十號ヲ發シテ租稅計算整理順序ヲ制定セリ

租稅計算順序左ノ通之ヲ定メ明治二十年度ヨリ施行ス  
但十八年第七十四號達租稅表及ヒ報告表調理順序ノ内地租稅表及ヒ延納年賦ニ關スル報告ノ項ヲ廢止ス

租稅計算整理順序

第一條 租稅計算整理ノ爲メ北海道廳長官、府縣知事ハ左ノ計算表ヲ調整スルモノトス  
一 租稅表

一 租稅收納既未濟報告表 (納期ヲ確定セサルモノ及米) (前會所様式取引所稅ヲ除ク)

一 租稅收納報告表  
第二條 租稅表ハ會計一周年度ニ屬スル租稅ヲ每納期(地租ハ一年度、水産稅ハ一年度、區別ス)又ハ若干月ニ區分シ(區分方ハ期)各其期月間ニ賦課シタル租稅額及賦課物件ノ員數ヲ掲記シ徵稅ノ實況ヲ表明スルモノトス

第三條 租稅收納既未濟報告表ハ每納期賦課額ニ對スル既未納金額ヲ掲記シ其納期間實收ノ景況ヲ明瞭ナラシムルモノトス

第四條 租稅收納報告表ハ會計一周年度租稅ノ實況額及徵收未濟ノ金額ヲ掲記シ其年度間實收ノ成績ヲ詳明ナラシムルモノトス

第五條 租稅表ニ掲クル員數ハ租稅專帳ニ基キ租稅收納報告表ニ掲クル員數ハ其徵收實額ニ據リ之ヲ調製シ仍ホ歲入諸報告表ニ對照シ精査ヲ遂ケ必ス誤謬脱漏ナキヲ期スヘシ

第六條 租稅決算整理期限ヲ過キ租稅表へ編入洩ノ税金ヲ發見シタルトキハ其年度ニ於テ追加租稅表ヲ調製シ其時々之ヲ送付スヘシ

第七條 租稅表送付後稅額ニ増減ヲ生シ加除訂正ヲ要スルトキハ最前ノ稅表ニ對シ増減表ヲ調製シ其時々之ヲ送付スヘシ

第八條 租稅表ハ第一號ヨリ第十二號迄同收納既未濟報告表ハ第十七號租稅訂正増減表同追加表ハ第十三號ヨリ第十六號迄同收納報告表ハ第十八號様式ノ通調製シ各期限表ニ照シ其應ヲ差立ヘシ但期限表及ヒ租稅表其他報告表様式ハ主稅局ヨリ送付スヘシ(様式略ス)



茲ニ於テ右規定ヲ明治二十年度ヨリ施行スルコト、シ前記ノ明治十八年大藏省達第七十四號租稅表及ヒ報告表調理順序ノ內租稅表及ヒ延納年賦ニ關スル報告ノ項ヲ廢止セリ而シテ又民有地價地租ニ關スル諸申牒ハ段別地價地租ヲ別紙ニ取調ヘ之ヲ本書ニ添付セシムル様地租條例取扱書様式ニ示シアルモ是レ畢竟其指令ヲ要スルニ當リ伺文及精密ナル員數ヲ一紙ニ調理シアル時ハ正副二通ノ淨寫ヲ要スル等ノ手數アルヲ以テ之ヲ省略スルノ趣意ニ出テタルモノナリ然ルト雖明治二十年八月三日發布ノ大藏省訓令第五十六號ニ依リ地租ニ關スル處分ハ段別ノ多寡ヲ問ハス之ヲ府縣ニ委任シ以後誤謬訂正ノ外之ヲ稟議セサルコト、セルヲ以テ屆書ト調書ト各別ニ調理スルノ必要ヲ見サルナリ之ニ依テ同年十月六日同省訓令第六十二號ヲ以テ其旨ヲ示セリ

明治十七年四月五日號外達地租條例取扱書中様式ヲ以テ示シタル地目變換開墾墾下年期賦租新規荒地再荒地及ヒ荒地起返取調書ノ儀ハ申牒書へ添付シ可差出管ノ處右ハ表題ノ取調書トアルヲ屆書ト改メ檢査ノ順序及ヒ其他ノ事項ハ總テ與書トナシ一冊ニ調製差出スヘシ

前項ノ外地租ノ賦除及ヒ年季ニ係ル一切ノ屆書モ亦前例ニ準シ調製スヘク且伺出ツヘキノ成規アルモノト雖其項數僅少ナル者ハ一冊ニ調製差出スヘシ

尋テ同二十一年一月二十八日同省令第六號ヲ以テ明治十八年十一月同省達第七十四號様式中報告表ノ部開墾地第二號荒地第三號異動表ハ以來全管計ヲ以テ調製シ郡區分ケヲ爲スニ及ハサル旨ヲ令セリ

開墾地墾下年期賦稅取調書及其他ノ諸様式ハ明治十七年四月ニ於ケル號外達地租條例取扱心得書ニ依リ處分濟ノ上府縣知事ヨリ屆出テ其取扱ヲ爲シ來リタリ然レトモ繁文省略ノ趣旨ニ基キ

成ルヘク手數ヲ減少シ事ノ敏捷ヲ企圖スル爲メ從來ノ諸様式ヲ廢止シ荒地、低價地開墾地等ニ基ク地租ノ異動ハ明治二十年大藏省訓令第五十號ニ依リ進達スヘキ地租前年比較増減表ニ掲記シアルヲ以テ調査ヲ爲スニ止メ別紙様式ヲ以テ荒地低價地開墾地等年期ノ異動ニ係ルモノヲ進達セシメハ從來當局備付ノ臺帳ヲ整理スルニ於テモ亦幾分ノ手數ヲ省略シ彼是便利ヲ得ヘシトシ

同二十二年六月七日大藏省訓令第四十一號ヲ發セリ

荒地低價地開墾地ノ段別年期ノ増減ハ別紙様式ニ倣ヒ一箇年分取調翌年二月二十八日(本年六月三十日限)差出スヘシ(別紙様式ハ主稅) (別紙省略)

但明治十七年四月號外達地租條例取扱心得書様式第五號第六號第七號第八號ノ屆出ハ自今廢止ス

尋テ同年六月二十日大藏省訓令第四十四號ヲ發シテ同年七月一日以降租稅ニ關スル諸帳簿管理其他ノ取扱方ニ就キ其心得ヲ示セリ

明治十七年(肝)當省第八十九號達地租ニ關スル諸帳簿様式第一號附屬及第二號乃至第十七號ノ臺帳諸表竝土地臺帳地圖ハ收稅部出張所ニ於テ之ヲ管理セシムヘシ

府縣廳ニ於テハ前様式ニ倣ヒ郡市限地租臺帳及附屬臺帳諸表ヲ設ケ之ヲ整理スヘシ

明治十八年九月當省第六十四號達國稅臺帳ハ收稅部出張所ニ於テ之ヲ管理セシムヘシ

收稅部出張所ニ於テハ國稅每納期三十日以前ニ於テ其現在額ニ據リ部内市町村ノ納額若クハ一人別ノ納額ヲ調査シ之ヲ府縣知事ニ申報セシメ其以後納期末日迄ニ係ル増減及隨時收入ニ係ル納額ハ其時々之ヲ申報セシムヘシ



郡長ニ於テ徵稅令書ヲ發スヘキ國稅ノ納額ハ每期徵稅令書發付期日以前ニ其以後納期末日迄ニ増減アルモノ及隨時收入ノモノハ其時々府縣知事ヨリ之ヲ郡長ニ達スヘシ

明治十七年十二月當省第八十九號達地租ニ關スル帳簿第一號樣式地租臺帳ハ之ヲ廢止ス

以上述ヘタルカ如ク地租ニ關スル諸帳簿樣式ハ明治十七年大藏省達第八十九號ニ依リ爾來之ヲ取扱ヒ來リシカ後明治二十二年四月ニ至リ漸次市町村制ヲ施行スルコト、ナリ又同年五月府縣收稅部出張所ヲ設置シ加之ナラス同年十一月地租條例中ノ大部分ヲ改正シタル等大ニ法令制度ヲ變更セシカ故ニ斯ノ變更ニ伴ヒ諸帳簿ノ樣式モ亦自然變更ヲ要スヘキハ當然ノ事ナリトス玆ニ於テ翌同二十三年二月二十日大藏省訓令第十號ヲ發シ之ヲ改正セリ

明治十七年十二月當省第八十九號達地租ニ關スル諸帳簿樣式別冊ノ通更正ス  
別冊ハ當省主稅局ヨリ之ヲ送付ス (別冊省略)

但新設帳簿ノ外ハ現存帳簿ノ使用ヲ終リ新規調製ノ際ヨリ本樣式ニ據ルヘシ

然ルニ同年三月八日ニ至リ大藏省訓令第二十九號ヲ以テ國稅賦課ノ成績ヲ詳明ナラシメンカ爲メ左ノ手續ニ依リ毎年度國稅賦課計算書ヲ調製シ明治二十二年分ヨリ之ヲ大藏省ニ送付セシメ而シテ明治二十年訓令第五十號ヲ以テ示セシ租稅計算整理順序及同第五十二號ヲ以テ示セシ地租延納年賦異動報告ハ之ヲ廢止スヘキコト、セリ乃チ國稅賦課計算書ニ關スル手續ハ左ノ如シ

- 一 國稅賦課計算書ハ地租ハ曆年其他ノ國稅ハ會計年度ノ區分ニ依リ其所屬年度間ニ賦課シタル物件ノ員數及租稅額ヲ掲載スヘシ

- 一 國稅賦課計算書送付後所屬年度ノ出納完結ヲ過キ賦課額ノ異動ヲ發見シタルトキハ別ニ賦課追加計算書(表裏面ヘ元年)ヲ調製シ相當年度ノ賦課計算書ト共ニ之ヲ送付スヘシ但其所屬年度ノ出納完結以前ニ係ルモノハ之ヲ訂正シテ彙キノ計算ト引換ヲ請フヘシ
- 一 國稅賦課計算書ハ第一號ヨリ第十五號マテノ樣式ニ依リ調製シ地租ハ翌年三月以内其他ノ國稅ハ會計年度經過後二箇月以内ニ其應ヲ差立ヘシ但計算書樣式ハ主稅局ヨリ送付スヘシ

(樣式省略)

尋テ同月十四日主稅局長ハ本年二月ヲ以テ示セシ所ノ前記訓令第十號則チ地租ニ關スル諸帳簿樣式中ニ於ケル正誤ノ公示セリ

明治二十二年地租條例ノ改正アリシヲ以テ其改正後ニ於ケル新開免租年賦及ヒ開拓地繳下年期ノ増減表樣式ニ關シ同二十三年三月十五日主稅局長ハ坤第四七七號ヲ以テ其取扱方ヲ通知セリ  
客年法律第三十號ヲ以テ地租條例改正相成候ニ付テハ新條例施行後ニ附與セル新開免租年期及開拓地繳下年期ニ係ル分ハ客年當省訓令第四十一號荒地低價地開墾地等ノ樣式ニ倣ヒ増減表御進達相成度此段及御通知候也

又地租條例第十條ニ於ケル變換地ノ取扱ニ就キ同年十一月大藏省訓令第四百十三號ヲ以テ其手續ヲ示シ之ニ依リ届出ノ當年ニ於テ地目組換ヲ爲スコト、ナリ隨テ前述セシ處ノ同年同省訓令第十號ノ別冊中ニ於ケル第十號地目變換地臺帳及第十一號地類變換地臺帳ノ樣式ニテハ不都合ノ點アルヲ以テ更ニ翌二十四年二月十日同省訓令第八號ヲ發シ其改正ヲ爲スコト左ノ如シ



明治二十三年大藏省訓令第十號別冊中第十號第十一號變換地臺帳別紙ノ通更正第十二號續下  
年期ヲ附與セサル開墾地臺帳様式へ別紙ノ如ク凡例ヲ追加ス

但シ別紙ハ主稅局ヨリ送付ス (別紙省略)

地租ハ課稅ノ物件タル法定地價ニ基キ總テ曆年度ニ於テ之レカ確定ヲ爲スヘキモノナルカ故ニ  
從來大藏省ニ進達スル計算書ヲ編製スルノ材料ヲ初トシ直稅署若クハ其分署ニ備置ク所ノ地租  
臺帳ヲ定メ而シテ地租毎納期若クハ臨時ニ徵收スルモノ、調定額ハ府縣ニ於テ便宜補助簿ヲ設  
ケ之ヲ處理セシメタリ然ルニ其徵收ハ會計年度ニ依リ計算スヘキモノナルヲ以テ年々ノ徵收額  
中ニハ前年第六期及其年一月ヨリ三月迄ニ係ル所ノ繰上賦課及既往ニ遡ル賦課並ニ臨時賦課ヲ  
包含シ或ハ又其年第六期分ヲ控除スル等兩様ノ取扱ニ涉ルヲ以テ整理上往々錯誤ナキヲ免レス  
故ニ一ノ帳簿ニシテ兩途ノ使用ヲ爲ス組織ニ改メサレハ取扱上不便ナルノミナラス經費節約ノ  
折柄成ルヘク簿冊ノ數ヲ減シ以テ簡要ニ適セシムルハ必須ノ事柄ナルニ依リ更ニ同年四月二十  
九日大藏省訓令第四十一號ヲ發シ簡易ニシテ且曆年ノ租額ト調定濟額トヲ一帳ニテ對照シ得ル  
ノ様式ニ變更スルコト、セリ

又同年六月八日同省訓令第五十二號ヲ以テ前記明治三十二年同省訓令第二十九號毎年度國稅賦  
課計算書編製手續第二項及其但書ヲ左ノ如ク更正セリ

- 一 前年度所屬ノ租稅ニシテ四月一日以降異動發見ニ係ル分ハ發見年度ニ於テ調理シ追加計  
算書(表面へ元年)ヲ調製相當年度ノ賦課計算書ト共ニ送付スヘシ  
但賦課計算書記載方ノ誤謬ニ係ルモノハ會計年度經過後七箇月以内ニ更正ヲ請フヘシ

然ルニ同二十四年十月十二日大藏省訓令第七十五號ヲ以テ前述セシ所ノ明治二十三年(三)同省訓  
令第二十九號及ヒ本年(六)同省訓令第五十二號ヲ廢止シ更ニ國稅賦課現計書及ヒ報告表ニ關スル  
手續ヲ改定シ本年度分ヨリ此手續ニ據リ同省へ送付スヘキ旨ヲ示セリ乃チ其改定手續ハ左ノ如  
シ

- 一 現計書ハ別紙甲號様式ニ倣ヒ地租ハ曆年其他ノ國稅ハ會計年度ノ區分ニ從ヒ其年度間ニ  
賦課シタル物件ノ員數並ニ租稅額ヲ掲記シ翌年度五月十五日限り送付スヘシ但様式ハ主  
稅局ヨリ送付ス (様式省略)
- 二 現計書送付後該書ノ記載誤リ或ハ組違へ等發見セシトキハ年度經過後七箇月以内ニ該現  
計書ノ訂正方申請スヘシ
- 三 本年度所屬ニシテ翌年四月一日以後發見ニ係ル賦課洩ハ會計規則第一條第二ニ過誤納下  
戻シハ同規則第二條第二ニ依リ發見年度ニ於テ整理スヘシ
- 四 用紙ハ明治二十三年當省訓令第四百一十一號ニ依リ調製スヘシ
- 五 報告表ハ別紙乙號様式ニ倣ヒ調製送付スヘシ但様式ハ主稅局ヨリ送付ス (様式省略)
- 六 沖繩縣酒造免許稅ハ燒酎酒精何々及ヒ過年度收入分ハ(何年度分追徵)ト各仕譯書但書中ニ  
附記スヘシ

但地租表並ニ酒造免許稅日本形大船稅ノ様式ハ從來ノ例ニ依リ調製送付スヘシ

- 七 報告表中本年十月以前ニ報告スヘキ分ハ本年ニ限リ十一月三十日限り送付スヘシ

尋テ同二十六年四月十七日大藏省訓令第十五號ヲ發シ前記ノ明治二十三年同省訓令第十號同二



十四年同第七十五號ノ書式中ヲ更正ス是レ蓋シ月額免租殘額地租ハ從來處分ノ時々徵收シ來リ  
タレトモ這般相當ノ納期ニ徵收スルニ決定セシヲ以テ之ニ關聯スル諸帳簿中ヲ更正スル必要アリ  
タルニヨルモノナリ

又國稅賦課ニ關スル府縣收稅部署ノ諸帳簿及ヒ監督上ニ要スル報告様式等ハ既ニ規定スル所アリ  
シカ爾來稅目ノ改變其他法規ノ更正ニ依リ其取扱ニ一層ノ緻密ヲ加ヘ簿冊ノ編製上頗ル煩雜  
ニ涉ルカ故ニ簿冊ノ數ヲ減シ簡ニシテ要ヲ得ルノ方針ヲ以テ整理上ノ敏活ヲ期セントシ同二十  
七年二月二十三日大藏省訓令第九號ヲ發シ其更正ヲ爲シ明治二十七年分ヨリ施行スルコト、セ  
リ

前述シタルカ如ク國稅賦課設計書様式及ヒ諸報告表ハ既ニ明治二十四年大藏省訓令第七十五號  
ヲ以テ其調製手續並ニ様式ヲ定メタルカ會計規則第五十二條第二項ニ依リ會計検査院ニ提出ス  
ヘキ調定額計算書ト其調製方同一ナラサル點アルヲ以テ之カ整理ヲ爲スニ不便尠カラス而シテ  
現計書ハ課稅ノ物件及ヒ賦課調定額ヲ主トシ計算書ハ歲入ノ調定額ヲ主トスルモノナレハ全ク  
同一轍ニ調製セシムルハ固ヨリ至難ナルモ成ルヘク同一トシテ實際ノ整理ニ便宜ヲ得セシメサ  
ルヘカラス加之會計検査院ニ於テモ亦同一ノ主旨ナルヲ以テ同二十七年二月二十三日大藏省訓  
令第十號ヲ以テ更ラニ以上ノ國稅賦課設計書及ヒ報告書様式ヲ改正スルコト、シ又荒地其他ノ  
年期地ハ明治二十二年同省訓令第四十一號ニ依リ年々異動増減表ヲ提出セシメタルモ爾來收稅  
署ノ報告書類ヲ收稅部ノ臺帳ニ代用セシメ大藏省ニ於テハ府縣報告書ヲ現在臺帳ニ兼用スルト  
キハ彼是多少ノ手數ヲ省キ一般ノ取扱上便宜ヲ得ヘシトシ前者ト併セテ其更正ヲ爲スコト左ノ

如シ

明治二十二年(月)當省訓令第四十一號荒地其他ノ年期地増減表同二十四年(月)當省訓令第七十五  
號國稅賦課現計表及ヒ報告表様式別冊ノ通更正ス但別冊ハ主稅局ヨリ送付ス (別冊省略)  
然ルニ同年七月二十七日同省訓令第四十六號ヲ以テ前記訓令第九號同第十號國稅ニ關スル別冊  
様式中過誤納トアルヲ調定超過額ト更正セシニ依リ該訓令ヲ發スルト同日ニ主稅局長ハ坤第三  
五三〇號ヲ以テ調定超過額ノ區分ニ關スル取扱手續ヲ示シ其手續ニ依テ調製スヘキ旨ヲ通知セ  
リ

一 調定元簿中調定超過額ノ欄ニ更ニ中央線ヲ畫シ過誤額ト免除額トヲ區分掲記シ其事由ヲ  
摘要欄内ヘ記入スヘシ

一 租稅賦課現計書中ヘ記載スヘキ調定超過額ハ過誤納及ヒ免除額ヲ合算掲記スヘシ

一 調定超過額現計書本年度及ヒ過年度ノ目中ヘ過誤額ト免除額トヲ區分シ尙之レヲ細別何  
年何月又ハ第何期何々ト内譯記載シ其區分計及ヒ合計ヲ付スヘシ

尋テ同二十八年六月大藏省訓令第二十三號ヲ以テ地目誤謬訂正ヲ爲スニ當リ租額ニ増減ヲ生ス  
ルトキハ既納ノ地租ト訂正ノ地租トヲ對比シ其差額ヲ追徵若クハ還付スヘキコト、セラレシカ  
故ニ之ニ關スル臺帳及ヒ現計書ノ整理方ニ就キ同年六月十七日主稅局ハ坤第二六〇九號ノ通牒  
ヲ發セリ

地目誤謬訂正ニ關スル帳簿整理方

一 地租改正若クハ地押調査其他賦租セシモノニシテ地目誤謬アルコトヲ發見シ之カ訂正處



分ヲ了シタルトキハ其時々新舊地目限リ誤謬訂正調理簿へ記入シ之ヲ年計シテ土地臺帳集計簿へ移記ス

一 既往ニ屬スル地租ハ元租額ニ對スル訂正差額ヲ既往地租調理簿へ記入シ摘要欄内へ其事由ヲ掲載ス

一 地租第一期若クハ第三期調定後地目更正セシトキハ地租調定元簿摘要欄内へ科目訂正ト記入シ調定額欄内へ増ハ墨書減ハ朱書シ其事故欄内へ何々(地)ヨリ組換増若クハ何々へ組換減ト記入ス但科目ノ訂正ニ係ルモノハ之ヲ收入官吏ニ通知ス

一 誤謬租額ニ對スル訂正差額ニシテ收入科目ハ同一ナルモ甲者ハ増乙者ハ減ナル場合ハ増ト減トノ差引ヲ爲サス増ノ一方ニ依リ調定ス尤一人ニシテ増ト減トアルトキハ其差額ヲ調定シ該任譯書ヲ徵稅令書へ添付ス

一 賦課現計書ハ既往ニ關セス發見年度ニ於テ誤謬訂正ノ項へ編入整理シ該備考欄内へ誤謬租額ニ對スル訂正差額ヲ記載シ既往へ廻リ賦課若クハ調定超過額現計書ト對照ヲ便ナラシム

又明治三十年四月十日大藏省訓令第十八號ヲ以テ更ニ明治二十七年二月同省訓令第十號國稅賦課現計書及諸表様式ヲ改定セリ

明治二十七年二月當省訓令第十號國稅賦課現計書及諸表様式左ノ通改定ス (様式省略)

但明治二十九年度分中酒造稅(造石稅、免許稅、自家)、鹽營業稅、煙草營業稅、醬油營業稅、醬油造石稅、菓子稅(製造稅、營業稅)、沖繩縣酒類出港稅、船稅、車稅、狩獵免許稅、牛馬賣買免許稅ノ各賦課現計書及ヒ

同年分免租船車表ハ原様式ニ據リ府縣別ニ調製スヘシ

尋テ同三十一年二月二十六日大藏省訓令第十三號ヲ發シテ明治二十七年大藏省訓令第九號別冊中ヲ改正シ又國稅賦課現計書様式竝ニ同調製手續ハ數次ノ更正ヲ經タレトモ尙未タ完備セス調製上多クノ手數ヲ要スル點モ尠カラズ殊ニ報告表中各般取調ノ資料ニ缺クルモノアルカ故ニ同年四月七日同省訓令第二十三號ヲ以テ前記ノ明治二十四年同省訓令第七十五號同三十年同省訓令第十八號ヲ廢止シ更ニ左ノ手續ニ依テ國稅賦課現計表及ヒ報告表ヲ調製スルコトニ改メタリ

國稅賦課現計書及報告表調製手續

第一條 賦課現計書ハ會計年度ノ區分ニ從ヒ稅額物件數ヲ掲ケ而シテ調定ノ成績ヲ明ニスヘシ

第二條 賦課現計書及報告表ハ左ノ様式ニ依リ鑿砂引美濃紙若クハ之ニ類似ノ料紙ヲ用ヒ左側ニ曲尺五分ノ綴代ヲ明ケ調製スヘシ

第三條 煙草稅舊稅追納及沖繩縣東京府所管小笠原島伊豆七島ノ様式ヲ示サ、ルモノハ適宜ノ式ニ依リ明治三十年度ニ屬スル各印紙稅ハ仍明治三十年當省訓令第十八號様式ニ依リ調製スヘシ

第四條 同一ノ書式ニ據ルヘキ事項ハ其一例ヲ示ス他ハ之ニ準シ調理スヘシ但賦課現計書附屬任譯書ハ本現計書ノ類別ニ基キ課稅物件數ノ欄ハ各稅ノ必要ニ應シ適宜變更調理スヘシ

第五條 摘要ノ事項ハ其事故ノ異ナル毎ニ區分シ計算ノ基ク處ヲ明瞭ニ掲記スヘシ

第六條 稅額ノ算出上符合セサルモノハ其差額ヲ乘算過不足ノ欄ニ掲ケ特ニ事故アルモノハ



理由金額ヲ備考ニ掲記スヘシ

第七條 甲乙對照スヘキ事項ニシテ其員數ノ符合セサルモノハ理由員數ヲ備考ニ掲記スヘシ  
第八條 増減部ヲ設ケ整理セサルモノニシテ課稅物件ノ轉入出ニ係ルモノハ轉出ノ部ニ於テ之ヲ朱書シ其他重複ニ涉ルモノ亦之ニ準スヘシ

第九條 前條轉入出ノ北海道ニ係ルモノハ該所管稅務管理局名ヲ摘要ニ掲記スヘシ

第十條 翌年度分繰上ケ賦課シタルモノ及既往ヘ遡リ賦課拉ニ減除シタルモノニシテ本年度ノ増減ニ關セサル課稅物件數ハ朱書スヘシ

第十一條 送付期日內ト雖モ調理濟ノモノハ速カニ送付スヘシ但報告スヘキ事故ナキトキハ其旨申報スヘシ

第十二條 本年ニ限り第二十三號第二十四號第三十三號第三十四號第三十七號ノ報告表ハ明治三十一年四月三十日限り送付スヘシ

(様式省略)

然ルニ國稅賦課現計畫ニ關シ尙要三十二年四月十三日大藏省訓令第二十九號ヲ發セリ

明治三十一年當省訓令第二十三號國稅賦課現計畫同附屬仕譯書及年期地表ハ明治三十一年度分ニ限り會計規則第五十二條第二項ニ據リ會計検査院ニ證明スヘキ租稅歲入調定額計算書並明細書ノ様式ニ據リ調製シ計算書ト共ニ當省ヘ送付スヘシ

但様式中土地ニ關スルモノニシテ地價及筆數ノ欄ナキモノハ便宜之ヲ増設シ掲上スヘシ  
同年六月十二日ニ至リ同省訓令第四十五號ヲ以テ曩ニ示セル國稅臺帳ノ様式ヲ改メタリ

稅務署ニハ漸次別冊様式ニ準シタル帳簿ヲ備ヘ置國稅ニ關スル事項ヲ記載セシムヘシ但シ別冊ニ様式ヲ示サ、ル事項ハ適宜ノ帳簿ヲ調製シテ之ヲ記載シ又ハ書類ヲ編綴シ置等便宜ノ方法ニ依リ國稅ノ調定其他稅務執行上ニ支障ナキコトヲ期スルヲ要ス  
別冊ハ當省主稅局ヲシテ送付セシム (別冊省略)

明治二十七年大藏省訓令第九號及明治二十九年大藏省訓令第二十六號ハ自今之ヲ廢止ス  
又同年八月十八日同省訓令第十六號ヲ發シテ明治三十一年大藏省訓令第二十三號及第七十號ヲ廢シテ更ニ様式ヲ改正スルコト左ノ如シ

租稅ノ現況ハ自今左記様式ニ據リ報告シ各其定ムル期日ヲ誤ラサルコトニ注意スヘシ仍會計規則第五十二條第二項ニ依リ調製シタル歲入調定額計算書中租稅ニ關スルモノニシテ明治三十一年度以降ニ係ルモノハ其ノ副本ヲ製シ會計検査院ニ呈出スヘキ計算書ト共ニ當省ニ差出スヘシ

(様式省略)

明治三十一年大藏省訓令第二十三號及第七十號ハ之ヲ廢止ス

次テ明治三十三年六月大藏省訓令第五十二號ヲ以テ先ニ發布セル明治三十二年訓令第六十號租稅ノ現況報告様式中第一號第二號第三號様式表名中ニ改正ヲ加フ

### 第二 土地臺帳

地租ハ從來地券面ニ記載セル地價ヲ課稅ノ標準トシテ賦課徵收シ來リシカ後土地臺帳ヲ編製ス



ルニ至テ遂ニ地券ヲ廢シ地租ハ土地臺帳ニ登錄シタル地價ニ據テ其記名者ヨリ之ヲ徵收スルコト、セリ而シテ土地臺帳ヲ編製スルニ至リシハ歐洲ノ「タガストル」(Cadastral)ニ準依セシモノニシテ地價地租ノ金額及ヒ所有者ヲ掲クル外土地ノ種目段別所在地番號其他土地ニ關スル異動沿革等ヲ記載スルモノナルヲ以テ實ニ地租ニ關スル帳簿中最モ重要ニシテ且根本的ノモノナリト云フ可シ然リ而シテ其調製手續及ヒ之ニ關係スル取扱規則等モ亦他ノ帳簿ニ比シテ複雜ナリ故ニ特別ニ土地臺帳ニ關スル事項ノ沿革ヲ説明セントス

明治十七年十二月大藏省ハ達第八十九號ヲ以テ地租ニ關スル諸帳簿樣式ヲ改定シ就中土地臺帳ヲ編製シ以テ地租改正ノ成績ヲ鞏固ニシ將來實地ト帳簿トヲシテ齟齬錯亂スル所ナカラシメントス蓋シ明治十三年太政官布告第二十五號ニヨリ地目變換地價修正ヲ實施セシト雖モ偏ニ人民ノ申出ニ依リ其實地ヲ調査セシノミニシテ全般ノ土地ニ就テ之ヲ行ヒタルニ非ルヲ以テ地目變換土地開墾等ニシテ苟クモ増租ニ屬スルモノ、如キハ概シテ其申出ヲ爲サス且改租ノ際ニ於ケル遺漏脱落ノ土地モ亦尠シトセサルナリ因テ其帳簿ヲ調製スルノ前ニ於テ土地所有者ヲシテ帳簿圖面ト實地トノ異動ヲ申告セシメ一方ニ於テ多數人民ヲシテ犯則ノ不幸ニ陷ルコトナカラシメ從テ其所有ノ權利ヲ鞏固ニスルト同時ニ亦他方ニ於テ完全ノ帳簿ヲ編製シ賦租ノ根本ヲ正確ナラシムルコト、シ明治十八年二月二十八日大藏卿ハ主稅局秘第十號ヲ以テ之ヲ訓示セシコトハ既ニ前ニ述フル所ノ如シ

以上ノ如ク地押調査ニ關スル訓令ヲ發シ帳簿圖面ト實地トノ相違ヲ申告セシメシト雖未タ充分ニ其旨趣貫徹セサルノ傾向アリテ之カ實地ヲ踏査スルニ方テ動モスレハ帳簿圖面ト相違スルモノ

アリキ然ルニ土地臺帳ナルモノハ元來地租ヲ賦課スル根本ニシテ最必要ナルノミナラス人民各自ノ權利利害ニ關係スルコト至大ナレハ之ヲ編製スルニ際シテハ精確且緻密ナルヲ要スルニ依リ次テ同十九年七月三十一日大藏大臣ハ左ノ内訓ヲ爲セリ

十七年當省第八十九號達ニ依リ土地臺帳編製ニ付テハ各町村ヲシテ帳簿圖面ヲ以テ實地ニ調査シ事實相違ノ有無ヲ申告セシメ收稅官吏ヲシテ其當否ヲ檢査セシムヘキ旨曩ニ訓示ニ及ヒタル處爾來町村ノ申告ニ依リ之ヲ踏査スルニ其帳簿實地ト齟齬スルヨリ人民ニ於テ再調ヲ懇請シ爲メニ其檢査ヲ中止スルニ至ルモノ往々有之哉ニ相聞エ右ハ町村取調方ノ不都合ナルニ起因スルハ勿論ナリト雖モ其如斯ヲ致スモノハ自然今般ノ趣旨未タ徹底セサル義ニハ無之歟抑帳簿ト實地ト適合ヲ要スルモノハ一ハ收稅上重複遺漏ナキヲ期シ一ハ人民土地所有ノ權利ヲ鞏固ニスルカ爲メノ目的ニ出タルモノニシテ而シテ此際ニ專ラ之ヲ取調ヲ爲サシムルハ改租ノ成績ヲシテ紛亂セシメス且人民中將來犯則ノ者ナキヲ期スルノ趣旨ニ有之然レトモ此舉ノ如キハ頻年ニ爲スヘキニ非ス又今回ニ於テモ改租以來幾許ノ年所ヲモ不經ニ付務ヲ民力ヲ愛惜スヘキノ時ニ有之ニ付テハ十分ニ其順序ヲ謹ミ官民ノ不注意ヨリシテ再三ノ勞費ヲ徒消スルカ如キコトナキヲ要セサル可ラス然ルニ若ヤ屢其調査ヲ爲スカ如キアルトキハ官民共ニ勞費ヲ空クシ實ニ容易ナラサル義ニ有之就テハ左ノ順序及注意ノ如キハ既ニ履行ノ筈ニ可有之ト雖モ尙又爲念之レヲ通告セントス則今般ノ順序ハ第一人民ニ對スル諭達ヲ懇切ニシ第二郡區長ヲシテ今般ノ趣旨ヲ服膺且ツ熱心セシメ第三本旨ノ貫徹ト取調ノ手續ヲ懇示スル爲メ收稅吏ヲ巡回口諭セシメ第四實地ニ習熟シテ徒勞ナキヲ要スル爲メ模範檢査ヲシテ官民從事



者ノ參觀ヲ爲サシムル等土地ノ實況ニ應シ其宜シキヲ制シ然ル後人民ノ申告ニ從ヒ検査ヲ爲サシメ將タ其検査ヲ爲スニ就テモ萬々正當ト認ル上ニ於テ著手ヲ爲シ又其成功ヲ速ニセントシテ疎漏ニ涉ルナク或ハ事務進捗ヲ弛漫ニシテ空シク費用ヲ消スナク要スルニ官民ノ費用ヲ節省シテ取調上ノ精確ヲ期スル等常ニ之ヲ注意シ其從事者一般ヘモ之ヲ懇篤示達アラントコトヲ望ム

斯クテ土地臺帳ヲ編製スルニ當テ先ツ地押調査ヲ爲スコト、セラレシカ故ニ地押ノ際發見ニ係ル地目變換開墾地荒地等ノ處分ハ既ニ府縣知事ヘ委任アリタルヲ以テ固ヨリ其處分ヲ爲スヘケレトモ誤謬脱落及重複ノ土地ハ斯等ノモノト種類ヲ異ニスルヲ以テ稟議ヲ經テ之カ處分ヲ爲サル可ラス然ルニ此際斯ノ如キ種類ノ土地ヲ發見スルコト夥多ニシテ一々稟議ノ上之ヲ處分スルトキハ大ニ滯滞ヲ來シ總テノ整理ニ關シ障礙少カラサルナリ茲ニ於テ明治二十年九月二十四日大藏省ハ左ノ内達ヲ發セリ

今般地押發見ニ係ル誤謬脱落及ヒ重複地ハ此度限り處分ノ上當省ヘ届出ヘシ  
 明治二十一年(月日)主稅局長ハ更ニ地押取調舉行ニ就テ左ノ口演ヲ爲セリ

今般各地方ニ地押取調ヲ舉ケシムル所以ハ明治十七年當省第八十九號達ヲ以テ地租ニ關スル諸帳簿ノ調成式ヲ定メ其內土地臺帳ナルモノハ政府ニ取テハ地租ヲ課スルノ元本ト爲リ又土地所有者ニ取テハ自家不動産ヲ明記セル正本ナリ故ニ右土地臺帳ヲ調製スルニ當リ唯ニ從來ノ帳簿ヲ謄寫スル如キコトアラハ舊帳ノ不完備ナルヨリ誤リヲ後來ニ傳フルノ虞ナシトセサレハ其調成ニ先立チ深ク注意ヲ與フヘキハ缺クヘカラサル事ナリトス是レ地押取調ヲ爲サシ

メント欲セシ發端ニシテ之ヨリ其事山ノ梗概ヲ陳述スルアラントス

地租改正ノ大事業竣成ノ後ハ一時休養ノ道ヲ取り官民共ニ漸ヲ遂ケ注意ヲ加ヘントスルニ方リ他ノ諸稅務ノ改良ヲ專ラニセサルヘカラサルヨリ自然土地ノ検査ヲシテ充分周到ナラシムルコトヲ得ス故ニ改租後十星霜ヲ經過シタル間ニハ人民ノ隨意上ヨリ土地ヲ變更セシモノ漸々積テ巨多ノ數ニ上リ現今ニ於テハ所在土地ヲ變更セシモノ之レアラサルナキニ至リシ景況ナリ土地ノ變更ニ係ル無届變換ト云ヒ無願開墾ト云ヒ又ハ脱落地ト云ヒ皆是地租條例ノ犯則者ニシテ一々其罪ヲ問フニ至ラハ一時全國ニ數十萬人ノ犯罪者ヲ見ルニ至ルヘク畢竟其罪ハ人民ニ在テ然ルナレトモ政府モ亦前項ニ述ル如ク多少不注意ノ點ナシトセサレハ俄然之レヲ檢舉スルハ忍ヒサル所ニシテ事情ニ於テモ又ハ深ク憫察セシムルハアルヘカラサル場合ニ立至レリ去ラハ逆其儘之ヲ不問ニ措クトキハ早晚何レノ日ニカ檢舉セラル、コト必然ニシテ到底人民ニ不幸ヲ被ラシムルコトハ免レサルヘシ故ニ一應實地取調ヲ爲サシメ事實相違ノ有無ヲ各地主ヨリ申告セシムヘキ旨昨年二月一般ニ訓示シ其注意ヲ與ヘタリ最モ地押取調上ヨリ發見スル地目變換地開墾地等ハ直ニ人民ヨリ地價ノ修正ヲ出願セシムヘキモノトシ固ヨリ之レヲ犯則トシテ取扱ハサル筈ニテ爾來各地方共專ラ取調中ナリ楮昨年二月訓示ヲ達シタル頃ハ全國ニ於テ凡五六百萬筆ノ申告アルヘキ積リナリシカ其後追々増加シ目下ノ所ニテハ當初ノ見込ヨリモ殆ント陪從セントスル景況ナリ、地押取調ノ舉行タル政府有租地ノ實際ヲ整理シ又ハ他ノ一方ニハ人民犯則ニ陷ルノ不幸ナキニ至ルモノニシテ所謂一舉兩益ノ事タルニヨリ各府縣知事ニ於テモ勸誘等親切ニシ而シ



テ實施セシメラレタルカ故ニ人民ニ於テハ頗ル其趣旨ヲ了解シ今日ノ景況ニテハ至極順道ニ進行シ居ルトモ稅務ノ事タル人民ニアリテモ直接ニ其財產ニ關スルコト故此末或ハ心得違ノ者起ラサルナキヲ保シ難シ此一段ハ前途ニ於テ深ク懸念スル所ナリ以上敘述スル事柄ニ就テハ各知事方ヨリハ夫々命令モアリ各位既ニ承知ノ事ナルヘケレトモ今般各位集會ニ付直接ニ本意ヲ述ヘシ次第ナリ猶此上トテモ收稅長ト克ク協議セラレテ萬端此舉ノ都合能ク竣成スルニ至ル様努力アラントヲ希望スルナリ

尙同年主稅局ニ於テハ左ノ如キ要旨ヲ決議シテ各府縣ノ警部長ニ依頼スル所アリタリ

- 一 府縣收稅官ハ稅務ニ關シ實際ヲ觀察シ充分職務ヲ盡スヘキハ信シテ疑ハサル所ナリト雖モ地租ハ其關係ノ曠大ナルヨリ間々觀察ノ及ハサル所モアルヘシ又人民ノ常情トシテ官廳ニ申出ルノ少手數ヲ厭ヒ收稅官ノ目ニ觸ル、マテハ成ル丈ケ隱匿セントスル者モ之レアル事

- 一 人民ノ内ニハ故意ニ收稅官ノ眼ヲ眩シ私意ヲ貫ント欲スル者モ所在間々有之コトアリ而シテ此等ノ輩萬一ヲ僥倖スルトキハ私ニ相通謀シテ實際ニ大弊ヲ醸生セントスルニ至ルヘキ事

- 一 限アル府縣收稅官ハ管内數十萬筆乃至八百數十萬筆ノ内ニ就テ調査ヲ爲スモノナレハ自家ニ於テハ充分職務ヲ盡セルモノト信スルモ其耳目ニ至テハ又及ハサルコトアルハ必然ナル事

右ノ次第ニ付警察上ニ於テ聞知セラル、廉モアラハ事ノ大小ニ拘ラス收稅長ニ内報セラレン

コトヲ切ニ希望スル所ナリ

又同年(月日)主稅局ニ於テハ土地臺帳調製手續及ヒ地押檢了後手續復案ナルモノヲ定メタリ

土地臺帳調製手續

- 第一條 明治十七年度又ハ十八年度等地方廳ニ於テ指定スル年度ヲ本トシ戶長役場ニ於テ地價帳中改租以後處分濟ニシテ加除訂正未濟ニ係ルモノヲ張紙ヲ以テ夫々訂正スルモノトス
- 第二條 右訂正ノ上一地目限リ段別地價地租寄付ヲ爲シ郡衙ノ地租臺帳又ハ地券表等ノ額又ハ地方廳ノ地租表等ノ額ヘ對照シ段別地價地租ヲ照合スヘシ
- 第三條 右手續ヲ了シ地押スヘキ根基ヲ定メ而シテ地押ニ著手シ檢査ヲ受クヘキモノトス
- 第四條 前第一條ニ記載スル年度以降十八年二月訓示ノ申告地ニ係ルモノ、外尋常變換其他賣買ニ依リテ本地ニ異動ヲ生スルトキハ其年毎第一條ノ如ク加除セシ地價帳ヘ對シ更ニ同條ノ方法ニ依リ加除訂正スヘシ但本條尋常ノ異動地ヲ訂正スル場合ニ於テハ總體寄付ハ省略スルモ妨ケナシト雖モ合計ヲ第二條ノ寄附ニ増減加除シ置クヘシ
- 第五條 十八年二月訓示ニ從ヒ申告セシ土地ノ内荒地其他ノ事故ニヨリ異動ヲ生スル場合ニハ其申告ノ廉ヲ取消シ更正ノ申告書ヲ以テ土地臺帳ニ記入スルノ資料トナスヘシ但申告書檢査完結ノ上ハ一町村限異動ノ種類ヲ類別シ每種類ニ地目限リ區別シタル合計ヲ爲スヘシ
- 第六條 既往ノ手續ハ前數條ノ如クニシテ十八年二月訓旨ニ係ル申告地ノ檢査ヲ了シ允可ノ上ハ左ノ手續ニ依リ土地臺帳ノ登記ニ著手スヘシ
- 一項 第一條ニ從ヒ訂正セシ地價帳ト第五條ノ十八年二月訓旨ニ係ル申告ノ書類トニ就キ



地價帳ニ記載スル地番號ノ順ニ從ヒ其新番號等ヲ設ケシ場合ハ申告書ニ就キ彼此對照シテ土地臺帳ヘ登記スヘシ

二項 第一條ノ如ク訂正セシモノニシテ第二條ノ如ク地目限リ寄附セシ者ト第四條第五條ノ分ト共ニ夫々登記ノ上ハ第四條但書ト第五條但書ノ申告書總計トヲ以テ假リニ地目限リ段目地價地租ノ總計ヲ算出シ置キ更ニ一筆限リノ寄付ヲ爲シ符合セシムルコトヲ要ス

三項 第二項ノ總計ヲ郡衙ノ地租臺帳ト比照シ差違アルモノハ其筋ヘ開申セシメ夫々調理ノ手續ヲ求メシムヘシ

四項 右ヲ了セシ後明治十七年八十九號達土地臺帳丁號(乙號)式ノ如ク施行スヘシ

五項 土地臺帳ハ其表紙ト小口(簿册ノ下部ヲ載落)ヘ其帳所載ノ字名ヲ記入シ且冊數帳號ヲモ記入シ末帳ヘハ何號止ト記載シ其冊數ノ全備ヲ示スヘシ

六項 十七年八十九號達土地臺帳戊號或ハ成ルヘク各字限リ之ヲ末尾ニ記載スヘシ

七項 右ノ如ク調製シタル上ハ土地臺帳ノ卷首ニ之ヲ整備セシ當該年度根基(例ヘハ十八年明治二十年度根基ト記スルノ類)ト記入スヘシ

第七條 右了リシ後ハ地價帳竝ニ申告書類ノ紙尾ニ土地臺帳ヘ轉記濟ト記入シ地價帳ハ八九號達旨ニ從ヒ目錄ヲ作り之ヲ保存シ申告書類ハ類別シ共ニ目錄ヲ作り地價帳ノ補助簿ト爲シ保存スヘシ

地押檢了後手續復案

一 二十年度土地整理結了ヲ計ルニ付テハ實地検査ハ十月前後ヲ期シ必ス完結スルヲ要ス

一 收稅部ニ於テハ豫メ検査結了ノ後チ賦除租ノ表式(賦除スヘキ各種租ニ從ヒ元段別地價地租ヲ檢査段別地價地租ヲ記入スヘキモノ)ヲ備ヘ検査員ヨリ報道ノ時々之ヲ記入シ検査ノ濟否ヲ詳明ニシ伺届ヲ整理スルノ基本トスヘシ

一 賦租ノ書類ハ一郡又ハ一地方檢了次第知事ヨリ大藏省ニ進達シ二十年度ヨリ施行スルモノト爲シ允可ヲ受ケ置クヲ便ナリトス

一 地方廳ニ於テハ允可ノコトヲ郡衙ヘ傳達シ又ハ其意味ヲ示シ地券書換等ノ爲メ帳簿等整理ノ手續ニ著手スヘキモノトス但申告地ハ大藏省令第一號第二條第十條ノ範圍外トス

一 前條手續ニ付十二月頃ヨリハ府縣郡區町村帳簿ノ整理ヲ告クルニ際スヘキニ付漸次地券書換ニ著手スヘキモノトス

一 本年檢了スヘキモノハ本年度ヨリ賦除租ノ手續ヲ爲スヘキモノトス

一 賦除租ニ關スル伺届或ハ郡區限リノ區別ヲ爲スヘキ筈ナレトモ本伺届ニ限リ省略シ總計ヲ以テスルモ妨ケナシトス

一 本年度ニ檢了シ能ハサル地方ト雖モ來年度ニ於テハ精々手續ヲ爲シ本順序ノ如ク整理シ必ス完結スルヲ要ス

如上ノ外尙同局長ハ土地ノ検査竝ニ監督上ノ注意ニ關シ左ノ口演ヲ爲セリ

各地ノ實況ニ依リ山間部アリ平坦部アリ一筆ノ大小アリ固有ノ人情風俗アリ一様ナラサレハ検査ヲ進捗セシムルノ順序方法モ亦同シキ能ハスト雖モ汎ク之ヲ通觀シ注意スヘキ要點ヲ掲クルコト左ノ如シ



一 検査員ハ其村検査ニ先チ從來ノ帳簿訂正ノ整理及申告書ト之ニ附帶スル野取圖等ヲ見サ  
ルヘカラス豫メ之ヲ見テ其整理セル村ヨリ著手スルヲ主トスヘシ検査著手ノ後申告書類等  
ノ事項ヨリ再調等ニ至ルナキ様注意ヲ要ス

一 検査員其検査ニ臨ンテハ必ス先ツ其繪圖ヲ熟視シ新調ニ係ルモノハ之ヲモ對比シ地押ス  
ヘキ字ノ所在又ハ何レノ字ニ異動多カルヘキヤ又何レノ邊カ二類地多キ所ニシテ異動多カ  
ルヘキヤヲ豫知シ検査ニ著手シテ以後惣代人等無用ノ問答ニ時間ヲ費サ、ルヲ要ス

一 丈量ハ二人ノ内互ニ擔當ヲ定メ野帳ノ登記人足ノ指揮等夫々責任ヲ定メ成ルヘク舉動ヲ  
敏活ニシ常ニ第一境界ノ判定第二丈量第三檢算第四地價ヲ査定スルモノハ其比準地ヲ視ル  
コト等順序ヲ定ムヘシ一日ニ檢了スヘキ等數ヲ時間ニ割ルトキハ實ニ分時ト雖モ貴重ナリ  
去迎時間ノミニ拘泥スレハ常ニ粗漏ノ弊アリ故ニ順序ニ於テハ最モ注意ヲ要ス

一 地押ヲナシテ後異動地ヲ検査シ又ハ併行スル等其土地ノ實況ニ從フト雖モ宜シク其實況  
ニ應シテ之ヲ施行シ錯雜シテ終ニ龜漏ニ涉ルノ弊ナキヲ要ス

一 當日檢了ニ係ルモノハ必ス當夜其書類ヲ調理シ日課表等各地方ノ定ムル表式等ニ記入シ  
一町村檢了ノ上ハ段別地價地租ヲ各種類限リ寄付收稅部ニ送付セシメ後日ノ課程トナサ、  
ルヲ要ス

地租ハ他ノ諸稅ト異ナリ監督員ノ設ケモナシ現今ハ土地整理ノ委員ニ長タルモノアリ多少監  
督ノ便益アリト雖モ雜稅等ノ定マリタル若干ノ營業者ニ就クトハ趣ヲ異ニシ全管ノ耕地或ハ  
山岳原野等ニ涉ルコトナレハ一ニ其検査振ヲ監督セントスルハ理ニ於テモ爲シ難キ所ナリ

而シテ實際ヲ視レハ甚タ憂慮ニ堪ヘサルコトニシテ地押ノ筆數ヲ多クスレハ丈量地價査定案ノ  
粗ナラサルヲ得ス又丈量地價査定案ノ筆數ヲ増セハ或ハ容易ナル方形地ヲ丈量シ又ハ地價査定  
ヲ緩慢ニ付スルアリ是レ皆検査員其人ニ在リテ存スルハ論ヲ俟ス然ラハ徵稅費ノ配布ヲシテ  
餘裕アラシメ一旦検査筆數ヲ少ナフスルモ實際ヨリ言ヘハ少ナキモノ必ス精ニモアラス或ハ  
怠慢ヲ生スルノ弊アリ多キモノ必ス粗ナルニアラス却テ順序ノ當ヲ得ルニ由ルアリ是等土地  
ノ情況ト從前ノ慣習又ハ帳圖ノ整否ニ依リテ一定セス課稅表ナルモノハ即チ一日檢了ノ成績  
ヲ徵スルモノニシテ其地價査定等ノ當否ト検査ノ進否ヲ審査スルヲ得ヘク野帳ハ即丈量ノ難  
易巧拙ヲ視ルヘキモノナレハ常ニ是等ニ注意シ右ヲ以テ監督ノ方法ト爲シ充分ノ效力アラシ  
メンコト希望ニ堪ヘサルナリ

又監督ノ方法ト共ニ常ニ注意スヘキハ検査員ト本部員トノ往復ニテ之カ規程ヲ設ケ常ニ貫通  
セシメサルトキハ自ラ不取締ヲ生スルノミナラス氣脈ノ不通ヲ來シ内外方向ヲ異ニスルノ弊  
ヲ生ス

右等監督ノ方法尙實況ニ從ヒ適宜御擴張ノ事希望ニ堪ヘス

斯ノ如クシテ地押調査漸ク終了ヲ告ケ依テ以テ土地臺帳ヲ編製スルヲ得ルニ至レリ加之從來ニ  
於ケル地券ハ今ヤ其必要ナキニ至リタルヲ以テ同二十二年三月二十二日法律第十三號ヲ公布シ  
テ地券ヲ廢シ地租ハ土地臺帳ニ登錄シタル地價ニ依リ其記名者ヨリ之ヲ徵收スルコト、シ尙之  
ト同時ニ勅令第三十九號ヲ以テ土地臺帳規則ヲ規定スルコト左ノ如シ

土地臺帳規則 (明治二十二年三月二十二日)



第一條 土地臺帳ハ地租ニ關スル事項ヲ登錄ス

第二條 市ノ土地臺帳ハ府縣廳ニ於テ町村ノ土地臺帳ハ島廳郡役所ニ於テ之ヲ設ケ其事務ヲ取扱フヘシ

第三條 登記所ニ於テ土地所有ノ移轉及質入ノ登記ヲ爲シタルトキハ土地臺帳所管廳ニ通知スヘシ

第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ要スル者ハ土地一筆ニ付金貳錢ノ割合ヲ以テ手数料ヲ納ムヘシ

第五條 地券ニ記載ノ事項異動ヲ生セサルモノハ其地券ヲ以テ前條ノ謄本ト見做スコトヲ得

第六條 本規則ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條 市制ノ施行ニ至ラサル土地ニ於テハ區ニ屬スル土地臺帳ハ區役所ニ於テ其取扱ヲ爲スヘシ

而シテ數日ヲ經テ同年三月二十六日大藏省訓令第十一號ヲ發シテ曰ク

勅令第三十九號土地臺帳ハ從前ノ地券臺帳ヲ整理修補シ之ニ充ツヘシ

之ニ依テ地券臺帳ヲ土地臺帳ニ充用セシメ更ニ同年四月一日大藏省令第六號ヲ發布シテ土地臺帳規則施行細則ヲ制定セリ

土地臺帳規則施行細則 (明治二十二年)

第一條 土地臺帳ハ市町村ニ區別シ土地ノ字番號地目段別等級地價地租所有者及質取主ノ住所氏名ヲ登錄スヘシ

第二條 土地臺帳記載ノ所有者質取主ノ住所氏名ニ異動ヲ生スルトキハ其時々之ヲ届出スヘシ

第三條 土地臺帳ノ謄本ヲ請求セントスルモノハ其請求書ニ手数料ヲ添ヘ市ハ府縣廳町村ハ島廳郡役所ニ申出ヘシ

第四條 土地臺帳ノ謄本ヲ請求シタルトキハ左ノ雜形ノ如ク記載シ之ヲ下付スヘシ

(切ッ三紙濃美紙用)

土地臺帳ノ番號	字		地		番		國
	市	郡	市	郡	市	郡	
地目段	種目		種目		種目		村
	內	外	內	外	內	外	
別	書		書		書		町
	別	書	別	書	別	書	
地價	租		租		租		村
	地	價	地	價	地	價	
地	租		租		租		村
	地	租	地	租	地	租	
本	名		名		名		村
	所	住	所	住	所	住	
本	期		期		期		村
	年	開	年	開	年	開	
本	荒		荒		荒		村
	地	免	地	免	地	免	
本	所		所		所		村
	住	者	住	者	住	者	
本	名		名		名		村
	氏	所	氏	所	氏	所	

明治 年 月 日

主任官氏名印

同年五月七日司法省令第三號ヲ以テ本年三月勅令第三十九號土地臺帳規則第三條ノ通知ハ登記



ヲ爲シタル日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スヘシ但地租毎納期終了ノ前十日以内ニ其通知ヲ爲スヘキコトヲ令達シ次テ同三十三年一月十三日同省令第二號ヲ以テ同施行細則第三條ヘ左ノ一項ヲ追加セリ

啓本ハ郵便ヲ以テ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ返信料ニ相當スル郵便切手ヲ添送スルコトヲ要ス

而シテ又前述セシカ如ク地券臺帳ヲ以テ土地臺帳ニ充用セシメシト雖モ地券臺帳ハ改租當時ニ於ケル調製ニ係ルモノナルカ故ニ様式等一定セス頗ル錯雜シテ之ヲ補修セントスルニハ其手數容易ナラサルノミナラス而モ多年ノ使用ニ堪ヘサルヲ以テ明治二十二年五月二十五日主稅局長ハ更ニ各府縣ヘ左ノ通知ヲ發セリ

土地臺帳ノ儀ハ去ル三月二十六日付訓令第十一號ノ旨モ有之候處從前ノ地券臺帳ハ多ク改租ノ際調製ニ係リ様式等モ一定セス頗ル錯雜其手數容易ナラサルノミナラス之ヲ修補スルモ多年ノ使用ニ堪ヘサルヲ以テ此際新調スヘキ事ニ内定相成候就テハ修補方ハ御中止相成度尤モ經費ノ都合モ有之今後三箇年間ヲ期シ整頓スヘキ筈ニテ貴縣ノ儀ハ二十二年内ニ總筆數ノ何歩二十(四)年度内ニ何歩(ハ)別紙(區分書)ツ、御調製可相成都合ニ有之候間御見込ヲ以テ御計畫經費請求相成候様致度豫メ此旨及御通知候也

追テ豫算ノ都合ニ依リ御請求金額ニ對シ各年度配賦上多少變更可相成モ難計ニ付前以テ御了知相成度此段申添候也

斯ノ如ク其中止ヲ圖リシト雖モ曩ニ地押調査ニ際シ各府縣中異動筆數夥シク地券臺帳ヲ補修ス

ルヨリモ寧ロ土地臺帳ヲ新調スル方却テ費用ト手數トヲ省略スヘキ趣旨ニテ其新調ヲ計畫スルモノ少カラス殊ニ地押調査ニ於テ全國一般ニ異動地ヲ發見シ何レモ土地臺帳ノ新調ヲ便利トスルノ狀況ナリシカ故ニ此際土地臺帳様式ヲ定メ府縣ヲシテ之レニ基キ新調セシメンカ爲メ同年七月一日大藏省訓令第四十九號ヲ發シテ其様式ヲ定ム

本年(三)當省訓令第十一號第一項ノ土地臺帳ハ別紙様式ニ倣ヒ漸次新調シ明治十七年當省第八十九號達別冊第十九號様式ニ據リ收穫地價一段歩當表ヲ調製添付シ置クヘシ但様式ハ當省主稅局ヨリ之ヲ送付ス

(表中△印ヲ付スルハ朱字又「イ」印「ロ」印「ハ」印「ヨ」印「ロ」ニ向テ朱ノ雙線ヲ引ク事ヲ意味ス)

字		地番		等級		登記		事故		住所	
段別	段	内歩	外歩	沿	草	年月日	取得	所有	主	住所	所有
地租	地價	名稱	名稱	名稱	名稱	年月日	取得	所有	主	住所	所有
一〇〇〇	一〇〇〇	五歩	拾歩	拾歩	拾歩	明治 日年	質取	何	何	何	何
三〇〇〇	三〇〇〇	五歩	拾歩	拾歩	拾歩	明治 日年	質取	何	何	何	何
七五〇	七五〇	五歩	拾歩	拾歩	拾歩	明治 日年	質取	何	何	何	何
一〇〇〇	一〇〇〇	五歩	拾歩	拾歩	拾歩	明治 日年	質取	何	何	何	何
五〇〇〇	五〇〇〇	五歩	拾歩	拾歩	拾歩	明治 日年	質取	何	何	何	何
二二五〇	二二五〇	五歩	拾歩	拾歩	拾歩	明治 日年	質取	何	何	何	何
五〇〇	五〇〇	五歩	拾歩	拾歩	拾歩	明治 日年	質取	何	何	何	何
二五〇〇	二五〇〇	五歩	拾歩	拾歩	拾歩	明治 日年	質取	何	何	何	何
六二五	六二五	五歩	拾歩	拾歩	拾歩	明治 日年	質取	何	何	何	何



備考	田		田		田	
	一五〇〇〇	三〇〇〇	一〇〇〇〇	五〇〇〇〇	一〇〇〇〇	五〇〇〇
○他ノ地目ハ之ニ做ロ地番號順ニ調製スヘシ○本帳ハ大字(郡)限リ區分 シ一册ノ紙數凡二百葉トス○氏名ノ上欄ニ示セル住所ノ記載例ハ土地所 在ノ管内ニシテ他市郡在籍ノモノハ其府縣名ヲ除キ同市郡内ニシテ他村ノモ ノハ郡ヲ除キ同村ノモノハ(府)(市)(郡)(村)名ヲ記載スルニ及ハス	何々	何々	何々	何々	何々	何々
	何々	何々	何々	何々	何々	何々
	明治 月 日	明治 年	明治 月 日	明治 年	明治 月 日	明治 年

然ルニ改租ノ當初地價帳ヲ調製スルニ當リ地番ハ一村通シ番ナルニ由リ官有地ヲ他日拂下ケテ  
民有ニ歸セシムルトキハ地價帳へ記入セサル可ラス故ニ其手續ヲ省略セン爲メ最初ヨリ官有官  
用ノ土地ハ總テ之ヲ編入シテ其調製ヲ爲シ地券臺帳ヲ調製スルニ當テモ亦此手續ニ準據セシナ  
リ然ルニ土地臺帳ヲ調製スルニ於テ尙同シク官有官用ノ土地ヲ編入記載スヘキハ敢テ言フ俟タ  
サルナリ然レトモ曩ニ戸長役場等ノ土地臺帳ヲ調製スルニ方テ該地ヲ除去セシ地方アルニ依リ  
今土地臺帳ヲ新製セントスルニ際シ之カ編入記載法ヲ一定セシムルコト、シ同年七月二十四日  
同省主稅局長ハ左ノ通知ヲ發セリ

本年三月勅令第三十九號土地臺帳調製ノ儀本月一日訓令相成候處官有官用地ハ改正當初地價  
帳ニ編入シ地券臺帳ニモ概ネ編入相成居候筈ニ有之今同土地臺帳編製ニ際シテハ從來ノ如ク  
記載スヘキ儀ニ付若シ編入無之分モ候ハ、地籍帳其他官有官用地ヲ知了シ得ヘキ簿冊ニ就キ  
地順ニ編入地番ハ隣地ノ二番ヲ付シ小計總計トモ民有官有ニ大別シ渾テ様式ニ做ヒ整理候様  
取計フヘク最道路河川溝渠ノ分ハ勿論除却ノ筈省議ヲ經テ通牒ニ及フ

地租條例第三條ハ有租地ノ地目ヲ數種ニ分チシカ故ニ徵租ノ場合ニ其地ノ名稱ヲ明知スルノ必  
要アリシヲ以テ既ニ明治十八年二月大藏省達第三號ヲ發シテ爾來地券書換ノ都度地券臺帳及ヒ  
地券面ノ地目ヲ訂正シ併セテ地番號ノ下ニ現在地目ヲ筆記セシメタルニ依リ新製土地臺帳ニモ  
亦之ヲ繼續移記スルヲ以テ當然ノ順序トス然ルニ右ノ達示ハ地券廢止ト共ニ消滅ニ歸シタリ故  
ニ土地臺帳様式中ニ之ヲ記載スヘキノ明文ナキトキハ府縣ニ依テ之ヲ記載シ若クハ記載セサル  
等區々ノ取扱ヲ爲シ從テ土地臺帳ノ新製ニ關シ統一ヲ缺クノ虞アルヲ以テ更ニ其手續ヲ示サン  
カ爲メ明治二十二年十月二十二日主稅局長ハ左ノ如ク通牒セリ

地租條例第三條ニ掲載スル地目ノ義ハ明治十八年當省第三號達ヲ以テ地券書換ノ都度地券面  
ヲ訂正シ尙地番號ノ下ニ現在ノ名稱ヲ附記スルコトニ相成隨テ土地臺帳モ訂正シ來リ候處本  
年法律第十三號ヲ以テ地券ヲ廢セラレ該達ハ自然消滅ニ屬セシモ土地臺帳新製ニ付テハ已ニ  
訂正シ來リタル地券臺帳ヨリ移記スルモノニテ自カラ該達ノ旨趣ヲ繼承候義ニ付現地ノ名稱  
ハ新製土地臺帳様式中地目欄内ノ左側へ記載セシメ候様御取計相成度此段豫メ御通牒ニ及ヒ  
候也



尋テ同二十三年九月一日法律第七十八號ヲ以テ登記法中ヲ改正ス今其改正ノ中土地臺帳ニ關係スル條項ヲ抄録セン

第四十一條 登記所ハ初テ登記ヲ爲シタル地所ニ付テハ之ヲ其他ノ土地臺帳所管應ニ通知シ其所管應ヨリハ右ノ地所ニ付分合筆又ハ地番號及地目ノ變換アル毎ニ之ヲ登記所ニ通知スヘシ

土地臺帳所管應ハ明治二十二年勅令第三十九號ニ依リ登記所ヨリ所有ノ移轉又ハ質入ニ付通知ヲ受ケタル地所ニ關シ前項ノ變換アルトキ亦通知ヲ爲スヘシ

登記所ハ前二項ノ通知ニ依リテ其變換ノ旨ヲ追記スヘシ  
抑モ地目若クハ地類ヲ變換シタル土地ハ其變換ノ年ヨリ六年目ニ至リ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スルハ地租條例第十條ノ規定スル所ニシテ其變換ノ當否ヲ検査シ其地價ヲ修正スルハ實地變換ノ年ヨリ五年以内ニ在ルヲ以テ其變更地目ト修正地價トヲ認許スルハ何時ヨリ始マルヘキヤハ豫メ一定シ置クヘキモノトス然ルニ土地ノ變換ハ地主ノ意思ニヨリ自由ニ爲シ得ヘキモノニシテ法律上毫モ之ヲ制限セザレハ地主カ之ヲ變換シ又ハ組換フル意志ヲ以テ實際ニ其形狀ヲ變更シ而モ其旨ヲ官廳ニ届出テタル以上ハ其所有ノ詐僞ニ非サル限り其變換地目ヲ實地ニ適合シタルモノト見做シ賣買讓與等ノ如キ權利ノ移轉ニ關シ一般ニ之ヲ通用セシムルモ敢テ不可ナカルヘシ既ニ之ヲ一般ニ通用スヘキ土地ノ名稱トセハ其土地ノ異動ヲ記スヘキ土地臺帳ニ於テ其地目ヲ訂正シ尙人民財産ノ權利ヲ確認スヘキ法定ノ登記簿ニモ亦之ヲ記載セシメサル可ラス從テ其異動ヲ各所管登記所ニ移牒スルノ手數ヲ取ラサル可ラス最モ此時ニ於テハ單ニ地目ノ變更

ノミヲ通知シ置キ後年ニ至リ實地ヲ検査シテ段別ノ當否ヲ定メ其段別ノ異動ヲ再ヒ通知スルモノトス故ニ此ノ如クスル時ハ二重ノ手數ヲ要スルノミナラス地目ノ變更ヲ認許スル爲メ舊地目ニ對スル地價ヲ以テ新地目ノ地價ニ組換ヘ徵租スルカ如キ納租期限ニモ亦影響ヲ來タシテ頗ル妥當ヲ得サルノ感アリ然リト雖モ是皆屢ニ發布セラレタル法律第七十八號登記法改正ノ結果ニ基クモノナレハ實ニ已ムヲ得サル事ト云ハサル可ラサルナリ然レトモ之ニ反シテ地價ノ認許ハ假令五年以内ニ於テ實地ヲ検査シ地價ヲ修正スト雖モ其検査ト修正トハ官廳ノ都合ニ依リ其据置年間ニ於テ便宜検査シテ修正シ得ヘキモノナレハ其修正地價ノ公認ハ更正地租ヲ徵收スル年度ニ於テ初メテ開始スヘキモノニシテ五年間ハ依然トシテ之ヲ据置キ其期間經過ノ後ニ至リ土地臺帳ヲ訂正スルコト至當ノ順序ナルカ如シ是ニ於テ登記法ノ改正ニ基キ各地方其取扱ヲ一定セサル可ラサルカ故ニ同年十一月四日大藏省訓令第四百十三號ヲ以テ其變換ニ關スル土地臺帳ノ取扱方ヲ示セリ

- 一 地目若クハ地類ヲ變換シタル旨届出ツルモノアルトキハ直ニ其變換セシ地目ヲ土地臺帳元地目ノ傍ニ朱字訂正シ元ト段別地價地租ヲ其變換セシ地目ニ組換フヘシ
- 一 前項ノ場合ニ於テハ其變換登記所ニ通知スヘシ
  - 修正地租徵收ノ年度ニ於テ據ニ訂正セシ地目及修正地價地租ヲ土地臺帳ニ其記載式ニヨリテ訂正シ其修正段別地價地租ノ増減額ノミ二十三年當省訓令第二十九號第一號様式ノ四表ニ編入スヘシ但シ地類變換モ本文ノ例ニ依ル
- 一 前項ノ場合ニ於テ元段別ニ對シ其段別ニ増減アル時ハ其旨登記所ニ通知スヘシ



地租條例第十條第一項第二項ニ依リ人民ハ其所有ノ土地ヲ任意ニ變換シ而シテ其事業ノ成效ニ際シ届出ヲ提出シタル時ハ變換ノ事實既ニ公認セラレタルモノトシ爾來其變換地目ヲ公稱シテ賣買讓與其他質入書入等ノ場合ニ於テモ亦變換セシ地目ニ依リ登記セラル、コト、解釋シ其取扱ヲ爲シ來リタレトモ實施後屢不都合ヲ生シ調理上困難少ナカラス今地目變換ヲ届出ノ年ヨリ公認スルヨリ生スル所ノ主ナル障礙ヲ擧ケレハ

- 一 一地ニ對スル地目變換ノ一所爲ニ對シテ二途ノ處分ヲ施サル可ラス其一ハ届出ノ當時土地臺帳ノ地目ヲ訂正シ賦課計算書ニ於テ地目組換ノ手續ヲ履行シ他ノ一ハ六年目ニ至リ又更ニ土地臺帳ノ地價ヲ修正シ計算書ニ於テ地價ノ増減ヲ加除セサル可ラサル手數アルコト
  - 二 變換セシ地目ニ適應セサル地價ヲ存シ置カサル可ラス例ハ田ヲ畑ニ變シタルトキハ畑ニ田ノ地價ヲ存スルヲ以テ地目ノ訂正スルトキハ表面上地目ト地價ト恰當セサルコト
  - 三 納期ヲ變換セサル可ラス例ハ田ヲ畑ニ變シタルトキハ其地價未タ修正セサルモ地目ノ變換ヲ公認シ且地目組換ノ手續ヲ履行セルヲ以テ五箇年ヲ經過セサルニ畑租ニ變シ其納租ハ二期ニ短縮セラル、ノ困難アルコト最モ之レニ反對ナル變換ナレハ其納期伸長セラル、ノ利益アルモ名實相反スルノ納期ニ從ハサル可ラサルコト
  - 四 變換届出ニ基キ實際検査ノ上其變換ノ事實認許ス可ラサルモノナルトキハ疑ニ了シタル變換ニ係ル一切ノ手續即チ土地臺帳ノ訂正賦課計算書ノ調理登記所ヘノ通知ニ對シ一々誤謬訂正ノ手數ヲ取ラサル可ラサルコト
- 以上列舉セルカ如ク一地ニ係ル處分ヲ爲スニ當リ再度ニ涉ル手數ヲ要シ而シテ地價ノ不適當及

納期ノ變換等ヲ後年ニ至リ訂正スルノ煩累ハ悉ク登記法上ヨリ起因シタルニ外ナラス之ニ依テ司法省ト協議ノ結果五箇年後即チ地目變換ノ調査完了ノ年ニ於テ登記法第四十一條ノ手續ヲ履行スルモ敢テ差支ナキコト、セシヲ以テ同二十四年八月一日大藏省訓令第六十五號ヲ發シ更ニ前記ノ取扱方ヲ改正スルコト乃チ左ノ如シ

明治二十三年十一月當省訓令第四百三十三號變換地取扱方左ノ通更正ス

- 一 地目若クハ地類ヲ變換シタル旨届出ツルモノアル時ハ其變換セシ地目ヲ土地臺帳地目ノ傍ニ朱記シ置クヘシ

- 一 登記ヲ受タル土地ニ係ル場合ト雖モ地目若クハ地類變換ハ其變換地整理完了ノ後登記法第四十一條ニ據リ地目ノ變更段別ノ増減等併セ通知スヘシ

明治二十五年二月八日大藏省令第四號ヲ以テ客年十二月勅令第二百四十五號ニ基キ土地臺帳原本手數料ハ登記印紙ヲ以テ納メシムヘキ旨ヲ定メ而シテ同年十一月二十九日同省訓令第四十四號ヲ明治二十二年七月當省訓令第四十九號土地臺帳様式中市町計ヲ更正ス蓋シ之カ整理ヲ簡易ニスルカ爲メナリ

又明治二十六年ニ於テ各區裁判所ニ土地臺帳原本ヲ設備セシニ依リ該原本調製後ノ異動地ニ關シ土地臺帳面ノ事項ヲ通知セシメンカ爲メ同年十月二十三日大藏省訓令第三十四號ヲ發セリ今般各區裁判所ニ土地臺帳原本設備相成候ニ付テハ臺帳原本調製以來登記ノ地所ニ付分合筆又ハ地番號及ヒ地目ノ變換其流亡等ノ如キ異動ヲ生シタルトキハ臺帳所管轄ヨリ其地區ヲ管轄スル區裁判所又ハ區裁判所出張所ヘ通知セシムヘシ



尋テ同年十一月二十八日主稅局長ハ尙更ニ土地臺帳樣式ニ關シ坤第二六六一號ヲ發シテ曰ク  
 明治二十二年七月當省訓令第四十九號土地臺帳樣式荒地加除中合筆荒地ノ儀ハ左記樣式ニ倣  
 ヒ之ヲ調理シ尙集計上其他ノ便利ヲ圖リ符箋ヲ爲シ置キ年期明ニ至リ原地ニ異動増減ナキモ  
 ノニ限り同欄内ニ事由ヲ記入シ符箋ヲ剝除スルニ止メ其異動増減アルモノハ從前ノ通取扱ハ  
 レ度依命通牒ニ及フ  
 (樣式略ス)

斯クテ翌明治二十七年二月二十三日大藏省訓令第九號ヲ以テ更ニ又土地臺帳樣式中市町村計ヲ  
 改正シテ曰ク

明治二十五年十一月當省訓令第四十四號土地臺帳市町村計樣式別冊ノ通更正シ明治二十七年  
 分ヨリ施行ス但シ別冊主稅局ヨリ送付ス (樣式略ス)

又土地ヲ分合シテ賣買讓與質入等ヲ爲サントスル者ハ登記請求以前ニ於テ明治二十年發布ノ土  
 地合筆取扱手續ニ依リ其手續ヲ爲サシムヘキ旨既ニ同二十二年大藏省訓令第六十七號ヲ以テ之  
 ヲ示シ而シテ民有地ノ官有ニ歸スル場合ニモ亦之レヲ適用セシメ尙同二十五年三月坤第六七三  
 號ヲ以テ主稅局長ヨリ通牒スル所アリタリ然レトモ民有地ヲ買上ケテ道路等ノ如キ國ノ公有ト  
 ナスヘキモノハ登記ヲ要スルニ及ハサルコトヲ司法省ニ於テ決議セシカ故ニ斯ノ如キモノニ對  
 シ一々如上ノ手續ヲ履行セシムルハ往々無用ノ手數ヲ費スノミニテ却テ地方事務ノ處理上紛雜  
 煩累ニ涉リ敏活進捗ヲ妨クルコトアルヘシ依テ同二十七年三月一日主稅局長ハ左ノ通牒ヲ發セ  
 リ

- 一 一筆ノ土地ヲ分裂シテ官ニ買上ケ之ヲ國ノ公有ニ屬スル道路ノ如キモノト爲ストキハ登  
 記ヲ要セサルニ付自今明治二十二年十一月第六十七號訓令及ヒ同二十五年三月坤第六七  
 三號通牒ノ手續ヲ履行スルニ及ハス除租處分土地臺帳訂正計算諸帳簿整理ノ方法左ノ順  
 序ニ依リ取扱相成度
- 一 人民ヨリ差出ス官有地成除租願書ヲ以テ分裂屆(明治二十年訓令第二十五號ニ依ル)ヲ兼タルモノトシテ受  
 理ス

一 土地臺帳ハ除租願書ニ記載セル分裂殘地ノ段別地價地租ノ次野ニ移記(前條ヲ)シ何年月日  
 買上官有地成トシ除却段別地價地租ヲ沿革欄内ニ記入ス

一 計算諸帳簿ノ整理ハ現行成規ノ手續ニ由ル

以上ノ如ク自今簡略便宜ノ方法ヲ示セリ然ルニ該取扱方ノ旨趣ヲ誤リ往々登記所ニ對スル手續  
 ヲ省略スルモノアルカ故ニ明治二十九年四月六日當局長ハ通牒ヲ發セリ

土地ヲ分裂シテ官有地ト爲スモノ取扱方ノ件去ル二十七年三月一日付坤第八九八號及通牒置  
 候右ハ官有地成ノ登記ハ之ヲ省略シ分裂屆ハ除租願書ヲ以テ兼用セシムル等單ニ行政廳ノ取  
 扱方ヲ簡便ナラシムルニ在リテ登記所ニ對スル手續マテモ省略スヘキ旨趣ニ無之候且登記主  
 管廳ニ於テハ行政廳ノ處分ヲ經タル上ニアラサレハ登記ノ變更又ハ取消等難取扱モノニ付既  
 ニ登記ヲ經タル土地ニ係ルモノハ登記法第四十一條其他ハ二十六年十月當省訓令第三十四號  
 ニ依リ從來通御取扱相成儀ト御承知相成度依命此段爲念御通牒候也  
 又既ニ記セシ如ク明治二十四年大藏省訓令第六十五號ニ依リ地租條例第十條第一項ニ於ケル地



目及ヒ地類ノ變換ハ既ニ事實之ヲ爲セシニ拘ラス同條第二項第三項ノ據置年間ハ土地臺帳面尙舊地目ヲ存シ地租ハ其舊地目ニ對シテ之ヲ徵收シ六箇年目則チ修正地價ニ據リ徵租スヘキ時期ノ來ルヲ待チ始メテ土地臺帳ヲ更訂スルノ手續ナリ然レトモ該條第一項ニ於ケル地目及ヒ地類ノ變換ハ既ニ變換ノ事實ヲ生セシ上ニ於テ届出ツルモノナレハ土地臺帳ハ直ニ其變換地目ニ訂正シ地租ハ其變換ノ年ヨリ變換地目ニ對シテ徵收スヘキハ勿論ニシテ唯特ニ第二項第三項ノ規定アルカ爲メ其據置年間ニ於ケル新地目ノ地租ハ舊地價ノ金額ニ依リ算出セサル可ラサルモノトス何トナレハ同條ノ所謂據置年間ハ舊地目ニ依リ地租ヲ徵收スヘキコトヲ規定シタルニアラスシテ唯舊地價ノ金額ニ基キ新地目ノ地租額ヲ算出スヘキコトヲ規定シタルモノナリト解釋スルヲ以テ至當トスレハナリ加之ナラス既ニ地目變換ニ係ル地價修正ノ件ニ關シテモ尙同條第二項ニ明定セルカ如ク五年以内ニ修正スヘキモノトシ會テ大藏省主稅局長ヨリ六年目ヲ待テ修正スヘキ從來ノ取扱方ヲ一變スヘキ旨ヲ通牒セシ旨趣ニ徵スルモ亦上述ノ如ク解釋スヘキモノナリ仍テ今後ハ地目又ハ地類ノ變換ヲ届出ツルモノアルトキニ於テ直ニ土地臺帳ヲ訂正シ其届出ノ年ヨリ變換地目ニ依リ地租ヲ徵收スルモノトシ而シテ變換地目ヲ土地臺帳面地目ノ傍ニ朱記スル等ノ必要ナキニ至リタルヲ以テ同三十一年十月八日大藏省訓令第六十四號ヲ以テ前記明治二十四年八月同省訓令第六十五號ヲ廢止シ尙此訓令ヲ發スルト同時ニ主稅局長ハ坤第八〇六號ヲ發シ之カ取扱方ヲ示セリ

- 一 地租條例第十條第一項ニ據リ地目又ハ地類變換ノ届出タルトキハ直チニ土地臺帳ノ原地目ヲ朱字訂正シ地租ハ其届出ノ年ヨリ變換地目ニ依リ徵收スヘキモノトス

一 地目變換ニ依リ五年以内ニ地價ヲ修正シタルトキハ其據置年期中ハ補助簿ヲ設クルカ又ハ屆書編綴スル等適宜ニ記載シ置キ六年目即修正地價ニ依リ徵租スヘキ年ニ至リ變換地目ト共ニ式ニ依リ土地臺帳次欄ニ移記スルモノトス

一 土地臺帳ノ曆本又ハ民事訴訟ニ關スル證明書ニハ據置年期中ハ據置地價ヲ正寫シ備考トシテ修正地價ヲ記載スルモノトス

一 登記法第四十一條ノ事項ハ變換若クハ修正時々之ヲ通知スルモノトス

越ヘテ同三十二年一月七日主稅局長ハ各稅務管理局長ニ對シ主稅第二號ヲ發シ土地臺帳集計簿記載方ヲ示セリ

有租ノ部土地臺帳集計簿地租ノ欄ニハ土地臺帳毎筆ノ地租ヲ合計シタルモノヲ記載シ之ヲ以テ租額調定ノ基礎ト爲スヘキモノニ有之候得共取扱上ノ手數ヲ省ク爲メ便宜同欄ニハ集計簿ノ地價合計額ニ租率ヲ乘シタルモノヲ記載シ置キ之ニ依テ市町村ヘ納額通知書ヲ發スルモ妨ケナキコトニ省議決定相成候條御心得迄此段及通牒候也

蓋シ地租徵收ニ際シテハ土地臺帳毎筆ノ地租額ヲ記載シ稅務署ヨリ市町村ニ對シ納額通知書ヲ發スルハ當然ノ事ナリト雖モ地租條例中改正規程ノ如ク年限ヲ定メテ租率ヲ増加シタル場合等ニ於テ毎筆ノ地租ヲ算出シ之ヲ合計スルハ容易ノ業ニアラスシテ勞費ヲ要スル尠カラス之ニ依テ取扱上ノ手數ヲ省ク爲メ地價ノ計額ニ租率ヲ乘シタルモノヲ以テ納額通知書ヲ發スルコト、セシナリ

從來土地所有權ノ移轉アリタル場合ニ於テハ其證據ヲ具シ稅務署ニ申告スルトキハ登記所ヨリ



ノ通知ノ有無ニ關セス之ヲ土地臺帳ニ登錄スルコトニ取扱ヒ來レリ蓋登記ハ畢竟第三者ニ對抗スルカ爲メニ爲ス處ノ公示方法ニ過キスシテ所有權ノ移轉ハ登記ノ有無ニ關セス當事者ノ合意ト同時ニ發生スルモノナルカ故ニ現實ノ所有者ヨリ其權利ヲ證明シテ土地臺帳ノ登錄ヲ請求シタルトキハ法令ニ於テ特ニ禁令アルニアラサレハ之カ登錄ヲナスコト當然ナレハナリ然ルニ所有權ノ移轉ニ付登記ノ有無ニ拘ラス土地臺帳ノ登錄ヲナスコト既ニ登記ノ土地ニ付キテハ往々登記簿ト其土地臺帳ト一致セサル場合ヲ生シ滞納處分等ヲ爲スニ當リ支障アリ又未登記ノ土地ニ付テハ買賣贈與等ノ場合ニ於テ保存登記ノミヲナシ以テ所有權移轉ニ對スル登錄稅ノ納付ヲ免レントスルノ弊アリ此ヲ以テ土地臺帳規則施行細則ヲ改正シ登記所ノ通知アルニアラサレハ土地臺帳記載ノ所有者ヲ變更セサルコト、ナスノ必要アリ但相續ノ場合ニ於テハ登記所ノ通知アルニアラサレハ土地臺帳土地臺帳ノ記名者ヲ變更セサルモノト爲ス時ハ多クノ場合ニ地租ヲ徵收スルコト能ハサルカ故ニ此場合ニ限リ相續人ヨリ申告シタルトキ又ハ稅務署カ其事實ヲ確知シタルトキハ土地臺帳ノ記名者ヲ變更スルコト、ナスヲ要ス仍テ明治三十三年七月十二日大藏省令第二十七號ヲ以テ明治二十二年大藏省令第六號土地臺帳規則施行細則ニ左ノ一條ヲ追加セリ

第五條 土地所有權ノ移轉又ハ質入ハ登記所ヨリ通知アルニアラサレハ之ヲ登錄セス但相續ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

前掲土地臺帳規則施行細則第五條ハ土地臺帳ト登記簿トノ一致ヲ保チ且ツ登錄稅ノ徵收ヲ全フスルカ爲メニ追加シタルモノニシテ其目的ハ該改正ニ依リ略ホ之ヲ達スルヲ得タリ然レトモ土地

地收用法ニ依リ收用セラレタル土地ノ如キハ被收用者ニ於テ豫メ保存ノ登記ヲ爲スカ如キハ事實望ムヘカラサルコトニ屬スルノミナラス未登記ノ土地中ニハ土地臺帳ニ登錄セラレサルモノアリ爲メニ不動産登記法ヲ改正スルニアラサレハ其施行ニ阻礙ヲ見ルノ嫌ナシトセス故ニ今暫ク未登記ノ土地ニ就テハ登記前ト雖モ土地臺帳ニ登錄スルコト、シ以テ土地臺帳ト登記簿トノ一致ヲ保ツト同時ニ不動産登記法ノ施行ニ阻礙ナカラシムルヲ必要トス此ニ於テ明治三十四年六月十八日大藏省令第十號ヲ以テ明治二十二年大藏省令第六號土地臺帳規則施行細則第五條中「土地所有權」ノ上ニ「既登記」ノ三字ヲ加ヘタリ

明治三十二年二月法律第二十四號ヲ以テ不動産登記法ヲ發布シ次テ同年六月十六日ヨリ之ヲ施行シ爾來土地登記ニ付テハ土地臺帳ノ謄本ヲ要スルコト、ナリタルカ當時未登記ノ土地ニ關スル權利ノ移轉設定類繁ナル爲メ謄本下付ノ請求甚タ多カリシ然ルニ現行ノ土地臺帳規則施行細則中土地臺帳謄本ノ雛形ハ管ニ適切ナラサルノミナラス一筆毎ニ用紙ニ記載スヘキモノナルヲ以テ數筆連記方法ヲ採ル能ハスシテ官民ノ不便尠少ナラサルヲ以テ明治三十四年十一月二十一日大藏省令第二十四號ヲ以テ明治二十二年四月大藏省令第六號土地臺帳規則施行細則中第四條ノ雛形ヲ左ノ通り改正シ更ニ同條第二項ヲ追加セリ

土地臺帳謄本	
郡市	町村
大字	字
地番	地目
段別又ハ坪數	地價
地租	事故
住所	所有者







一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 直接又ハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ市ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例トシ特別稅ハ附加稅ノ外別ニ市限リ稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課徵收スルモノトス

第九十七條 左ニ掲クル物件ハ市稅ヲ免除ス

- 一 政府局縣郡市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地營造物及家屋
- 二 社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝美術及慈善ノ用ニ供スル土地營造物及家屋
- 三 官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事業ヲ興シ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ徵收スルハ此限リニアラス

新開地及開墾地ハ市條例ニ依リ年月ヲ限リ免稅スルコトヲ得

第三百三條 地租ノ附加稅ハ地租ノ納稅者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル市稅ハ其所有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

第三百二十二條 左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

三 地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事

第三百二十三條 左ノ事件ニ關スル市會ノ議決ハ市縣參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事(第九十條第二項)

第三百三十一條 現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接稅トスヘキ類別ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

町村制

第九十條 町村稅トシテ賦課スルコトヲ得可キ目左ノ如シ

一 國稅府縣ノ附加稅

二 直接又ハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ賦課シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ヨリ徵收スルヲ常例トシ特別ハ附加稅ノ外別ニ町村限リ稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課徵收スルモノトス

第九十七條 左ニ掲クル物件ハ町村稅ヲ免除ス

- 一 政府府縣郡市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地營造物及家屋
- 二 社寺及官立公立學校病院其他學藝美術及慈善ノ用ニ供スル土地營造物及家屋
- 三 官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事業ヲ起シ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ其費用ヲ徵收スルハ此限リニアラス

新開地及開墾地ハ町村條例ニ依リ年月ヲ限リ免稅スルコトヲ得

第三百三條 地租ノ附加稅ハ地租ノ納稅者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル町村稅ハ其所有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

第三百二十六條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ



要ス

三 地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事  
 第二百二十七條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ郡參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス  
 七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事  
 第三百三十六條 現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接又ハ間接トスヘキ類別ハ內務大臣及大藏大臣  
 之ヲ告示ス

之ニ依テ同年七月十三日大藏省ハ告示第九十五號ヲ發シテ以上ノ市制第三百三十一條及ヒ町村制  
 第三百三十六條ニ於ケル直接稅間接稅ノ類別ヲ定メ而シテ其類別中ニ於テ國稅ノ地租地方稅ノ地  
 租割及ヒ區町村費ノ地價割段別割ハ之ヲ直接稅ト爲スヘキ旨ヲ告示セリ

又同年八月十六日勅令第六十二號ヲ以テ東京市區改正條例ヲ公布セラレシカ同條例第三條ニ於  
 テ市區改正ノ費用ニ充ツル爲メ特別稅ヲ賦課スルコトヲ規定セリ今其條例中關係アル箇條ヲ抄  
 録スヘシ

第三條 市區改正ノ費用ニ充ツル爲メ東京府區部內ニ於テ左ノ特別稅ヲ賦課ス

一 地租割 地租同額以內但耕地ヲ除ク  
 (以下略ス)

第五條 市區改正ノ費用ヲ補助スル爲メ東京府區部內ノ官有河岸地ハ總テ之ヲ下付ス

此河岸地ヨリ收入スル金額ハ市區改正事業ノ終ルマテ他ニ之ヲ支出スルコトヲ得ス  
 此河岸地ハ市區改正事業ノ終ルマテ其地租ヲ免除ス此河岸地ハ賣却讓與スルコトヲ許サス

但已ムヲ得サル場合ニ於テハ東京府知事東京府區部會ノ議決ヲ取リ內務大臣ノ認可ヲ受ケ  
 之ヲ賣却讓與スルコトヲ得

明治二十三年五月法律第三十五號ヲ以テ府縣制ヲ公布シ而シテ同法律中ニ於テ府縣ハ其費用ヲ  
 得ンカ爲メ若シ地租四分ノ一ヲ超過シテ府縣稅ヲ土地ニ課セントスルトキハ內務大臣及ヒ大藏  
 大臣ノ許可ヲ受クヘキ旨ヲ規定セリ故ニ四分ノ一以內ニ任意ニ地租ノ附加稅ヲ賦課シ得レトモ  
 其限度以上ハ許可ヲ得テ之ヲ賦課セサルヘカラサルナリ今左ニ同法律中關係アル條文ヲ摘録ス  
 ヘシ

第九十條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ內務大臣及ヒ大藏大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要  
 ス

二 地租四分ノ一ヲ超過スル府縣稅ヲ土地ニ賦課スルコト

第九十三條 市制町村制施行ノ爲メ定ムル直接稅ノ種類ハ此法律ノ施行ニ付テモ亦之ヲ適用  
 ス

市制町村制郡制及此法律施行ノ爲メ將來ノ諸稅ニ付直接稅ト爲スヘキモノハ內務大臣及大  
 藏大臣之ヲ告示スヘシ

第九十五條 此法律施行ノ後ハ市制第二百二十二條第三ニ定ムル附加稅徵收ノ許可ハ東京市京  
 都市大阪市ニ在テハ地租百分ノ三二五(二十八分)其他ノ市ニ在テハ其七分ノ一五(十四分)ヲ超  
 過スルトキ之ヲ要スルモノトス  
 司三十一年十二月法律第三十二號ヲ公布シテ地租條例第一條ニ一項ヲ追加シ以テ明治三十二年



分ヨリ同三十六年分迄地租ノ定率ヲ増加シ其増徴ヲ行ヒシカ此特別増徴ノ地租ニハ府縣稅又ハ市町村稅ヲ賦課セシメサラシカ爲メ同三十二年三月七日法律第四十三號ヲ發布シテ其旨ヲ示スコト左ノ如シ

明治三十二年度ヨリ同三十六年度迄五箇年間宅地及ヒ田畑其他ノ地目ニ就キ特別増徴ノ地租ニハ府縣稅又ハ市町村稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

尋テ同年三月法律第六十四號ヲ以テ府縣制ヲ改正公布セラレシカ同法律第三百三十四條ニ於テ地租三分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課セントスルトキハ內務大臣及ヒ大藏大臣ノ許可ヲ受クヘキ旨ヲ規定セリ是ニ由テ之ヲ見レハ從來府縣ハ地租四分ノ一以內ヲ附加稅トシテ賦課シタレトモ右府縣制改正ノ結果ニ依リ三分ノ一以內ヲ地租ノ附加稅トシテ賦課シ得ヘキモノナリ其規定左ノ如シ

府縣制

第三百三十四條 左ニ掲クル事件ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

二 地租三分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事但法律勅令中別段ノ規定アル場合ハ此限ニアラス

尙同年四月二十二日內務省令第九號ヲ以テ災害土木費國庫補助規定施行細則ヲ規定シ而シテ其第五條ニ於テ郡市町村及ヒ町村組合水利組合水利及土功會ハ同條規定ニ於ケル地租ノ割合ヲ以テ其工費ヲ負擔スルモノナルコトヲ示セリ今其關係規定ヲ掲クレハ左ノ如シ

第五條 郡市町村、町村組合、水利組合及水利土功會ハ左ノ割合ヲ以テ其ノ工費ヲ負擔スルモノ

トシテ計算ス

郡町村組合、水利組合及水利土功會ハ其地租年額十分ノ二

町村ハ其ノ地租年額十分ノ四

市ハ其ノ地租十分ノ七但東京市、京都市、大阪市ハ其ノ地租年額ニ等シキ額

郡、市、町村、町村水利組合及水利土功組合ハ其工費ヨリ前項負擔額ヲ控除シタル殘額ノ十分ノ三ヲ負擔スルモノトシテ計算ス

水利組合又ハ水利土功會ニシテ其區域一市町村内ニ止マルモノ及市町村一部ノ負擔スヘキ工費ハ其市町村ノ工費ニ算入ス

本條ノ地租額ハ其ノ年一月一日ニ於ケル土地臺帳面記載ノ地租額ニ依ル

第四款 北海道沖繩縣及伊豆七島ニ於ケル地租ノ沿革

第一項 北海道

北海道ハ元蝦夷ト唱ヘ幕府時代ニ在テハ松前藩ヲ置テ之ヲ統轄セシメシト雖モ充分ニ其監督ヲ行フ能ハサルノミナラス人口稀薄ニシテ宛ラ農耕拓殖ノ道開ケス隨テ全道到ル處不毛ノ地多カリシ然ルニ此地元來地味豐饒ニシテ面積亦頗ル大ナルヲ以テ實ニ本道ニ於ケル開拓殖民ノ業ハ我國ノ爲メ最要ノ急務ニシテ一日モ等閑ニ付スヘキモノニ非サルナリ依テ明治元年三月九日三箇條ノ詔勅下リテ群臣各其意見ヲ陳述シ遂ニ先ツ職員ヲ鑑撰シ裁判所ヲ設置シ漸次ニ開拓殖民



ノ方法ヲ施行セント決セシヲ以テ同年四月十二日先ツ函館裁判所ヲ設置シ四月十七日左ノ方針ヲ示セリ

- 一 函館裁判所總督へ蝦夷開拓之御用トモ御委任有之候事
  - 一 追テ蝦夷ノ名目被相改南北二道ニ御立被成早々測量家ヲ差遣山川ノ形勢ニ從ヒ新ニ國ヲ分チ名目ヲ御定有之候事
  - 一 列藩ヨリ土地開拓ノ事等相心得候者於 朝廷御借リ上被成盡ク總督ノ管轄ニ相成現地ノ形勢情實篤ト御詮議ノ上次第被爲立候テ御手下シ可有之候事
  - 一 從來蝦夷地探索其形勢情實相辨候乍去御召出ノ儀勿論ニ候猥リニ浮浪ノ徒ヲ遣ヒ候儀者不宜候事
  - 一 從來蝦夷ヨリ出シ候諸稅蝦夷地開拓ノ入費ニ相用屹度開墾ノ目的相立候迄他ノ入用ニ不致候事
  - 一 開墾ヲ相望ノ諸侯有之候ハ、御詮議ノ上土地御渡シ被 仰付開墾ノ目的相立候上ニテ檢案致シ相應ノ貢稅 朝廷へ相納候様被仰付候事
  - 一 速ニ利ヲ求メス眞ニ廢物ヲ興スノ御主意ニテ開墾ノ目途相立可申事
  - 一 サウヤ邊カラフトへ近ク相留候場所ニテ一府ヲ被立置度候事
  - 一 蝦夷地開拓ノ規模大略相立候上ニテ北蝦夷開拓ノ手段ヲ被爲盡度候事
- 而シテ翌年二月會津藩ノ降服者ヲ函館府ニ遣シ小垂内等ノ拓殖ニ從事セシメタルカ其趣旨主トシテ降服者ノ處置ニ在リタリ然ルニ同年五月ニ至リ始メテ開拓ノ御下向アリ尋テ六月鍋島中納

言ノ奏請ニ對シ蝦夷開拓ノ勅書ヲ賜リタリ而シテ同年七月二十二日太政官ハ左ノ布告ヲ發セリ  
蝦夷地開拓ノ儀先般 御下向モ有之候通ニ付此後諸藩士族及庶民ニ至ル迄志願次第申出候者ハ相應ノ地割渡シ開拓被 仰付候事

斯クテ其開拓ヲ獎勵セシカ漸次藩主若クハ士庶ノ請願シテ之ニ從事スルモノ續出セリ後同年七月始メテ開拓使ヲ置キ次テ八月ニ至リ北海道ト稱シテ全道ヲ十一箇國ニ分割シ専ラ興業ヲ獎勵ス翌明治三年十一月二十日開拓使布達ヲ以テ東地移住ノ人民新ニ田畑ヲ開墾スルモノハ一段ニ金二兩ヲ下賜スヘシ但漁業ノ傍ラ開墾スルモノハ之ヲ下賜セサルコト開墾初年ヨリ七箇年免租タルヘキコトヲ定ム此クノ如クニシテ勵精事ニ從ヒ草莽ヲ拓キ漸次人口ヲ移殖スル所アリシカハ爾來戶口繁殖シ百般ノ產物年々逐フテ増加シ開拓ノ實大ニ舉カルニ至レリ然レトモ從來ハ單ニ開墾ヲ獎勵スルニ急ニシテ未タ收租ノ事ニ及ハサルヲ以テ越ヘテ同五年四月開拓使達ヲ發シ始メテ開墾收稅規則ヲ制定セリ其規則左ノ如シ

開墾地收稅規則

- 一 一町步ニ付上金五四中金四圓下金參圓但一町步以下ハ右ノ比例ヲ以テ徵スヘキ事
- 一 移住農夫等三箇年間扶持米等被下置候輩ハ開墾地作付ケ初年ヨリ五箇年免稅六箇年目ヨリ十箇年間ハ上中下ノ土地ニ應シ稅額十分一ノ割十一箇年目ヨリハ全額徵收ノ事
- 一 官員其他自今自費ヲ以テ開墾候ハ、作付初年ヨリ三十箇年免稅三十一箇年ヨリ稅額收納可申付但先年ヨリ自費ヲ以テ開墾致候分モ當壬申年ヨリ本分同様三十箇年免稅ノ事
- 一 地稅上納致上ハ別ニ諸懸物等一切不取立事



一 地稅ハ金納ニ不限其作物ヲ以テ上納致候共不苦但作物ハ其土地賣買ノ相場ヲ以テ取立候事

一 函館近村既ニ稅則相立候分ハ此例ニ非サル事  
然ルニ爾來年月ヲ經ルニ隨テ移住ノ民日ニ月ニ増加スルニ由リ同年九月二十日布告ヲ以テ左ノ地所規則ヲ制定公布シタリ

地所規則

第一條 永住ノ者居屋漁舍倉庫敷地或ハ社寺及聖成セシ從來ノ拜借地等自今更ニ經界畝數改正永ク私有地ニ定メ地券相渡今申年ヨリ七年間除租ノ事

第二條 寄留人拜借人拜借地タリトモ既ニ開墾營構等セシ分ハ是又其者ノ私有地ニ定メ地券相渡除租前條ニ準スヘシ

第三條 漁濱昆布場モ更ニ經界相正シ永住人ハ私有地寄留人當分依舊可爲拜借地但私有地拜借地共本年ヨリ五年間除租タルヘシ尤拜借中賣却ハ勿論貸與致候者ハ上地可申付事

第四條 從來拜借地ヲ他人へ貸渡借主既ニ家倉營構セシ者ハ寄留人ト雖トモ借主可爲私有地事

第五條 拜借地既ニ家倉致營構其後他人へ貸渡者ハ貸主前條ニ準スル事

第六條 永住寄留人トモ從來ノ拜借地地券ヲ渡シ私有地ニ下ケタルハ地代上納ニ不及事

第七條 山林川澤從來土人等漁獵伐木仕來シ地ト雖モ更ラニ區分相立持主或ハ村請ニ改メ是又地券ヲ渡シ爾後十五年間除租地代ハ上條ニ準スヘシ尤深山幽谷人跡隔絶ノ地ハ姑ク此限

ニ非サル事

第八條 土地賣買規則第一條ニ同シ

第九條 同 第二條ニ同シ

第十條 同 第三條ニ同シ

第十一條 同 第四條ニ同シ

第十二條 同 第五條ニ同シ

第十三條 同 第六條ニ同シ

第十四條 官費募移ノ者開墾地完成ノ年ヨリ五箇年除租其後二年間租額ノ内十分ノ一爾後全額ヲ可納事

第十五條 從來永住ノ者及募移當年ヨリ舉家限ヲ以テ三年間ニ開墾スル土地ハ年々墾成ノ分

點檢ノ土地券相渡地代上納ニ不及但自今後募移ノ農夫ハ移著後三年間本條ニ可準事

第十六條 土地賣買規則第七條ニ同シ

第十七條 同 第八條ニ同シ

第十八條 同 第九條ニ同シ

第十九條 函館及其近傍ノ地既ニ稅則定タル分ハ此限ニアラス且漁業稅ノ儀各郡一般當分從前ノ通タルヘキ事

以上ノ如ク地所規則ヲ公布セシト雖モ固ヨリ廣大ノ地ナレハ尙廢棄ニ屬スルモノ十中ノ八九ヲ占ムルカ故ニ同年十月十日太政官布告第三百四號ヲ以テ低價賣下除租等ノ方法ヲ定メ而シテ開



墾牧畜或ハ漁獵採礦等都テ生産興業ノ志願者ノ爲ニ北海道土地賣貸規則ヲ公布シタリ其規定左ノ如シ

北海道土地賣貸規則

- 第一條 原野山林等一切ノ土地官屬及從前拜借ノ分目下私有タラシムル地ヲ除ノ外都テ賣下ケ地權ヲ渡シ永ク私有地ニ申付ル事
- 第二條 賣下ノ地一人十萬坪ヲ以テ限リトシ下手後十箇年除租タルヘシ尤モ已ニ私有シタル地ヲ相當賣買スル者ハ其坪數制限ナカルヘキ事
- 第三條 賣下ノ地價上等千坪壹圓五拾錢中等同壹圓下等同五拾錢千坪以下其割合タルヘク且其地代即納タルヘシト雖モ家産中人以下或ハ罹災窮乏ノ者ハ三年乃至五年賦上納申付ル儀モ可有之事
- 第四條 既ニ私有タルノ土地ハ牧畜開墾等一切ノ産業ハ勿論他人ヘ賣却スルモ其地主ノ自由タルヘシ尤右等下手スル節ハ水利運便等ノ上ニ注意シ其方法及期限等詳細ニ可申立事
- 第五條 人民私有ニ屬スル土地ト雖モ外國人ヘ賣渡シ或ハ之ヲ引當トシテ金子ヲ借受ル等禁止タルヘキ事
- 第六條 土地賣下ノ後開墾其他共上ノ地ハ十二箇月中ノ地ハ十五箇月下ノ地ハ二十箇月ヲ過キ不下手者ハ上地申付ル事
- 第七條 除租滿期後ノ制程ハ追テ其地ノ差等ニヨリ適當ニ可相定事
- 第八條 採礦漁獵等都テ生産興工ノ見込アリテ出願スル者ヘハ其方法取調年限ヲ立貸地等ニ

差出シ稅則ハ出品ノ精粗多寡ニ隨ヒ追テ適當ニ可相定事但諸嶺山脈理等ノ甲乙ハ查了シテ可公布事

第九條 右等諸工業ノ新發明或ハ水陸運便等ニ費財盡力シテ國家人民ノ利ヲ興シタル者ヘハ其興業ノ大小輕重ニ因リ若干ノ土地ヲ附與シ或ハ專賣除租ノ榮利ヲ與ル等ノ處置可有之事

尋テ同七年十二月十二日開拓使布達第四號ヲ發シテ北海道各地漁場及昆布場ニ於ケル自費新開地ニ關シ當使管下北海道各所ニ於テ漁場竝ニ昆布場自費新開ノ分ハ自今其歲ヨリ五箇年間免稅ノ上各所開業ノ難易所獲ノ多寡ヲ審査シ隣地ノ比較ヲ以テ第六箇年目ヨリ相當ノ收稅可申付候條志願ノ者ハ夫々開業可致但地所ノ儀ハ地所規則第三條ノ通心得其歲ヨリ五箇年間除租タルヘシト令シ以テ其年ヨリ五箇年間ハ地租ヲ免除スルコト、ス更ニ同八年五月二十二日同布達第三號ヲ以テ家祿奉還資金受取者ニシテ家産營業ノ爲メ北海道ニ於テ地所ノ拂下ヲ出願セシ場合ニ關スル規則ヲ定メ以テ其規定ニ準據シテ之ヲ拂下クルコト、セリ乃チ其規定ヲ舉クレハ左ノ如シ

山林荒蕪地拂下規則

- 第一條 家祿奉還資本金受取候者家産營業ノ爲メ北海道ニ於テ地所拂下願出候節ハ六年(十二)第四百二十六號公布別冊ノ方法ニ照準シ願書様式等一切其手續ヲ經志願ノ地所ト本人所在ノ便宜ニ依リ當使本支廳及東京出張所ノ内ヘ願出ヘシ
- 第二條 拂下地所ノ步數ハ一人十萬坪ヲ限リ上等千坪壹圓五拾錢中等壹圓下等五拾錢ヲ原價トシ其半額ヲ以テ拂下營業著手ヨリ二十年間除租申付クヘシ



第三條 各所ノ便宜ニ依リ上中下三等ノ土地ヲ雜ヘ且數所ニ於テ願出候共全坪十萬坪ニ充ツル迄ハ拂下ケヘシ

第四條 該地ニ生立ノ樹木ハ代價上納ニ及ハス

第五條 拂下ノ許可ヲ經七年(八)第八十三號公布ノ手續ヲ以テ代價上納ノ土地券可相渡尤券面ニハ原價ヲ記載シ置除租滿期ノ後地位ノ等差ニ仍リ相當ノ租額相定メ新券ト交換申付ヘシ  
第六條 既ニ拂下ヲ受タル地所ニ於テ種植牧畜其他一切ノ營業ハ勿論外國人ヲ除クノ外ハ相當ノ賣買等本人ノ自由タルヘク尤營業著手ノ節ハ地質水性及運輸ノ便否ヲ注意シ其方法並期限等詳細ニ申出ヘシ

第七條 地所拂下ノ後上等ハ十二箇月中等ハ十五箇月下等ハ二十箇月ヲ過キ營業ニ著手セサル者ハ土地可申付但本人疾病ニ罹リ餘ノ家人著手スヘキモノナキカ或ハ已ムヲ得サル事故アル者ハ詳細具狀シテ管轄廳ノ差圖ヲ受クヘシ

第八條 凡ソ拂下ノ地所ハ右ニ掲ケタル條款ノ外都テ北海道土地賣貸規則並地所規則ノ通タルヘシ

降テ明治九年十二月二十八日ニ至リ太政官布告第六十一號ヲ公布シテ北海道地租ノ儀當分地價百分ノ一ニ相定メ候條此旨布告候事ト定メリ蓋シ明治六年太政官布告第二百七十二號ノ以テ地租改正條例ヲ公布シ一般ニ地租ノ改正ヲ實施スルニ至レリ故ニ彼ノ漁濱昆布場ノ如ク五年制定ノ地所規則ノ結果本年ヲ以テ除租滿期トナルモノハ爾來地租改正條規ニ從フヘキナリ然リト雖モ元來本道ハ他ノ府縣ト異リ從來貢租ニ關スル一定ノ制度ナク且尙未タ開拓中ニ屬シ從テ專

ラ民業ヲ獎勵シ戸口ヲ繁殖セシムルヲ以テ刻下ノ急務ト爲スノ秋ナルニ依リ遽然府縣ト同軌ノ制度ニ準據セシムルヲ得サルヤ明瞭ナリトス且同道ヨリモ亦之ヲ太政官ニ稟請スル所アリタリ茲ニ於テ本道ニ於ケル地租制定ノ大體ハ一般地租改正ノ趣旨ニ則ルコト、スレトモ其詳細ノ節目ニ至テハ適宜ニ之ヲ處分セシメ以テ地券ヲ發行シ租率ハ姑ク地價百分ノ一トシテ明治十年ヨリ之ヲ徵收シ而シテ地所規則中各種ノ土地ハ除租滿期ノ翌年ヨリ此ノ租率トナシ開拓進步ノ度漸次整頓シタル後終ニ一般ノ成規ニ準由セシムルコト、シ以上ノ如キ布告ヲ發セシナリ之ニ依テ土地ヲ丈量シ地價ヲ査定シタル上一般ニ地券ヲ發行シテ地所規則除租ノ年限ニ隨ヒ地租ヲ賦課シ而シテ從前發行セシ地券ハ之ヲ改メ且既ニ賦課シ來リシ地租モ亦自今總テ地價百分ノ一ノ率ニ據テ之ヲ徵收スヘキモノナルヲ以テ翌同十年十二月十三日開拓使布達乙第二十五號ヲ發シテ地所ノ區分制限及地券申請證印稅支納等ニ關スル條項ヲ定メタリ

昨明治九年(十)第六十一號ヲ以テ北海道地租ノ儀御布告相成候ニ付テハ土地丈量地價査定ノ上一般地券ヲ發シ地所規則除租ノ年限ニ隨テ地租ヲ課シ從前發行セシ地券ハ是ヲ改メ且既ニ課シ來リシ地租モ自今總テ地價百分ノ一ヲ徵スヘキニ付地所ノ區分制限及地券申請證印稅收納等ノ儀左ノ條款ノ通相定候條此旨布達候事

第一條 地所ハ其種類ヲ分テ宅地耕地海產干場山林牧場トス但北海道地所規則ニ掲載セル漁濱昆布場ヲ自今改テ海產干場ト稱スヘシ

第二條 耕地宅地ハ何人ニ拘ラス之ヲ所有セシムヘシ海產干場ハ何人ニ拘ラス所有セシムヘシト雖モ海產採取ノ爲メニ設クルモノナレハ所有者自ラ營業セサルトキハ他人ニ貸渡シテ



營業セシムヘシ尤山林川澤原野河岸海岸ハ總テ官有地トシ其差支ナキ場所ハ望ニ因リ貸渡シ或ハ賣渡スコトアルヘシ尤官有地ヲ貸渡ストキハ貸地證書ヲ附與シ貸地料トシテ地價百分ノ一ヲ取立ツヘシ(十四年改正)但海產干場ヲ他人ニ貸渡ストキハ必ス其事由ヲ具シテ願出ヘシ又本條河岸海岸等自費埋立或ハ既ニ民有ニ屬セシモノ、類ハ之ヲ私有セシムルコトアルヘシ

第三條 牧場ハ各郡村ニ於テ其經界步數ヲ定メ官有地第三種ニ編入シ官民共同ノ用ニ允ツヘシ尤人民牧畜營業ノ爲メニ要求スル地所ハ右ノ外ニ其經界步數ヲ定メ貸渡シ或ハ賣渡スコトアルヘシ

第四條 道路狹隘ニシテ往來運輸ノ障礙ヲ爲スモノハ家屋倉庫等ヲ營構セル地面ト雖モ必ス貸地ト爲スヘシ尤土地ノ形勢ニ依リ通路敷地ノ内ヲ貸渡シ置クコトアルヘシ

第五條 租額ハ年ノ豐歉等ニ因テ之ヲ變更スルコトナシト雖モ天災地變ニ因テ地形變換スルトキハ實地ヲ點檢シ減租或ハ除租等ノ處分ヲ爲スヘシ

第六條 各種ノ地所除租收租ノ別ナク地券附與ノ後ハ該地ノ全部或ハ其幾分ヲ裂キ賣買讓渡書入質入等總テ其規則ニ照ラシ所有者ノ自由タルヘシ但地券發行ノ後收租地賣買ノ際地價増減ヲ生スルモノハ明治七年(五)第五十三號御布告ニ照準スルモノトス尤海產干場ハ一券面ノ地所ヲ裂キ賣買讓與スヘカラスト雖モ實際不得止事故アルトキハ事實審査ノ上之ヲ許可スルコトアルヘシ(十六年改正)

第七條 明治九年十月漁場更正ノ際一旦土地申付更ニ割渡シタル海產干場竝除租年限中賣買

讓與セシ各種地所ノ除租年限ハ最初定メタル年ヨリ通算(假令ハ除租七年ノ地ヲ五年日ニ賣得タル年ヨリ三年間除租スヘシ)

第八條 地券ハ地所々有主タル確證ニ付大切ニ保存シ代替竝賣買讓渡及水火盜難等ニテ亡失セシトキハ其事由ヲ具シ書換ヲ願出ヘシ

第九條 除租地所有ノ者ハ除租滿期ノ年六月三十日マテ最前申請ケン券狀ヲ差出シ收租ノ券狀ト引換ヲ願出ツヘシ

第十條 新規書換トモ地券及貸地證ヲ申請ケンシトキハ必ス請取證書ヲ差出スヘシ

第十一條 收租地々券新ニ申請竝賣買ニ付書換ノ節ハ券面ノ地價ニ從ヒ每一枚證印稅トシテ左ノ通相納ムヘシ

地券ニ記セシ地價	金八厘
貳圓マテ	金壹錢五厘
百圓以上	金拾五錢
貳百圓以上	金參拾五錢
五百圓以上	金四拾錢
千圓以上	金五拾錢
貳千圓以上	金八拾參錢
五千圓以上	金壹圓貳拾五錢



第十二條 除租地地券新規申請買賣讓渡等ニ付書換及收租地代替授與水火盜難等ニテ書換ノ節ハ證印稅トシテ每一枚金八厘ヲ納メ貸地證書新規申請竝ニ書換ノ節ハ手數トシテ金八厘ヲ納ムヘシ

第十三條 海產干場ハ海產採取ノ爲メニ所有セシムルモノナレハ營業ノ差等ニ隨ヒ地所坪數及間數ノ制限ヲ定ムル左ノ如シ尤モ其制限ハ土地ノ形勢ニ因リ之ヲ増減スルコトアルヘシ又舊來戶口稠密ニシテ此制限ニ從ヒ難キ場所ハ從前ノ慣習ニ依リ之ヲ所有セシムルコトアルヘシ且該地ノ形ヲ變セス鮮場ニ於テ鮭鱈場ニ於テ鮭鱈其他ノ海產各種ノ乾製ヲ營ム者ハ總テ營業者ノ自由タルヘシ(十二年十月改正)

鮮鱈建網	一統ニ付	千坪	奧海面表口	五十間
鮮鱈鮭引網	同	千五百坪	奧海面表口	六十間
鮭差網	十枚ニ付	二百坪	奧海面表口	二十間
鮭建網	一統ニ付	五百坪	奧海面表口	二十五間
大房網	同	五百坪	奧海面表口	二十五間
昆布刈網	一隻ニ付	四百五十坪	奧海面表口	二十五間

但一區一干場ニ於テ網數統船數艘ヲ用キテ營業スルモノハ一統或ハ一艘毎ニ制限坪數ノ半ヲ増加シ鮮差網ハ十枚毎ニ其四分ノ一ヲ増加スヘシ

第十四條 干場坪數ノ制限ハ前條ノ割合ノ以テ之レヲ定ムト雖モ奧行淺クシテ其間數制限ニ滿チ難キ場所ハ適度ニ隨テ表口ノ間數ヲ増シ且奧行ノ間數其制限ニ過タルモ土地ノ形勢ニ

因リ他ノ障礙ヲ爲サ、ルモノハ許スコトアルヘシ

第十五條 海產干場ノ海岸地浪打際(滿潮ノ時ヲ云)五間乃至十五間ハ之ヲ官有地トシテ干場所所有ノ者ニ貸渡シ山岳等海濱ニ突出シ土地狹隘ニシテ右間數ノ外私有セシムヘキ餘地無之場所ハ總テ官有地トシテ之ヲ貸渡スヘシ但營業者ノ都合ニ依リ所有地ヲ貸渡ストキハ該地接續ノ官有地ハ必ス一時返納ノ上該地借用人ヨリ更ニ右官有地ノ借用ヲ願出ツヘシ尤モ本條間數ノ内ヲ道路ノ敷地ニ充ツルコトアルヘシ

第十六條 從前該地土著ノ人民ヲシテ舊來之ヲ所有シ干場内ニ居住ノ者ニ限リ其制限ニ過クル一割(千坪ニ付千坪ノ割合)以下ノ地ハ之ヲ所有スルヲ得ヘシ

第十七條 海產干場坪數ノ制限ハ居舍漁舍倉庫ノ敷地ヲ合セテ之ヲ算スヘシ但本條居舍漁舍等ノ敷地除租年限ハ地所規則第一條ノ通タルヘシ

第十八條 海產干場所所有ノモノ地所場割渡ノ儘營業ニ著手セシテ賣買讓與スルヲ許サス割渡ノ後一週年間著手セサルモノ及著手後中止スルモノハ上地申付ヘシ尤モ甲ニ於テ既ニ著手セル場所ヲ乙ヘ賣渡シ乙ニ於テ相當ノ營業ヲ爲サ、ルカ或ハ中止スルモノハ土地賣買規則第三條ニ掲載セル地價上等ノ割ヲ以テ之ヲ買上クヘシ

尙二日ヲ經テ同月十五日開拓使達第十五號ヲ發シテ北海道地券發行條例ヲ規定シ而シテ土地ノ丈量地租ノ制限區分ノ土地券ヲ附與スルニ當リ該條例ニ照準スヘキモノトス其規定左ノ如シ

北海道地券發行條例

第一章 總則



- 第一條 土地ノ種類ヲ分チ宅地耕地海産干場牧場山林トシ官有地ヲ除クノ外人民各自之ヲ所有セシメ其經界步數ヲ正シ地位等級ヲ定メ地券ヲ發シ地租ヲ課スヘシ
- 第二條 地租ハ北海道地所規則並土地賣貸規則ニ掲載セル除租滿期ノ翌年ヨリ課收スヘシ
- 第三條 河岸海岸等ハ總テ官有地トシ其差支ナキ場所ハ人民ノ望ニ因テ之ヲ貸渡シ貸地ノ證ヲ附與シ貸地料トシテ地價百分ノ一ヲ取立ヘシ但既ニ私有ニ歸セル分並自費ヲ以テ水面ヲ埋立タル等ノ類ハ本條ノ地所ト雖モ之ヲ私有セシムルコトアルヘシ
- 第四條 土地査定地券發行ノ後ハ其地價ニ從ヒテ年々一定ノ租額ヲ徵收シ年ノ豐歉ニ因テ之ヲ變更スルコトナシ
- 第五條 天災地變ニ因テ地形變換スルトキハ實地ヲ點檢シ損害ノ厚薄多少ニ隨ヒ該地ノ全部或ハ除租等ノ處分ヲナスヘシ
- 第六條 各地ノ地所除租收租ノ別ナク地券附與ノ後ハ賣買讓與書入質入等總テ其規則ニ照ラシ所有者ノ自由ニ任スヘシ但地券發行ノ後地價ノ増減ヲ生スルモノ明治七年(五)第五十三號御布告ニ標準スヘシ
- 第七條 地券附與ノ後ハ耕地宅地トモ一券面ノ地所ヲ裂キ賣買讓與等其他規則ニ照ラシ所有者ノ自由ニ任スヘシ
- 第八條 明治九年十月漁場更正ノ際一旦上地申付更ニ割渡シタル海産干場並除租年限中賣買讓與セル各種地所ノ除租年限ハ最初定メタル年ヨリ通算(假令ハ明治七年ノ地券受ル者其買得タル年ヨリ三年間除租)スヘシ

第二章 土地検査ノ手續

- 第九條 土地丈量ハ各地ノ除租年限ニ隨テ順次整理スヘシ
- 第十條 土地ヲ丈量スルトキハ各廳長官ノ名ヲ以テ豫シメ其施行スヘキ郡村ノ人民(著手ノ規程ヲ布達シ)期日ヲ定メ各自所有ノ地名坪數ヲ記シ圖面ヲ添ヘ之ヲ差出サシムヘシ
- 第十一條 地所各種ノ區分ハ土地ノ形勢ニ依リ自然區域ヲ爲スモノニ付テ之ヲ別ツ宅地區域中ニ籠ル田畑ハ宅地トシ耕地並海産干場區域中ニ在ル居屋ハ耕地並海産干場トスヘシ尤モ區域中ト雖モ亦其區劃判然タル別種ノ地所及ヒ右ニ接續シテ一區域ヲ爲ス別種ノ地所ハ其種類ヲ區分スヘシ但從來海産干場中ニ居家漁舍倉庫ノ敷地等除租ノ年限ハ地所規則第一條ノ通タルヘシ
- 第十二條 土地ヲ丈量スルトキハ每町各地ノ經界ヲ區分シ其步數等ヲ詳記シタル地圖ヲ製スヘシ
- 第十三條 各種ノ地所官有民有ノ區別及其名稱ハ總テ明治七年(十)第二百二十號公布ニ據テ處分スヘシ
- 第十四條 新タニ道路ヲ開設スヘキ場所ハ丈量施行ノ際明治九年第六十號御達書ニ據テ其間數ヲ定メ從前開設セル道路ノ左右既ニ民有地ニ係リ間數制限ニ適シ難キ分ハ往來運輸ノ障礙有無ヲ計リ成ルヘク舊慣ニ依ルヘシ新設ノ道路ト雖モ地形ニ依リ其間數制限ヘ循ヒ難キモノハ便宜査定スヘシ但舊來ノ道路ト雖モ敷地狹隘ニシテ往來運輸ノ障礙ヲ爲スモノハ家屋倉庫等ヲ營構セル地面ト雖モ必ス貸地ト爲スヘシ又土地ノ形況ニ依リ道路敷地ノ内ヲ貸



渡シ置クコトアルヘシ

第十五條 山林、川澤、原野等ハ當分總テ官有地トシ其差支ナキ場所ハ人民ノ望ニ因リ貸渡シ或ハ賣渡スコトアルヘシ

第十六條 舊蝦夷人民住居ノ場所ハ其種類ヲ問ハス當分總テ官有地第三種ニ編入ス但地方ノ景況ト蝦夷人ノ情態ニ因リ成規ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ

第三章 地價査定ノ方法

第十七條 地價査定ノ方法ハ丈量終テ各地ノ等級ヲ分チ土地ノ景況ニ依リ收穫賣買入札ノ三法ヲ用キテ之ヲ概定シ然ル後全道一般ノ地位ヲ比較シテ之ヲ査定スヘシ

第十八條 各地ノ等級ハ僅少ノ差ヲ以テ瑣細ニ之ヲ區分セス一村ヲ通觀シ其地位概略相同シキモノヲ類聚シ之ヲ區別シ又一郡ヲ通觀シテ各村ノ等級ヲ定ムヘシ

第十九條 各村ノ等級ヲ定ムルニハ甲乙二村各種ノ一等地ヲ取テ之ヲ比較シ其差等(乙村ノ一等地ニ當ルハ三)ニ依リ之レヲ別ツ丙村ノ乙村ニ於ケル丁村ノ丙村ニ於ケルモ總テ右ニ準スヘシ

第二十條 市街ハ一券面ノ地所其表裏等地位ノ等差アルモノハ之ヲ區分セス折衷酌量シテ一ノ等級ヲ定メ一町内ヲ通觀シテ之ヲ類別シ然ル後一市街ヲ通觀シテ各町ノ等級ヲ分ツ其比較査定ノ方法ハ各村ノ例ニ倣フヘシ

第二十一條 耕地ノ等級ヲ定ムルニハ地質ノ厚薄水旱害ノ多少等ヲ參酌シ宅地ハ土地ノ景況戸口ノ粗密及ヒ運輸ノ便否等ヲ斟酌スヘシ

第二十二條 海產干場ハ漁業ノ便否或ハ地質ノ適否及漁獲ノ多寡運輸ノ便否等ヲ斟酌シテ其等級ヲ分ツヘシ

第二十三條 收穫法ヲ用キテ地價ヲ定ムルハ明治六年大藏省達地方官心得書第十二章検査例第十則ニ法リ其收穫(收穫)ノ多寡ニ因テ地價ノ差等ヲ調査シ入札法ハ同上舊規ヲ斟酌シテ之ヲ施行スヘシ

第二十四條 賣買代價ヲ用フルトキハ明治九年地租改正事務局別報第十四號市街地租調査細目第三條ニ法リ之ヲ調査スヘシ

第二十五條 地價ハ各地悉ク調査スルヲ要セス上地ノ景況ニ從ヒ一町村民ハ數町村六七箇所計ノ地所ニ就テ之ヲ調査シ適宜至當ノ價位ヲ得テ然ル後各地ノ等級ニ從ヒ類推假定シ又一郡内各地ノ等級及價位ヲ通觀シテ之ヲ定ムヘシ

第二十六條 郡村宅地ハ甲地ニ比較シ海產干場ハ其接近セル宅地耕地ニ比準シテ之ヲ斟酌其平準ヲ失ハサルヲ要スヘシ

第二十七條 市街宅地並海產干場ノ地價ハ平坪若干耕地等ハ一段若干ト定ムヘシ

第二十八條 地價調査ノ方法ハ前各條ニ據ルヘシト雖トモ全道地價概定ノ後之ヲ査定スレハ札幌廳下各種ノ地所ハ函館廳下ノ地所ヲ標準(札幌ノ一等地函館ノ二等)トシ根室廳下ヲ標準スル等各其種類ヲ推シ比擬斟酌シテ全道各地ノ平準ヲ失ハサルヲ要スヘシ

第四章 地券調製ノ手續

第二十九條 地券ハ全道一般地價査定ノ後之ヲ發行スヘシ



第三十條 第二章第十二條ニ掲載セル地圖ニ付一村一町毎ニ各地順次ニ番號ヲ付シ其步數ヲ記シ所有者ノ姓名ヲ署シ除租地貸地ノ別ナク一村一町限リ逐號類聚シテ地券調查録ヲ編成スヘシ

第三十一條 地券調查録編成ノ後ハ各地番號ノ順次ニ從ヒ地券ヲ製シテ所有者ニ附與スヘシ  
第三十二條 地券録甲乙二部ヲ製シ地券附與ノ際收租地官有地ハ甲除租地ハ乙ノ地券録ニ券面ノ番號坪數所有者ノ姓名附與ノ年月日ヲ記シ券狀ト割印スヘシ

第三十三條 地券ノ法式收租地ハ第一號官用地ハ第二號除租地ハ第三號雜形ニ照準シテ之ヲ製スヘシ

第三十四條 貸地ハ第四號雜形ニ照準シタル貸地ノ證ヲ作り其番號坪數借用者ノ姓名附與ノ年月日ヲ貸地録ヘ記シ割印スヘシ

第三十五條 除租地ハ除租ノ滿期ニ從ヒ該年六月三十日迄ニ最前附與セシ券狀ヲ差出サシメ收租ノ券狀ト交換附與シ地券録甲部ヨリ乙部ニ移載シ第四章第三十二條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十六條 地券所有ノ者代替竝賣買讓渡ノ節ハ速ニ其事由ヲ具狀シ地券書換ヲ願出シメ地券録ヲ更正シ第三十三條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十七條 水火盜難等ニテ地券ヲ亡失セシトキハ速ニ書換ヲ願出シメ之ヲ推究シテ其事由判然タレハ新ニ地券ヲ製シ第三十二條ノ手續ニ從ヒテ之ヲ附與スヘシ

第三十八條 地券所有ノモノ一券面ノ地所ヲ裂キ之ヲ賣買讓與セント欲スルトキハ其坪數及代價等ヲ詳記シ其事由ヲ具シ地券書換願出シムヘシ

第三十九條 前條出願其事由判然タルトキハ本地分地各別ニ地券ヲ製シ第三十二條ノ手續ニ從テ之ヲ附與スヘシ尤各地券面ニ記スル地所ノ番號ハ之ヲ改メス券面番地ノ下ニ甲乙號ノ符號ヲ記シ之ヲ別ツヘシ

第四十條 前各條地券附與ノ節ハ必ス請取證書ヲ差出サシメ分類編集シテ地券録各部ニ附録トナスヘシ

第四十一條 貸地證所持ノ者代替竝水火盜難等ニテ證書ヲ亡失セシトキハ地券同一ノ手續ニ從テ書換ヲ願出シメ貸地録ヲ更正シ第三十四條ノ式ニ依テ之ヲ附與スヘシ尤新規書換トモ證書附與ノ節ハ必ス受取證書ヲ差出サシメ貸地録ノ附録トナスヘシ

第四十二條 收租地地券新規附與竝賣買書換ノ節ハ券面ノ地價ニ從ヒ每一枚證印稅トシテ左ノ通取立ヘシ

- 貳圓マテ 金八厘
- 貳圓以上百圓マテ 金壹錢五厘
- 百圓以上貳百圓マテ 金拾五錢
- 貳百圓以上五百圓マテ 金參拾參錢
- 五百圓以上千圓マテ 金四拾錢
- 千圓以上貳千圓マテ 金五拾錢
- 貳千圓以上五千圓マテ 金八拾參錢
- 五千圓以上 金壹圓貳拾五錢



第四十三條 除租地地券新規附與並賣買讓渡等ニ付書換及收租代替授與水火盜難等ニシテ書換ノ節ハ證印稅トシテ每一枚金八厘ヲ取立貸地證書新規附與並書換ノ節ハ手数料トシテ金八厘ヲ取立ツヘシ

第五章 地租種類ノ區分及其制限

第四十四條 家屋ヲ建設セル一區ノ地ヲ宅地トシテ一區域ヲ爲セル田畑ヲ耕地トシ海產製煉貯藏等ノ爲メニ用フル一區ノ地ヲ海產干場トシ其他山林牧場各一區域ヲ爲セルニ就テ其稱呼ヲ定ムヘシ

第四十五條 耕地宅地ハ何人ニ拘ラス人民各自之ヲ所有セシムヘシ

第四十六條 牧場ハ各郡村人口ノ多寡ト土地ノ廣狹トニ因リ牧畜ニ適スヘキ原野ヲ擇ンテ其經界步數ヲ定メ官有地第三種ニ編入スヘシ

第四十七條 官ニ於テ試驗ノ牧場ヲ要スルトキハ前條ノ外ニ適宜ノ地ヲ撰ミ其經界步數ヲ定メテ官有地第三種ニ編入シ人民營業ノ爲メニ要求セル地所ハ其經界步數ヲ定メテ之ヲ貸渡シ或ハ私有セシムヘシ

第四十八條 海產干場ハ何人ニ拘ラス之ヲ所有セシムヘシト雖モ海產採取ノ爲メニ設クルモノナレハ所有者自ラ營業セサルトキハ必ス他人ニ貸渡シテ營業セシムヘシ(十四年二月改正)但本條ノ地所ヲ他人ニ貸渡ストキハ其事由ヲ具狀セシメ審査ノ上之ヲ許可スヘシ

第四十九條 北海道地所規則ニ掲載セル漁濱昆布場ヲ自今改テ海產干場ト稱スヘシ

第五十條 海產干場ハ海產營業ノ爲メニ所有セシムルモノナレハ營業ノ差等ニ從テ地所坪數

ノ制限ヲ定ムヘシ

第五十一條 海產干場ハ一券面ノ地所ヲ分裂シテ之ヲ賣買讓與スヘカラス但不得止事故アルトキハ事實取調ノ上分裂許可スルコトアルヘシ(十六年十月追加)

第五十二條 海產干場ノ海岸浪打際(滿潮ノ時)時ヨリ五間乃至十五間ハ之ヲ官有地トシ干場所有ノ者ニ貸渡シテ之ヲ所有セシムヘシ但海產營業者ノ都合ニ依リ所有地ヲ他人ヘ貸渡ストキハ該地接續ノ官有地モ改メテ該地借用人ヘ貸渡スヘシ最モ本條間數ノ内ヲ道路ノ敷地ニ充ツルコトアルヘシ

第五十三條 山岳海濱へ突出シ土地狹隘ニシテ前條ニ掲載スル間數ノ外私有セシムヘキ餘地無之場所ハ總テ官有地トシテ之ヲ貸渡スヘシ

第五十四條 從前該地土著ノ人民ニシテ舊來之ヲ所有シ干場内ニ居住ノ者ニ限り其制限ニ過クル一割(千坪ニ割付)以下ノ地所ハ之ヲ所有セシムヘシ

第五十五條 海產干場坪數ノ制限ハ家屋漁舍倉庫ノ敷地ヲ合セテ之ヲ算スヘシ

第五十六條 海產干場所有ノ者地所割渡ノ儘營業ニ著手セシテ賣買讓與スルヲ許サス割渡ノ後一周年間著手セサル者著手後中止スルモノハ上地申付ヘシ最モ甲ニ於テ既ニ著手セル場所ヲ乙ヘ賣渡シ乙ニ於テ相當ノ營業ヲ爲サルカ或ハ中止スルモノハ土地賣貸規則第三條ニ掲載セル上等地價ノ割ヲ以テ之ヲ買上クヘシ

第五十七條 海產干場坪數ノ制限ハ土地ノ形勢ニ因リ之レヲ増減スルコトアルヘシト雖モ其坪數及間數大略左ノ如シ最モ舊來戶口稠密ニシテ此制限ニ從ヒ難キ場所ハ從前ノ舊慣ニ依



リ之ヲ所有セシムルコトアルヘシ且該地ノ形ヲ變セス鮮鮭場ニテ鮮其他海產各種ノ乾製ヲ營ム等ハ總テ營業者ノ自由ニ任スヘシ(廿二年十月)

鮮鮭建網	一統ニ付	千坪	奧海面	二十間
鮮鮭引網	同	千五百坪	奧海面	二十間
鮮差網	一枚ニ付	二百坪	奧海面	二十間
鮭建網	一統ニ付	五百坪	奧海面	二十間
大戻網	同	五百坪	奧海面	二十間
昆布刈船	一艘ニ付	四百五十坪	奧海面	二十間

但一區ノ干場ニ於テ網數統船數艘ヲ用テ營業スルモノハ一統或ハ一艘毎ニ制限坪數ノ半ヲ増加シ鮮差網ハ十枚毎ニ其四分ノ一ヲ増加スヘシ

第五十八條 干場坪數ノ制限ハ前條ノ割合ヲ以テ之ヲ定ムト雖トモ奧行淺クシテ其間數制限

ニ滿チ難キ場所ハ適度ニ從テ表口ノ間數ヲ増シ且奧行ノ間數其制限ニ過クルモ土地ノ形勢ニ依リ他ノ障礙ヲ爲サ、ルモノハ之ヲ許スコトアルヘシ

自費開設ニ係ル漁場及昆布採取場ニ就テハ是ヨリ先明治七年十二月ヲ以テ設置ノ年ヨリ五箇年間免稅トセシカ後明治十一年五月八日ニ至リ開拓使布達甲第四號ヲ以テ更ニ二年乃至五年間除稅スルモノトセリ

當使管下北海道各所ニ於テ漁場昆布場自費新開ノ分ハ五年間免稅ノ儀七年第四號ヲ以テ及布達置候處開業ノ際斷岩ヲ剝キ海汀ヲ埋メ河底ノ流木ヲ浚ヘ或ハ自然ノ地形ニ依リ各開設ノ難

易漁獲ノ多寡等頗ル徑庭有之候ニ付自今實地ヲ精査シ更ニ二箇年乃至五箇年除稅候事

又從來海產干場ヲ人民ニ貸付シ來リシカ明治十二年ニ至リ無償ヲ以テ之ヲ附與スルコト、シ二月十四日開拓使布達乙第二號ヲ以テ令達セリ

五年九月北海道地所規則發行以前ニ割渡シタル海產干場拜借地ニ成候分特別ノ譯ヲ以テ本籍寄留ノ別ナク總テ代價ヲ徵收セス其儘私有セシメ候條各自勉勵營業ノ目途確定致スヘシ

同年十二月二十四日開拓使ハ地租徵收期限ニ付テ太政官ニ建議シテ曰ク管內各種地租改正及ヒ制定ノ事業漸ク整頓ニ就ク因テ明治十年七月布告地租徵收期限ニ照シ徵收セサルヲ得スト雖モ北海道田畑ハ其登熟收穫ノ期他道ニ例視シ難ク且海產乾場ノ如キハ其產物ノ種類ニ依リ收穫期節ヲ異ニシ殊ニ新移薄弱ノ人民多キヲ以テ一般ノ制度ニ循ヒ難キ情實有リ既ニ地稅ヲ百分ノ一ト定メラレシ地方ナルニヨリ徵收期限ハ收穫ノ期節ニ應シ全道一般地稅ハ翌年五月三十一日ヲ以テ終期トシ其間ニ於テ適宜ニ收入セント此ニ於テ太政官ニ於テハ之ヲ容レ翌十三年一月之ヲ可決セリ

以テ明治十九年六月二十九日閣令第十六號ヲ以テ土地拂下規則ヲ設ケ官有土地ノ拂下ニ關スル規定ヲ設ケタリ今左ニ其關係條文ヲ掲ケン

北海道土地拂下規則

第一條 北海道官有未開ノ土地ハ本規則ニ依リ北海道廳ニ於テ之ヲ拂下クヘシ

第二條 土地拂下ノ面積ハ一人十萬坪ヲ限リトス但盛大ノ事業ニシテ此制限外ノ土地ヲ要シ其目的確實ナリト認ムルモノアルトキハ特ニ其拂下ヲ爲スコトアルヘシ



第三條 土地ノ拂下ヲ請ハントスル者ハ其書面ニ地名坪數並事業ノ目的著手ノ順序及成功ノ程度ヲ詳悉シ先ツ其土地ノ貸下ヲ北海道廳ニ願出ツヘシ但耕宅地ニ爲サントスル者ハ其坪數ヲ毎年ニ配當シ其成功期限ヲ詳記スヘシ

北海道廳ニ於テ其方法確實ナリト認ムルトキハ其土地ヲ貸下クヘシ但借地料ヲ徵收セス  
第十條 素地代價ハ千坪ニ付金壹圓トシ成功ノ後之ヲ拂下ケ地券ヲ下付スヘシ但其土地ハ拂下ノ翌年ヨリ十箇年ノ後ニアラサレハ地租及地方稅ヲ課セス

附則

第十三條 明治五年第三百四號公布北海道土地賣買規則明治七年開拓使第四號布達明治十一年開拓使甲第四號布達ヲ廢止ス

是ヨリ先明治十年北海道地券發行條例ヲ制定シ人民ヲシテ土地ヲ所有セシメ地券ヲ發シ地租ヲ課スヘキモノトセシコト既ニ述フルカ如シ然ルニ後明治十九年八月ニ至リ法律第一號ヲ以テ登記法ヲ發布スルニ及ヒ爾來土地所有ノ權利ハ同法ニヨリテ左右セラル、コト、ナレリ殊ニ地券制度ノ爲メニ官民ノ要スル所ノ勞力ト費用トハ亦少カラサルモノアリ此ニ於テ地券ヲ廢止シ地租ハ土地臺帳ニ記載セル土地ノ價格ヲ標準トシ該帳簿ノ記名者ヨリ之ヲ徵收スルコトニ改メ明治二十二年三月法律第十三號ヲ以テ之ヲ發布セリ仍テ從來ニ於ケル規程中地券ニ關スルモノハ自ラ消滅セリ

抑北海道ノ地租タルヤ開拓使設置ノ始ヨリ特別ノ稅法ヲ定メ其租率ヲ輕減シ總テ内地ト其制ヲ異ニセシハ畢竟拓地殖民上之レカ獎勵ヲ要スルニ外ナラス而シテ舊開拓使設置後開墾除租年期

ヲ附與セシモノニシテ該年期ノ滿限ニ至リ賦租ノ處分ヲ下レルモノハ當時附與セシ年期ノ短カカリシ憾ナキニアラス依テ右賦租ノ處分ニ係ル田畑郡村宅地ニ限リ更ニ十箇年間除租シ而シテ自今拂下ケ開墾スヘキ土地ハ十箇年期ヲ二十箇年ニ改正シ從來除租年期中ノモノハ其期明ヨリ特ニ十箇年ノ延期ヲ與フルコト、シ明治二十二年六月二十八日法律第十八號ヲ以テ有租地及年期地ニ對シ閣令第二十號ヲ以テ拂下地ニ對シ各免租期間ヲ改正セリ

法律第十八號

北海道開墾地ニシテ明治二年以後有租地トナリタル田畑及郡村宅地ハ明治二十二年ヨリ同三十一年迄特ニ地租地方稅ヲ免除ス其現ニ開墾年期中ノモノハ滿期ノ翌年ヨリ尙ホ十箇年開地租地方稅ヲ課セス

閣令第二十號

明治十九年六月閣令第十六號北海道土地拂下規則第十條左ノ通改正ス

第十條 素地代價ハ千坪ニ付金壹圓トシ成功ノ後拂下クヘシ但其土地ハ拂下ノ翌年ヨリ二十箇年ノ後ニアラサレハ地租及地方稅ヲ課セス

地租ノ納期ヲ改定スルハ徵收上ニ於テ官民ノ便宜少カラサルヲ以テ明治二十二年十月三日大藏省令第十二號ヲ以テ之ヲ定ム

第一期	同 該年八月三十一日限ヨリ	宅地及雜地	五分
第二期	同 該年十一月三十日限ヨリ	田畑 鑛泉 池沼	五分
第三期	同 翌年二月末日限ヨリ	宅地及雜地	五分
第四期	同 翌年五月三十一日限ヨリ	田畑 鑛泉 池沼 山林原野	五分



次テ明治二十三年九月五日ニ至リ法律第七十九號ヲ以テ屯田兵土地給與規則ヲ定メ屯田兵トシテ北海道ニ移轉居住スル者及其村落ニ對シ一定ノ土地ヲ給與シ同道ニ於ケル守備ノ目的ヲ達スルト同時ニ開拓ノ進歩ヲ期スルコト、シテ而シテ該給與地ニ對シテハ一定ノ期間租稅ヲ免除セリ其規定左ノ如シ

屯田兵土地給與規則 (抄錄)

第一條 屯田兵トシテ北海道ニ移住スル者ニハ一戸凡ソ一萬五千坪ノ土地ヲ給ス其ノ下士ニ任セラレタルトキハ凡ソ五千坪ノ土地ヲ増給ス

屯田兵出身ニアラサル下士ニシテ屯田兵條例ニ依リ服役スル者ニハ凡二萬坪ノ土地ヲ給ス  
第二條 移住ノ屯田兵二百五十坪以内ヲ以テ屯田兵村トシ一戸凡ソ一萬五千坪ノ割合ヲ以テ戸數ニ應シ其ノ村ノ公有財産トシテ土地ヲ給ス

公有財産ノ管理利用竝ニ開墾ノ事ハ屯田兵司令官ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 屯田兵及屯田兵村ニ給與シタル土地ハ服役中及滿期、年ヨリ十年間國稅及地方稅ヲ免除ス

第八條 從前北海道ニ移住シタル屯田兵及屯田兵村ニ給與ノ土地ハ服役中及其滿期ノ年ヨリ二十年間國稅及地方稅ヲ免除ス

明治十七年ヨリ同二十三年マテニ召募シタル者ニ係ルモノハ第三條ノ例ニ依ル

變ニ明治十七年地租ノ賦課ニ關スル根本規程トシテ地租條例ヲ發布スルヤ北海道ハ特ニ之ヲ除外シ當分ノ間從前ノ通りタルヘキモノトセリ然ルニ同道ノ進歩ハ今ヤ漸ク之カ實施ニ堪ユルニ

至リタルヲ以テ明治二十四年六月北海道廳訓令ヲ以テ租率地租ノ増減土地ノ變換開墾及荒地其他制裁ニ關スルモノ、外ハ地租條例ニ準據シテ土地ヲ整理スヘキ旨令達スル所アリタリ

北海道廳訓令第四十六號 (明治二十四年六月十日)

民有地土地整理方

民有地整理ハ自今明治十七年(月)布告第七號地租條例(第一條第二條第三條第八條第十條第十六條第十七條及第二十五條以下ノ各條ノ除ク)ニ準シ取扱フヘシ但シ明治十八年八月函館縣乙第二十二號同年六月當廳訓令第八十一號ハ廢止ス

又北海道土人保護ノ必要上之ニ一定ノ土地ヲ無代價ニテ給與シ以テ開墾ニ從事セシメ而シテ其土地ニ對シテハ一定ノ期間地租ヲ課徵セサルコト、シ明治三十二年三月北海道舊土人保護法ヲ公布セリ

法律第二十七號 (明治三十二年三月)

北海道舊土人保護法 (抄錄)

第一條 北海道舊土人ニシテ農業ニ從事スル者又ハ從事セムト欲スル者ニハ一戸ニ付土地一萬五千坪以内ヲ限り無償下付スルコトヲ得

第二條 前條ニ依リ下付シタル土地ノ所有權ハ左ノ制限ニ從フヘキモノト

一 相續ニ因ルノ外讓渡スコトヲ得ス

二 質權抵當權地上權又ハ永小作權ヲ設定スルコトヲ得ス

三 北海道長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ地役權ヲ設定スルコトヲ得ス



四 留置權先取特權ノ目的トナルコトナシ

前條ニ依リ下付シタル土地ハ下付ノ年ヨリ起算シテ三十箇年ノ後ニ非サレハ地租及地方稅ヲ課セス又登錄稅ヲ徵收セス

舊土人ニ於テ從前ヨリ所有シタル土地ハ北海道廳長官ノ許可ヲ得ルニ非サレハ相續ニ因ルノ外之ヲ讓渡シ又ハ第一項第二及第三ニ掲ケタル物權ヲ設定スルコトヲ得ス

第三條 第一條ニ依リ下付シタル土地ニシテ其ノ下付ノ年ヨリ起算シ十五箇年ヲ經ルモ尙開墾セサル部分ハ之ヲ沒收ス

次テ明治三十年三月ニ至リ法律第二十六號ヲ以テ國有未開地ノ賣拂附與交換及貸付ニ關スル處分方法ヲ定メ此等ノ土地ニ就テハ一定ノ期間地租ヲ賦課セサルモノトス而シテ同法ハ明治三十年四月一日ヨリ之ヲ施行シ同時ニ明治十九年閣令第十六號北海道土地拂下規則ヲ廢止セリ

北海道國有未開地處分法

第一條 北海道國有未開地ノ賣拂附與交換及貸付ノ處分ハ此法律ニ依ル

第二條 前條ノ賣拂及貸付ハ此ノ法律ニ於テ特ニ規定スル場合ノ外競爭ニ付セス

第十八條 此ノ法律ニ依リ賣拂附與又ハ交換シタル土地ハ其民有トナリタル年ノ翌年ヨリ二十箇年ノ後ニ非サレハ地租及地方稅ヲ課セス

此ノ法律ニ依リ土地ノ附與ヲ受ケタル者ニ限リ六箇月以内ニ其登記ヲ請フトキ及土地臺帳ニ登錄スルトキハ其登錄稅ヲ免除ス (明治三十二年一月十日法 律第一號ニ以テ本項追加)

第二項 沖繩縣

沖繩縣ハ大小百十四個ノ島嶼ヨリ成ル而シテ島嶼中沖繩島最モ大ナリ由テ之ヲ本島ト云ヒ其近海ニ散在スル島嶼ヲ併セテ沖繩群島ト稱シ西南ニ在ル宮古諸島八重山諸島ヲ兩先島ト云ヒ又之ヲ併セテ先島群島ト稱ス全管内ヲ那覇首里ノ二區及島尻中頭國頭宮古八重山ノ五郡ニ分チ更ニ五郡ヲ分テ四十五間切八島トス

沖繩縣ハ初メ琉球ト稱シ和漢兩屬ノ國ニシテ漢撫スレハ漢ニ從ヒ和征スレハ和ニ服ス慶長ノ役島津氏之ヲ征服シ爾來薩藩ノ附庸トナル是ニ於テ同藩ニ對シ出米ト稱シ其租入額一石毎ニ九升二合ヲ貢納セシメタリ然レトモ陰ニ封冊慶弔ノ儀ヲ執テ款ヲ清廷ニ通スルコト止マス以テ三百有餘年ヲ經過スルニ至レリ明治五年我朝廷琉球藩主尙泰ヲ封シテ琉球藩主ト爲シ敍シテ華族ニ列ス茲ニ於テ天朝ノ藩屏トナル仍テ同年十一月二十日外務大藏兩省ハ其藩從前鹿兒島縣ニ納ムル租稅ハ自今直ニ租稅寮ニ上納スヘキ旨ヲ達シ兩省官吏ヲ差遣シテ朝貢ノ事ヲ提理セシム翌六年十二月四日外務省ハ其藩貢納ノコト特別ノ詮議ヲ以テ賦米竝ニ代砂糖納ヲ廢シ自今米八千二百石ヲ常額ト定メ毎年十月十五日ヨリ十二月十五日マテ六十二日間ノ大坂市中平均價格ヲ以テ石代ヲ上納シ當分翌年七月マテ延納ヲ許スニヨリ納方ハ大藏省ヘ京申スヘキ旨ヲ達セリ次テ明治十二年四月四日琉球藩ヲ廢シテ沖繩縣ヲ置クニ及ヒ貢納ノ事茲ニ廢絶セリ然ルニ同年六月沖繩縣甲第三號布達ヲ以テ

諸法度之儀更ニ改正ノ布告ニ及ハサル分ハ總テ從前ノ通相心得可申此旨布達候事



ト令シ土地及租稅ニ關スル制度モ亦姑ク舊慣ニ仍リタリ然ルニ年所ヲ經ルニ從ヒ頑ヲ啓キ蒙ヲ發シ綏撫其宜キヲ得漸ヲ遂フテ民心ノ歸嚮ヲ致シ諸般ノ行政制度モ亦面目ヲ一新スルニ至リタリト雖モ如何セン諸制百度ノ基礎タル土地及租稅ノ制度ハ邈然トシテ尙ホ二百有餘年前ノ陳套ヲ襲ヒ更革スル所アラサリシヲ以テ諸政ノ根本ニ革新ヲ施ス能ハス舊慣法ノ依然トシテ廢止セラレサルモノ多ク又一般法令ニシテ直ニ同縣ニ施行セラレサルモノ少ナカラサリシカ明治二十年奈良原繁ノ職ニ同縣ニ蒞ムヤ制度改革ノ一日モ緩スヘカラサルヲ察知シ時機亦既ニ熟セルヲ看取シ銳意之カ革新ヲ企圖シ狀ヲ具シテ制度ノ改正ヲ上申セルモノ再三ニ止ラス而シテ一方ニ於テハ弊習最モ甚シキ舊慣制度ノ一部及二三ノ公費ヲ廢置スルト共ニ地方制度ノ全體ヲ改正スルノ議ヲ建テ之ヲ內務省ニ提出シテ著々革新ノ事ニ從ヘリ然ルニ舊慣ノ土地及租稅制度ニ依レハ一般農民ハ土地ノ耕作及使用收益ヲ爲スニ止マリ管テ其所有權ヲ認メラレス從テ租稅モ個人別納額ナルモノナカリシカハ地方制度ノ構成要素タル公民ノ資格ヲ規定スルニ最モ緊切ナル財産上ノ條件ヲ缺如セルノ故ヲ以テ此建議ハ直ニ採納セラレサリシカ明治二十九年郡ノ編制ヲ定メ那覇首里ニ區制ヲ施行シ翌三十年間切島吏員規程ヲ定メテ新ニ吏員ヲ置キ悉ク舊慣以來ノ吏員ヲ廢止シ次テ明治三十一年間切島規程ヲ定メ地方事務ノ分屬及機關ノ組織權限ヲ定メ以テ將來ニ於ケル地方制度改正ノ素地ヲ作スニ止ラサルヲ得サリキ然ルニ沖繩縣舊慣土地及租稅制度ノ改正ハ沖繩縣制度全體ノ革新ノ爲メニ先ツ其前驅トシテ必要止ムヘカラサルニ至リ調査ノ進行ト共ニ政府亦議ヲ決シ遂ニ明治三十二年一月法律第五十九號ヲ以テ沖繩縣土地整理法ノ發布ヲ見ルニ至リ爾來五春秋ヲ經テ全ク其業ヲ竣レリ而シテ其新ニ制定スル所ノ各種土地ノ段別

ハ合計二十一萬二千二百九十七町七段餘ニシテ地租金合計貳拾壹萬千四百七拾五圓餘內有租地ニ屬スルモノ耕地宅地ノ段別六萬七千五百二十五町三段餘地租金貳拾萬九千參百圓餘山林原野其他雜種地ノ段別四萬三千六百五十五町餘地租金貳千七百七拾五圓餘トス

### 第一目 舊慣土地及地租制度

琉球ニ於ケル地租ハ概ネ内地ノ舊法ニ準由セシモノニシテ地租ヲ定ムルニ石盛ヲ以テシ收入スルニ定免ヲ以テシ石代納アリ口米アリ雜穀納アリ然レトモ地ノ遠隔スルト風土ノ別異ナルトニヨリ自ラ相同シカラス代糖納段布納等アリ明治十二年藩ヲ廢シテ縣ヲ置クニ及ヒテモ尙租稅ノ制度ハ舊慣ニ循ヘリ今沖繩縣廳ニ於テ地租ニ關シテ編錄セシモノヲ左ニ記載ス

#### 一 檢地ノ事

是ハ慶長十五年舊鹿兒島藩ノ檢地ニシテ村位ト地位トヲ定メ各之ニ應スル石高ヲ配賦シテ總高ヲ決定シ其後寛永十二年盛増ト唱ヘ草高一石ニ付目七升三合六勺五撮ノ當ヲ以テ增高ヲ命ジ又同年上木高ト唱ヘ唐芋敷芭蕉敷藪敷地ノ類ヲ草高ニ結ヒ彼是合シテ現今ノ總高トス其後享保十二年ニ至リ寛永度ノ例ニ據リ盛増ノコトヲ發令セシニ人民困難等ノ故ヲ以テ草高ハ据置キ之ニ代ルニ掛増米ノ令ヲ以テス則チ重出米(重出米ノ事ハ)中含蓄スル所ノ盛増出米是ナリ蓋シ右兩度ノ盛増ハ元鹿兒島藩ノ要求ニ因リシト云フ

#### 二 田畑段別及草高ノ事

是ハ右慶長年度ノ檢地帳及寛永年度增高ニ付改改タル名寄帳ヲ以テ根據トス亦石盛ノ如キハ



村々ニ依リ多少ノ異同アリト雖モ大概左ノ如シ

上田	十六	中田	十四	下田	十二
上畑	〇八	中畑	〇六	下畑	〇四
屋敷地	〇八				

右ハ慶長年度石盛ノ大概ニシテ田方ハ分米畑方ハ分大豆ヲ以テ草高トシ且之ニ寛永年度ノ増高當ヲ加フ又同年度ノ上木高ノ内蒲敷ノ類ハ田方唐苧敷芭蕉敷ノ類ハ畑方ニ準シテ草高二結フ但其石盛ノ如キハ地位ニ因テ悉ク異同アリ

三 地租ノ事

是ハ慶長檢地ノ際村々トモ田畑ノ善惡村柄ノ盛衰人民ノ多寡等ヲ一々斟酌シテ田方ハ高一石ニ付若干(凡九斗五升五六合)畑方同斷貢難穀若干(凡二斗五升位下大豆ノ二品ナリ)但雜穀ト取極メタルモノニシテ其頃ノ舊記ハナシト雖モ其以後書改タル名寄帳ニ記載之アリ概略四公六民ノ無年季永定免ニシテ凶年アリト雖モ貢租ノ減額ヲ聽カス又豐年タリト雖モ敢テ貢額ノ外ヲ取ラサル舊慣ナリ但檢地帳及名寄帳中田畑ノ名稱ヲ異ニシテ隨テ課稅法モ聊カ異ルモノアリ之ヲ左ニ掲ク

(一) 百姓地

是ハ普通ノ耕地ニシテ則チ官有地ナリ課稅ノ方法前記ノ如シ

(二) 仕明請地

是ハ人民勞力ヲ以テ海濱或ハ山野等ヲ開拓シ則チ人民一箇ノ所有地ヲ云フ但稅法前ニ同シ

(三) 仕明知行

是ハ其性質仕明請地同様ニシテ知行ノ名稱アル所以ノモノハ士族ノ所有ニ因テナリ而シテ其仕明知行ニ限リ上納高ノ内重出米及段米段米トハ舊藩中元鹿兒島ニ上納米ヲ節高一石ニ付米一斗一升四撮ノ當ヲ以テ差向ル米筋ヲ云フ分現納ニシテ其餘ハ米穀トモ石代納(此樹目ハ穀代納ノ條ノ舊例ナリ)

(四) 請地

是ハ元百姓地ヨリ分裂スルモノナリ故ニ收稅ハ一般ト異ナルナシ然トモ人民一箇ノ所有ヲ云フ其分裂スル原因タル詳ナラス蓋シ往古其土地ヲシテ村民ノ員數ニ應シ分與セシヲ漸々人口ノ減少ニ至ルヲ以テ其土地普ク耕耘スルニ力ナク遂ニ官許ヲ經テ幾分ヲ他人ニ讓リ其代金ハ官ニ納入ス是ニ於テ人民一箇ノ所有ト云爾

(五) 拂請地

是ハ其原由請地ニ稍相似タリ然トモ本島中獨リ具志川此谷ノ兩間切ニ限ルモノニシテ一村困迫ナルヲ以テ貢納ニ力ナク依テ其土地賣却センコトヲ情願ス官之ヲ許シ他人相當代價ヲ以テ其土地ヲ買受ケ一箇人ノ所有トス然トモ耕耘ハ依然舊ノ村民ニアルヲ以テ爲ニ救助トシテ米雜穀トモ前項仕明知行同様ノ石代ヲ以テ官納セシムル舊慣ナリ蓋シ地所賣却代金ハ該村ノ共有ニ屬セシト云フ是レ前項請地ト異ナル所以ナリ

(六) 地頭高

是ハ舊ニ士族ニ給與セシ地ヲ言フ悉ク官有地ナリ而シテ該稅法ハ往昔掛藩吏及村吏等立會



檢見シ以テ將來上納高及百姓作徳地頭所得等ヲ區別セシモノナリ其凡例左ノ如シ  
田高二十二石二斗七升八合九勺六撮 地頭高

此茅五茅九十六九キ五束 米五升廻シ  
内 四茅七十六九キ五束 同 一丸キニ付  
一茅二十九九キ

此正米高二十八石六斗二升五合

但茅トハ稻草ヲ云フ又一束ハ一人ノ片手ニ抱ヘ得ル丈ケノ稻株一丸キ八十束  
一茅ハ千束ヲ云フ  
内

五斗一升四合代口米共

十一石六斗八升四勺二撮

田畠合高ニ掛ル

一石一升三合二勺一撮

九石五斗四升一合六勺八撮

是ハ耕耘者ノ所得トナルモノニシテ正米高ノ三分一ナリ

六石三斗八升九合七勺

是ハ正米高ノ内ヨリ前三口差引タル殘米ニシテ全ク給與セラレタル地  
頭ノ祿米ナリ

右ハ田方ノ例ニシテ畑方モ亦麥下大豆等檢見シ同様ノ算則ヲ以テ取極メタルモノナリ

(七) 役地高

是ハ村吏ノ役地ヲ云フ但稅法地頭高ニ同シ

宮古島及其屬島ハ皆畑ニシテ(聊カ田方モアレト前)ニシテ貢額ハ米及白上中下布ノ四品ニ

シテ無年季永定免ナリ而シテ該稅ハ寛永五年迄草高ニ賦課セシニ翌六年ヨリ人員賦課ニ  
更正ス其方法米粟ハ男白上布ハ女(何モ十五歳ヨリ)白中下布ノ二品ハ男女(年上)割賦スル

モノトシ其中ヨリ男女トモ上中下下ノ四段ニ別テ賦課徵收ス(假令ハ何十歳ヨリ何十歳  
モトシ)其以降人員ノ増減ニ拘ラス年々定納ナリ

四

加徵制度 (或曰宮古島及八重山島ニ對シテハ寛永十三年定石ヲ廢シテ人頭配付稅トシ更ニ  
高治三年ニ至リ其年ニ屬スル貢租ノ額ヲ以テ一定不動ノモノトシ之ヲ人頭ニ配  
賦スルノ方法即チ定額  
人頭配賦稅制度トセリ)

(一) 掛増米ノ事

是ハ舊藩廳租稅要法書類外ノ地租ニシテ其事由ハ士族采地ノ内從來繩延又ハ切添地等ノ分  
該士族ト耕耘スル人民ト熱談ノ上相當ノ増米ヲ極メ其段舊藩廳ニ届濟ノ上毎歲人民ヨリ士  
族ニ請取來リシモノニシテ則チ舊藩引繼書類中ニモ該石數等掲載セリ

(二) 起先區別ノ事

是ハ其濫觴詳ナラス草高ニ免米ヲ乘シ算出セシモノヲ稱シテ起シト云フ又之ニ一石ニ付一  
斗二升ツ、加ヘタルモノハ則チ斗立ナルモノニシテ租稅穀類渾テ斗立ノ掛ラサルハナシ又  
右ニ一斗六升ツ、加ヘタルモノハ藏役人心附(此事由未條)迄モ籠リタル現枿ニシテ之ヲ先ト  
云フ(則チ一石)又雜穀ハ缺補(此事由未條)三斗六升ツ、加ヘタルモノヲ先ト云フ(則チ一石)



(三) 重出米粟ノ事

是ハ田島高一石ニ付三升七合四勺ニ撮ヲ課セシモノニシテ則チ三出米ト稱ス曰ク賦米曰ク荒缺地出米曰ク掛米是ナリ其事由左ノ如シ

賦米ハ往昔鹿兒島藩ヨリ藩知事京阪等ニ往復スル諸入費トシテ高一石ニ付一升四合九勺五撮ヲ一般ニ賦課セシニ原由シ舊藩中モ同様取立來リシモノナク荒缺地出米ハ前々損地等ノ爲メ貢額ノ減少セシヲ以テ往昔其減額ノ分ヲ一般ニ割付シ高一石ニ付一升七合七勺五撮ヲ課セシモノナリ

掛増米(盛増出米トモ云フ)ハ享保十二年ヨリ高一石ニ付四合七勺二撮ヲ賦課セリ其原由ハ檢地ノ條ニ詳記ス

該重出米ハ素ヨリ田畑トモ米納ノ定ナリト雖モ從來願濟ニテ粟ヲ以テ納メ來リタル村方アリ但米一石ハ粟一石ノ計算ナリ

(四) 口米雜穀ノ事

是ハ地租米及雜穀ノ内其地頭タル士族ノ所得米(則チ綠米)ニ當ル分竝ニ重出米ヲ除クノ外渾テ本租一石ニ付口二升ツ、取立ルノ舊例ナリ

五 畑方雜穀納ノ事

是ハ古來畑方本租雜穀高ノ内三分ノ一ハ下大豆三分ノ二ハ麥ノ定則ニシテ(雜穀一石ハ麥下ツナ)該二種ノ石數ノ内村々トモ毎歲定石數アリテ粟白大豆菜種小豆黍白菰豆粟黍黍稷等ニ成替リ定納ス而シテ右成替納及定石納ノ石數ヲ除キ殘額ハ正麥及正下大豆納ノ慣例ナリ該

雜穀類ト麥下大豆トノ比例左ノ如シ

麥下大豆トモ

粟一石ハ	二石
但粟ト米トハ同等ノ仕來リナリ	
菜種子一石ハ	同 一石三斗五升
白大豆一石ハ	同 一石二斗五升
本大豆一石ハ	同 一石一斗二升五合
小黍一石ハ	同 一石
黍稷一石ハ	同 一石

但粟黍稷ト麥下大豆トノ比例ハ從來右ノ如シト雖モ右ノ分各其精品トノ比例ハ各級二石ヲ以テ精品一石トス

六 代納制度

(一) 石代納ノ事

是ハ田方貢米額ノ内仕明知行高及拂請地高ノ二種ニ掛ル本租ハ從來斗立高ヲ以テ定石代納ナリ亦國頭地方及中頭地方美里間切ノ内九箇村伊平屋島伊江島八重山島ハ他間切ニ比較格外米性相劣ルノ故ヲ以テ每歲本島石代直段ニ三斗二升入一俵ニ付金參拾錢安則チ一石ニ付九拾參錢七厘五毛安ヲ以テ定石代納ノ仕來リナリ又定石代ノ外正納スヘキ米員該年不作其他ノ情實ヲ以テ臨時石代納ヲ願出ルトキハ右米員八斗立及藏役人心付(藏役人心付ノ詳記ス)等迄



合算シテ石代納ヲ許可ス但國頭其他安直段ノ村々ハ臨時石代ト雖モ前記藏役人心付等迄合算ノ上安直段ヲ以テ取立ルノ慣例ナリ

一 畑方貢麥及下大豆ノ内定石代納二様アリ其一ハ代請石代ト唱ヘ該年第二種(一種ハ該直段ニ取極ノ條)石代直段ニ百姓心付トシテ一升ニ付金貳厘安則チ一石ニ付金貳拾錢安ヲ以テ本租斗立トモ算計ス其濫觴詳ナラス其二ハ地租ノ條ニ記セシ所ノ仕明知行高及拂請地高ニ掛ル貢麥(此二種ノ租額ナリ)ニシテ本租斗立該年第一種石代直段ヲ以テ算出ス其他麥下大豆トモ正納スヘキ石數臨時石代納ヲ願出ルトキハ前條ノ通斗立藏役人心付及缺補(缺補ノ事ハ末等迄合算シテ第一種石代直段ヲ以テ取立ルノ舊慣ナリ)

石代直段取極方ノ事

是ハ每歲米ハ八月十六日ヨリ九月四日マテ(舊リ七月初旬)二十日間首里那霸市中賣買相場平均ヲ以テ算定ス

一 麥石代直段ニ二種アリ其一ハ普通直段其二ハ安直段是ナリ該直段ヲ定ムル方法ハ每歲四月十一日ヨリ同三十日マテ(舊リ三月初旬)二十日間首里那霸市中賣買相場十日ツ、二區ニ平均シ其安直段ヲ以テ代受石代直段トシ高直段ヲ普通石代直段トス

一 下大豆石代直段モ又二種アリ該年十一月一日ヨリ同月二十日迄(舊リ十月初旬)二十日間首里那霸市中賣買相場ヲ以テス其安直段高直段ノ取極方ハ渾テ麥直段ニ同シ

一 此他雜穀類ハ下大豆ノ相場ヲ基トシ之ニ前記雜穀ノ條ニ記載セシ品位ノ比例ヲ以テ本大豆白大豆白藟豆小豆ノ石代相場ヲ算出ス但粟黍菜種子ハ皆現納然トモ事故有テ石代納願出

ルトキハ時價(則チ市中賣買)ヲ以テ代納ヲ許可スルノ慣例ナリ

(二) 代糖納ノ事

是ハ收納ノ方法二種アリ其一ハ米粟若干ヲ以テ砂糖若干ニ換納シ其二ハ石代納スヘキ金若干ヲ以テ砂糖若干ニ換納ス蓋シ往昔ヨリノ慣行ナリ其詳細左ノ如シ

一 中頭地方ノ内美里間切九箇村ヲ除クノ外特ニ島尻地方一般ニ渾テ貢米ノ起米三斗七升五合ヲ以テ砂糖百斤ニ換ヘ又國頭地方ノ内三間切及中頭地方ノ内美里間九箇村ハ米性宜シカラサルノ故ヲ以テ起米四斗一升六合六勺六撮六分ヲ以テ砂糖百斤ニ換納ス但シ何モ前々定納額アリ

一 伊江島及中頭地方ノ内讀谷山間切ハ貧村ノ故ヲ以テ前々ヨリ願ニ因リ貢粟ノ内各五十石ツ、年限ヲ以テ代糖納ヲ許可シ起粟四斗一合七勺八撮六分ヲ以テ砂糖百斤ニ換納ス(額上糖)但現今ハ明治十年ヨリ同十四年迄五箇年ノ年季中ナリ

一 該代糖納アル村々前項石代納ノ條ニ掲載スル麥下大豆代受石代ト唱フル分砂糖百斤ニ付延錢百八十貫文ノ定價之ヲ通貨壹圓ニ付延錢千六百貫文ヲ以テ算出シ金拾壹錢貳厘五毛ノ當ヲ以テ換納仕來ル然ルニ明治十一年舊藩ニテ右延錢ノ稱相廢シ隨テ砂糖ノ價格モ同年ヨリ前十箇年間市中砂糖賣買相場ノ凡平均ヲ以テ更ニ百斤ニ付銅錢百六十貫文ニ改定シ之ヲ通貨壹圓ニ付銅錢五十貫文ヲ以テ算出シ金參圓貳拾錢ノ割ヲ以テ十一年分ヨリ換納セシム但此代糖ハ年々石代直段ノ高下ニヨリ納額増減アルヘキ筈ノ處右ニ拘ラス從來一間切毎ニ砂糖ノ納額アリテ該納額徵收濟ノ後石代金員ニ照シ精算ノ上不足ハ現金ヲ以テ取立過分ノ



砂糖ハ現品ヲ下戻サスシテ前記百斤ニ付金參圓貳拾錢ノ割ヲ以テ金員ニテ下付スル慣行ナリ

- 一 中頭島尻兩地方ノ内北谷越來具志川高嶺ノ四箇間切ハ最モ貧村ナルヲ以テ舊藩廳ニテ手入場所ト唱へ救助ノ典ヨリ買揚糖額ノ内年限ヲ以テ定數時價買上ヲ許可セリ
- 一 右等ノ貢糖ハ渾テ納額皆納マテハ新糖賣買嚴禁ニシテ完納セシ間切ヨリ漸々賣買ヲ許可スルノ慣行ナリ

(三) 段布納ノ事

是ハ八重山宮古ノ兩島ハ地租ノ條ニ記載セシ如ク租額中ニ白上中下布ノ三品アリテ右ノ内毎歲舊藩ヨリ白紺細上布及縮布木綿等ノ類品位段數ヲ極メ前年ヨリ之ヲ該島ニ注文シ以テ前記ノ三品ト換納セシム其方法白上布一匹ニ付八重山ハ代起米七斗五升宮古ハ代起米七斗白中布一段八重山ハ代起米三斗一升五合八勺宮古ハ伏起米粟額ヲ算定シ而シテ之ヲ換納セシム諸段布代米粟ノ合計ト差引過石ハ該島貢米ノ納額中ヨリ引去下戻シ不足ハ現米粟ヲ以テ徵收ス蓋シ右換納スル所ノ段布モ從來品位限リ代米粟ノ定額アリ假令ハ其品位二十升紺地細上布(一升十兩ハ)ハ一段ニ付代米粟何程十五升白細上布ハ一段ニ付何程ト云フカ如ク各其代ヲ異ニス右ハ往昔ヨリノ慣例ニシテ段布納ノ起原年度等渾テ詳ナラス

- 一 久米島細ノ儀元來該島貢額ハ從來米貢ニシテ其内ヨリ代米凡ソ八九百石程ハ毎歲舊藩ヨリ白細綿細ノ内品位段數等相極メ前年ヨリ之ヲ注文シ而シテ徵收ノ後該段布代米高ハ該年貢米額ノ内ヨリ引去下渡スノ慣例ナリ但品等ニヨリ代米ノ差違其他前條ニ同シ

(四) 代眞綿納ノ事

是ハ慶良間渡名喜樂國伊平屋ノ四島ヨリ相納ルモノニシテ眞綿一把此目方百目ニ付代起米粟共二斗五升ノ割ヲ以テ往古ヨリ納米ニ換納仕來尤慶良間島ハ眞綿五十二把八十四名渡名喜島ハ同九十六名樂國島ハ同百十三把十五名伊平屋島ハ同二百把何モ年々貢米額ノ内ヨリ換納仕來シニ伊平屋島ハ漸々養蠶ノ業相進ム故ヲ以テ中古舊藩ニ於テ換納ノ額ヲ三百把ニ改定セント云フ但往古ノ起原詳ナラス

六 缺補雜穀及砂糖ノ事

是ハ往古ヨリ缺補トシテ米粟粟黍黍稷ノ五品ヲ除キ其餘ノ貢納雜穀ノ内實際官庫ニ收入スル分ハ起二斗五升ニ付現升九升則チ一石ニ付三斗六升ツ、又直納ト唱へ官庫ニ收入セスシテ人民ヨリ直ニ士族祿米ニ渡ス分ハ起二斗五升ニ付現升六升則チ一石ニ付二斗四升ツ、又伊江島ニ限リ官庫納直納トモ渾テ起二斗五升ニ付五升七合則チ一石ニ付二斗二升八合ツ、ノ割合ヲ以テ每俵込石ノ上收納シ追テ舊藏役人ニ於テ藩廳ニ本石精勘定ノ節實地過石ノ分ハ該藏役人ノ所得ト仕來ント云フ

- 一 缺補砂糖ハ渾テ枳目ヲ以テ砂糖ニ換ル分(何斗何升何合ヲ以テ)ハ樽ノ入實ヲ論セス一挺ニ付砂糖五斤ツ、又石代金ヲ砂糖ニ換ル分(金何圓何拾錢ヲ以テ)ハ百斤ニ付五斤ノ割ヲ以テ本糖ト共ニ取立ツ但其結果ハ前條ニ同シ

七 藏役人心付米穀ノ事

是ハ往古ヨリ藏役人心付トシテ米及雜石共渾テ起二斗五升ニ付現枳四升則チ一石ニ付一斗六



升ツ、又宮古島八重山島ニ限り起二斗五升ニ付則チ一石ニ付八升ツ、每俵込石ノ上收納ス但其結果ハ前條缺補ニ同シ

八 俵入ノ事

是ハ米段雜穀ノ内其種類ト地方トニ因テ入實ヲ異ニスルコト左ノ如シ

一 貢米粟粟粳黍黍粳ノ五品ハ一俵入實三斗二升ニシテ内二斗八升ハ本途斗立トモ四升ハ藏役人心付ナリ

一 宮古島八重山島貢米粟ニ限り一俵三斗入ニテ内二斗八升ハ本途斗立トモ九升ハ缺補四升ハ藏役人心付ナリ

一 右雜穀ノ内直納(其事由缺補ノ條ニ記載ス)ノ分ハ入實三斗八升ニシテ内二斗八升ハ本途斗立トモ六升ハ補缺四升ハ藏役人心付ナリ

一 伊江島雜穀ニ限り入實三斗七升七合ニシテ内二斗八升ハ本途斗立五升七合ハ缺補四升ハ藏役人心付ナリ

九 納期ノ事

中頭地方  
島尻地方

米粟黍	九月三十日限	舊曆八月
麥	五月三十一日限	同 四月
大豆、小豆、白藟豆	十二月三十一日限	同 十一月
菜種子	四月三十日限	同 三月

國方地方

米粟黍	十一月三十日限	同 十月
麥	七月三十一日限	同 六月
菜種子	七月三十一日限	同 六月
大豆、小豆、白藟豆	翌年一月三十一日限	同 十二月

右本島中其地方ニ依リ納期ノ異ナル所以ノモノハ地ノ遠近運搬ノ便否土地季候等ニ因テ判定セシト云フ亦此他屬島ノ如キハ更ニ一定ノ期ナシ然ト雖モ其米穀收穫ノ期節ニ至リ順風ヲ待テ貢船ヲ發シ收入スルノ成規ナリ

十 租稅未納處分ノ事

是ハ租稅金穀トモ納期ヲ怠ルアラハ嚴重督促シテ該納期後一箇年ヲ過レハ本稅ニ二割半ノ利子相掛ケ取立ル(假令ハ未納一石ナ)ノ規則ナリ然トモ中古以來納期ヲ怠リ或ハ完納シ能ハスシテ官之ヲ實施セシ等ノコトナシト云フ其故ハ未納者アレハ村吏ニ於テ實際取調ハ全ク本人ノ完納シ難キ分ハ該親類若クハ村中間切等ヨリ辨納スルノ慣行存セリ

而シテ該制度ノ結果如何ト云フニ沖繩縣土地整理紀要ニヨレハ凡ソ次ノ如シ  
大體ヨリ之ヲ云ヘハ土地ハ人民ヲシテ私有セシメサルノ制ヲ取リ從テ之ヲ賣買スルヲ禁シ唯僅ニ開墾地(即チ仕明請地仕明知行地ノ類及拂下地即チ請地拂請地ノ類)ニ對シ私有ノ實ヲ認メ從テ又賣買ノ自由ヲ與ヘタルニ過キス土地ノ大部分タル百姓地ハ村内ノ農民即チ地人ニ對シ人口又ハ貧富等ノ標準ニ依リ之ヲ割賦配當シテ耕作シ收益セシメ四五年乃至三十年ニ於テ更ニ之レカ



割換ヲナサシム所謂地割ナルモノ是ナリ蓋シ此制度ノ根本ノ精神タル農民ヲシテ一人モ土地ヲ耕作セサルモノナク悉ク其堵ニ安ンセシメトスルニ存シ其手段トシテ地割ニ由リ時々適當ナル分配ヲ施スノ必要アルカ爲メニ土地ノ私有ヲ許サ、ルナリ

斯如制度ハ古昔往々行ハレタルモノニシテ其精神ヤ全然排斥スヘカラサルモノアリト雖而モ此制度ニ伴フ弊害ノ著大ナルモノアルヲ奈何セン左ニ最モ著シキ二三ノ事實ヲ掲ケン

一 地割地ハ地方大ニ耗竭セリ 今日自己ノ占有耕作セル土地ハ明日亦自己ノ有タルヲ期スルヲ得ス其土地改良ノ念起ラサルヤ固ヨリ當ニ然ルヘキ所ニシテ又寧ロ過度ノ耕作ヲ施シ地力ノ耗竭ヲ省ミサルモノアルモ亦當ニ咎ムヘキニアラス故ニ一般地割地即チ百姓地方私有地即チ任明地等ニ比シ地味ノ大ニ瘠薄ニシテ地力ノ殆ト耗竭セサルハ之ヲ其間ノ消息ニ徴シ昭々トシテ爭フヘカラス

二 一般生産力ヲ阻害ス既ニ地人タレハ茲ニ土地ノ分配ヲ受ク既ニ土地アリ茲ニ之ヲ耕作シテ租調ノ貢生活ノ料ニ苦ムヲ須ヒス一領ノ蕪稔一盆ノ甘藷ニ安ンスルノ外復他ノ營々タルヲ要セス一杯ノ醇酎ニ陶然トシテ人生ノ至樂トナセルモノ亦故ナカラスヤ貯蓄心ナク起業心ナク唯鋤犁ヲ以テ人生ノ能事畢矣トナスモノ亦故ナカラスヤ生活費ノ低キ一人一日數錢ニ過キス富ノ度ノ高カラサル稱シテ富豪ト云フモ尙ホ其蓄積全部ハ僅ニ千金ニ及ハス是レ皆此制度ニ伴フ弊害ノ現實セルモノニアラスシテ何ソ蓋シ各人均シク土地ノ耕作ニ依リ生活ノ根據ヲ有スルニ依リ又他ノ産業ヲ企ツルヲ要セス況ヤ貯蓄ヲ殊ニ土地ハ所有權ヲ認メラレサルヲ以テ之ヲ轉シテ他ノ資本ニ充ツルヲ得ス墨守苟安進取ノ氣象勤勉ノ徳性兩ラ之ヲ缺キ貯蓄興ラ

ス産業進マサルモノ固ヨリ當ニ然ラサルヲ得サルヘシ  
 次ニ地租ハ之ヲ分テ田租及畑租ノ二種トシ宅地其他ノ土地ハ無稅トシ又定石ニヨリ現物ヲ以テ納メシムルヲ原則トシ唯僅ニ或種ノ土地ニ課シタル定石ニ對シ代納ヲ許スニ過キス而シテ慶長年間檢地ニヨリテ石高ヲ定メ爾後兩度ノ增高ヲ命シ宮古八重山兩島ニ對シ人頭配賦ノ制度ヲ施行シタル外殆ト三百年ヲ經過セルノ今日ニ至ルマテ石高ヲ變更セス又各種ノ土地異動ニ對シ必シモ其石高ヲ修正増減セス從テ課稅物件ノ種類數量ニ於ケル混亂ヲ生シ延テ課稅上其當ヲ失セルモノアルニ至ルヤ明カナリ然レトモ此等ノ點ハ姑ク之ヲ措キ茲ニ制度其モノニ付之ヲ察スルニ左ノ缺點アルヲ見ル

一 地租制度ノ不統一 三郡ヨリ成ル本島ト先島ノ兩島ト有シ其面積百四十餘方里ニ過キサル地方ニシテ一ハ土地ノ品位ニ應シテ租額ヲ決定シ一ハ或一定不動ノ額ヲ以テ租額トシ之ヲ人頭ニ配賦スルノ方法ヲ採レルモノ果シテ如何ナル必要ニ依テ然ル乎數種ノ臆說ハ種種ニ之ヲ説明セントスルト雖一トシテ理由トスルニ足ルモノナシ殊ニ先島ノ地タル其土地ノ狀況ニ於テモ將タ民情風俗ニ於テモ殆ト本島地方ト異ナル所アラス而モ甲乙其制ヲ異ニス稅制ノ根本ニ於テ既ニ統一ヲ缺キタルモノト云ハサルヘカラス

此稅制ノ不統一ハ本島先島間ニ於ケル負擔ノ輕重ヲ來シ大ニ權衡ヲ失スルノ結果ヲ遺スニ至レルモノトス即先島ノ一タル八重山島ハ激烈ナル瘴癘ノ地ニシテ之カ爲メニ人口年々減少シ甚シキハ一村全部滅絶シ唯僅ニ廢屋空墟ノ存スルニ過キササル者アリ而モ負擔總額ハ之カ爲メニ減セス否其分頭ノ額ハ之レニ伴フテ益増加セサルヲ得ス而シテ其一タル宮古島ハ



人口多キニ過キ加フルニ地味礫礫面積狭小ニシテ亦新ニ開發スヘキ餘地ヲ存セス之ニ反シテ本島ハ風土良好地味膏腴ニシテ又新ニ開發スヘキ餘地尠シトセス而モ既ニ三百年來課稅物件ヲ整理セシコトナク從テ之ニ伴フ租額ノ増減ヲナサ、ルヲ以テ其新ニ開發セラレタル土地ハ概ネ無稅ノ特典ヲ享クル者トス然ラハ則チ兩先島ノ一タル八重山島ハ人口減少ノ爲ニ其負擔ヲ倍加シ其一タル宮古島ハ人口過多面積狭少ノ爲メニ當初ノ負擔額以外新ニ無稅ノ特典ヲ享クヘキ土地ナク兩島共ニ本島ニ對シ比較的重キ負擔ヲナサ、ルヲ得サルノ結果ヲ生スルニ至レリ是レ蓋シ偶然ニ過キサルヘシト雖又實ニ制度不統一ノ結果タルヤ疑ナシ

二 納稅主體ハ個人ニアラス 既ニ述ヘタルカ如ク土地ノ大部分ハ各個人ニ對シ所有權ヲ認メラレサルヲ以テ其納稅主體ハ個人タラスシテ間切又ハ村トシ唯仕明地請地等私有ノ實ヲ備ヘタルモノ、ミ個人別ニ納稅セシメタリシカ置縣後ハ凡テ間切内ニ於ケル村ヲ以テ納稅者トナスニ至レリ是レ土地制度ニ伴フ必然ノ結果ニシテ定ニ已ムヲ得サルニ出ツルト雖其實際上納稅義務ハ各個人之ヲ負ヒ又之ヲ果サ、ルヘカラサルニ拘ラス之ニ對シ納稅義務ヲ認メサルハ徵收上ノ不便不利最モ少カラス加之個人別納稅義務ヲ認メサルノ結果ハ事實ニ於テ納稅ノ義務ヲ果シツ、アルニ拘ラス納稅額ヲ條件トスル諸種ノ公權資格ヲ有スル能ハサルノ不都合ヲ來シ均シク帝國ノ臣民ニシテ獨リ沖繩縣民ノミ事實ニ於テ公法上ニ於ケル權利享有ノ資格ヲ褫奪セラレタルニ異ナラサルノ結果ヲ有スト云フヘシ況ヤ又地方制度ノ構成要素タル公民ノ資格ヲ定ムルノ標準ヲ缺キ爲メニ沖繩縣縣政革新ノ根據タル地方制度ノ實施上一大障礙タルヲ免レサルモノアルニ於テヲヤ

三 賦課方法ノ不公平

賦課額決定ノ方法ハ先ツ村位ノ等級ヲ定メ定石納ニ於テハ地位ニ應

シ一段歩當納石高ヲ決定シ人頭配賦稅ニ於テハ身分及年齡ニ依リ一人當納額ヲ決定シタルモノノ如シ蓋シ其方法ヤ善シ而モ其實際決定ノ跡ニ就テ政察スルニ固ヨリ三百年ヲ經過セル今日ヨリ見レハ當時ノ事情ニ大ナル變遷ヲ來セル者アリトハ云ヘ甲乙其村位ノ詮定ヲ顛倒セル者アリ或ハ其石高決定ニ關シテモ地勢平坦地味膏沃交通至便ニシテ古來本縣ノ首位ヲ占メタル那覇首里附近ノ各村落ノ石高ハ地ノ北偶ニ僻在シテ地勢險惡地味瘠薄交通至難ナル山原地方(即チ國頭郡)ニ比シ却テ其下ニ在ルカ如キ或ハ同シク耕地ニシテ百姓地ト仕明地等ノ間ニ大ニ其石盛ヲ異ニスルカ如キ其實際公平ヲ失セルノ跡ニ就キ數ヘ來レハ一々之ヲ舉クルニ遑アラス殊ニ人頭配賦稅ニ在リテハ地役人及其家族ノ多數ハ始ト免租者タルニ反シ一般人民ハ一定ノ年齢ニ達シタルモノハ鯨寡孤獨抱病ノ徒ト雖免租セラル、コトナク又貧富健厄ニ依テ斟酌セラル、事ナシ不公平モ亦甚シカラスヤ況ヤ貢布ノ賦課ニ至リテハ其品質縮柄ニ依リ之レカ成工ニ就キ勞逸輕重ノ甚シク懸隔セル者アリ到底其賦課ノ公正ヲ期スル能ハサルノミナラス其成工ノ容易ナルモノハ之ヲ士族ニ課シ其困難ナル者ハ之ヲ平民ニ課スルカ如キ偏頗ヲ見ルニ於テヤ賦課ノ公平ヲ缺ク玆ニ至テ亦極レリト云フヘシ世人多クハ謂ラク沖繩縣民租稅ノ負擔ハ非常ニ苛重ニシテ聚斂誅求又至ラサル所ナシト其レ然リ或ハ全ク負擔ノ苛重ナルモノナキニアラスト雖全體ヨリ之ヲ見ルトキハ必シモ爾ク即斷スルヲ得サルモノアリ元來沖繩貢納石高ハ略四公六民ノ制ニ依リ決定セラレタルモノナレハ大體ニ於テ之ヲ非常ノ苛重ナリト云フヲ得ス唯彼ノ兩先島ニ於ケル貢布織立ニ從事



セル工女カ破窓暗窓タル矮屋ノ裡ニ専ラ機杼ヲ事トシ終年役々トシテ以テ貢布ヲ完納スルニ惟レ日モ足ラサルカ如キ或ハ本島ニ於ケル二三間切ニ在リテモ殆ト其持地ノ全部ヲ質入シテ貢納ヲ調シ新ニ山野ヲ開墾シテ纒ニ生息ノ途ヲ求メ負債日々ニ増加シ苛稅依然トシテ減セラレス日一日赤貧ニ迫リ年一年困憊ニ陥ルカ如キ是レ皆負擔ノ苛重ナラサルニアラスト雖是レ主トシテ賦課ノ不公平ナル結果ニ出ツルモノタルヲ知ラサルヘカラス

四 物品納及代金納ノ弊害 物品納ハ其運搬納付共ニ煩勞ニシテ殊ニ船載馬輪ノ間漏耗損傷アリ人民ヲシテ勞費ニ堪ヘサラシム於是乎明治十六年ニ至リ概ネ代金納ヲ許可スルニ至レリ然レトモ代金納ニ在リテモ其納租額ハ年々市場ノ相場ノ高低ニ從ヒ其額一定セサルヲ以テ國庫收入ノ一定ヲ期スル能ハサルノミナラス又人民ニ於テモ其相場ノ高低ニ伴ヒ利害相反セサルヲ得ス近時物價ノ趨勢ハ益々騰貴ニ向フヲ以テ從テ沖繩縣民ノ負擔ハ之ニ伴フテ益々增高スルニ至レリ今最近明治三十四年度ヨリ遡及シ明治二十年年度ニ至ル十五箇年間ニ於ケル租額ヲ調査スルニ左ノ如シ

年 度	調 定 額	年 度	調 定 額	年 度	調 定 額
明治二十年年度	二四八、八四六、五八八	明治二十五年年度	三七二、六〇七、四九六	明治三十年年度	四八九、六三五、〇九五
同二十一年年度	二一九、五〇八、九七〇	同二十六年年度	三一四、八五六、五七三	同三十一年年度	五七五、九二一、四八三
同二十二年年度	二七六、六四三、五八七	同二十七年年度	三九二、二八七、六八六	同三十二年年度	四七五、二三五、〇六〇
同二十三年年度	三九四、二八九、七八九	同二十八年年度	四四八、八二二、〇九三	同三十三年年度	五二二、二六六、一七六
同二十四年度	三五二、二二二、三二四	同二十九年年度	四六一、四四〇、二二二	同三十四年度	五五三、三七三、二二八

備考 二十七年年度以前ノ調定額ハ不明ナルニ依リ原石ニ對シ當該年度貢納代金ヲ乘シタ

ル額ヲ掲ケタルモノトス

即チ明治三十四年度ノ租額ヲ以テ明治二十年年度ノ租額ニ比スレハ殆ト二倍二步ニ當リ明治二十一年年度ニ比スレハ亦殆ト二倍五步ニ當ル換言スレハ明治三十四年度ニ於ケル沖繩縣民ノ負擔ハ之ヲ明治二十年年度及二十一年年度ニ對シ實ニ二倍以上ノ多キニ至レルモノト云フヘシ若シ夫レ沖繩縣民ノ負擔カ非常ニ苛重ナリト云フヲ得ヘントセハ是レ一ニ代金納ノ結果ニ出ツルモノニシテ近年物價ノ騰貴ニ伴ヒ其負擔ヲ増加セルニ因ルモノナリト云ハサルヲ得サルノミ

五 徵收方法ノ缺點

徵稅ノ實ヲ牢固ナラシメンカ爲メニ人民ニ對シ諸種ノ制限束縛ヲ加ヘタルモノ少シトセス就中人頭配賦稅ノ下ニ人民ノ移住ヲ禁シ定石納ノ下ニ貢糖皆納以前村內製糖ノ賣却ヲ禁スルカ如キ其不當非理ノ最モ甚シキモノトス殊ニ滞納處分法ハ今日ニ於テハ全ク實用ヲ缺如セルモノニ屬ス

又租稅滞納ノ場合ニ於テハ直ニ當該吏員ヲ捕ヘテ之ヲ責メ各個人ニ對スル處分ハ全然之ヲ放任シテ間切若クハ村ニ於テ其內法ニ依リ財產ノ差押ヲ爲シ之ヲ賣却シ若シ不足スルトキハ親族與、又ハ村間切ニ及ホシテ皆納ヲ圖ラシメ藩廳自身ニ於テハ之レカ爲メニ各個人ニ對シ殆ト手ヲ觸ル所ナシ蓋シ是レ納稅主體ノ個人タラサルニ因ルヘシト雖而モ藩廳射ラ直接ニ滞納者ニ對シ之レカ處分ヲ爲スモ若シ無資力ナル場合ニ於テハ徒ニ藩庫收入ノ減少ヲ來スノ虞アルニ依リ之ヲ間切若クハ村ニ委ネ故ラニ與リ知ラサルノ觀ヲ裝ヒ以テ收入ノ確實ヲ圖ルニ在ルカ如シ此方法タル當時ニ於テハ比較的徵收ノ實效ヲ奏シタル良法タリシヤ亦



知ルヘカラスト雖其吏員ヲ捕ヘテ之ヲ責ムルカ如キハ固ヨリ一種ノ懲戒處分ニ屬シ之ヲ滯納ノ處分ナリト云フヘカラスト將タ之ヲ間切若クハ村ニ委シテ不法ノ處置ニ一任スルカ如キハ共ニ今日ニ於テ到底行ヒ得ヘキ所ニアラス故ニ舊慣ニ依ル滯納處分法ハ全ク今日ニ於テ其實用ヲ失ヒタルモノトス而シテ一方ニ於テ個人ニ對スル土地所有權ヲ認メス從テ個人別納稅義務ヲ認メサル舊慣制度ノ下ニ於テハ直ニ我國稅徵收法ヲ適用スル能ハサルヲ以テ沖繩縣ニ於ケル租稅滯納ノ處分ハ全ク其法ヲ缺如セリト謂フヘシ其最近數年ノ間ニ於テ滯納額ノ年々累加セルモノ亦宜ナラストセンヤ

## 第二目 土地整理

斯ノ如ク沖繩縣ニ於ケル現行地租ハ專ラ舊慣ニ依リ徵收スルモノニシテ其起源遠ク慶長年間ノ檢地ニ在リ享保元文ノ頃本島ノ檢地ヲ行ヒタルコトアリト雖モ其結果ニ依リ課稅スルニ至ラザリシノミナラス土地ノ異動ヲ判明ナラシメタル事蹟ノ見ルヘキモノナク地籍全ク紊亂シ段別ノ如キハ殆ント其實數ヲ知ル能ハス其石碁ノ如キハ地方ニ依テ其見積ヲ異ニシ且ツ時ノ必要ニ依リ漸次之レヲ増加セル事實アリテ負擔漸ク重キヲ加フルニ至リシニモ拘ラス那覇首里兩區內ノ土地ノ如キハ古來全ク租稅ヲ課セス偏重偏輕ノ甚シキ課稅ノ公平ハ之レヲ保維スルヲ得ス時ニ名ヲ地租ニ藉リ其實人頭ニ課稅スルモノアリ要スルニ課稅ノ目的確定ナラス稅率及ヒ稅額算出ノ方法亦タ明瞭ヲ缺ケリ加之納稅ニ金納アリ物品納アリ物品納中雜穀納アリ砂糖納アリ反布納アリ眞綿納アリ徵稅上頗ル煩細ニ堪ヘス滯納者ニ對スル處分亦苛酷ニ失スルモノ尠カラズ抑モ

置縣以來仍ホ此ノ如キ舊慣ヲ存續セシメタル所以ノモノハ當時ノ事情已ムヲ得サルニ出テタリト雖モ現今ニ於テハ該縣ノ狀況復昔日ノ比ニアラス地租ノ改正ヲ爲シテ負擔ノ公平ヲ謀ルハ今正ニ其時機ニ達シタルノミナラス沖繩縣ノ諸制度ヲ改善シテ漸次內地一般ノ制度ニ歸セシムルニハ地租ノ改正ヲ行フヲ以テ第一要義トス依テ其土地ヲ整理シ所有區分ヲ明確ナラシメ之ト同時ニ地租條例ヲ施行シ舊慣ニ依ル土地ニ關スル國稅ハ斷然之ヲ廢止スルヲ必要トス此ニ於テカ明治三十二年三月法律第五十九號沖繩縣土地整理法ノ發布ヲ見ルニ至レリ其法文左ノ如シ

### 沖繩縣土地整理法

第一條 沖繩縣ニ於ケル土地ハ此ノ法律ニ定ムル所ニ依テ之ヲ整理ス

第二條 村ノ百姓地、地頭地、オニカ地、ノロクモイ地、上納田、キナワ、畑ニシテ其村ニ於テ地割セル土地ハ地割ニ依リ其配當ヲ受ケタル者又ハ其權利承繼シタル者ノ所有トス但シ其配當ヲ受クヘキ者多數ノ協議ニ依リ此ノ法律施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ地割換ヲ爲スコトヲ得

村カ浮掛又ハ叶掛ヲ受ケテ之ヲ地割シタル土地ニシテ第六條第一項但書ニ依リ村ノ所有トナルヘキモノ及間切ノ仕明地ヲ間切內各村ニ分配地割シ又ハ村ノ仕明地ヲ其ノ村ニ於テ地割シタル土地ニ付テモ亦前項ニ同シ

第三條 地割配當ノ統竝ノ爲現ニ叶米若クハ之ニ代ハルヘキ報償ヲ受クヘキ者ニハ其叶米若クハ之ニ代ハルヘキ報償ヲ負擔スヘキ者ヨリ相當ノ土地ヲ交付シ又ハ代償ヲ爲スコトヲ要ス

村カ浮掛又ハ叶掛ヲ受ケテ之ヲ地割シタル土地ニシテ村ノ所有トナラサルモノ、配當ヲ受



ケタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ニハ其ノ村持地ノ配當ヲ受ケタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ヨリ相當ノ土地ヲ交付シ又ハ代償ヲ爲スコトヲ要ス

第四條 村ノ百姓地地頭地、オエカ地、ノロクモイ地ヲ其ノ村ニ於テ屋敷地トシテ配當シタルモノハ其配當ヲ受ケタルモノ又ハ其權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

村カ浮掛又ハ叶掛ヲ受ケテ之ヲ屋敷地トシ配當シタル土地ニシテ第六條第一項但書ニ依リ村ノ所有トナルヘキモノニ付テモ亦前項ニ同シ

第五條 屋敷地配當ノ統竝ノ爲現ニ叶米若クハ之ニ代ハルヘキ報償ヲ受クル者及村カ浮掛又ハ叶掛ヲ受ケテ之ヲ屋敷地トシテ配當シタル土地ニシテ村ノ所有トナラサルモノ、配當ヲ受ケタル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ニ付テハ第三條ノ例ニ依ル

第六條 村ノ百姓地地頭地、オエカ地、ノロクモイ地、キナワ畑ニシテ村又ハ與ヨリ浮掛又ハ叶掛ヲ爲シタルモノハ其ノ浮掛又ハ叶掛ヲ爲シタル村又ハ與ニ於ケル地割ノ配當ヲ受クヘキ者ノ共有トス但シ叶米若クハ之ニ代ハルヘキ報償不納ノ場合ノ外取戻スコトヲ得サル浮掛又ハ叶掛ノ土地ハ村又ハ與ヨリ浮掛又ハ叶掛ヲ受ケテ占有ヲ得タル者又ハ其權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

前項ニ依リ共有トナルヘキ土地ニ付此ノ法律施行前ニ成立セル浮掛又ハ叶掛ノ關係ハ此ノ法律施行後ニ於テモ仍存續ス

第一項ニ於ケル共有者ノ持分ハ第二條ニ於ケル地割ノ率ニ依ル

第一項但書ニ依リ所有ヲ得タル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ浮掛又ハ叶掛ヲ爲シタル村又ハ

與ニ對シ報償ヲ爲シ且第二十三條ニ依リ地租ヲ徵收セラル、迄從前ノ叶米又ハ之ニ代ハルヘキ報償ヲ浮掛又ハ叶掛ヲ爲シタル村又ハ與ニ交付スルコトヲ要ス

第七條 藩制ノトキ地頭ノ自作シ若クハ拾掛ヲ爲シタル地頭地ニシテ村持トナラサルモノハ其自作者共ニ拾掛ニ依リ占有ヲ得タル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

第八條 藩制ノトキ地頭ノ質入シタル地頭地ニシテ村持トナラサルモノハ質取主又ハ其權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

前項ニ依リ所有ヲ得タル者ハ質入主ニ對シ其ノ債權ヲ主張スルコトヲ得サルモノトス

第九條 ノロクモイ地ニシテ村持トナラサルモノハノロクモイトシテ占有ヲ得タル者又ハ其ノ權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

第十條 墓地及ヒ其附屬地ハ朱引等ヲ有スヘキ者ノ所有トス

第十一條 仕明請地仕明知行地請地、拂請地、拜領地及那覇、首里兩區内ノ屋敷地ハ手形、差出等ヲ有スヘキ者ノ所有トス

第十二條 埋立地及濱山野ニシテ此ノ法律施行前埋立又ハ開墾ノ成功シタルモノハ其埋立又ハ開墾ヲ爲シタル者又ハ其權利ヲ承繼シタルモノ、所有トス

第十三條 間切山野、村山野、浮得地保管地、馬場、牧場及間切役場ノ敷地等ハ其區區ノ字、間切、村又ハ其權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

第十四條 村持地ニシテ村ヨリ讓渡シタル事實アルモノハ讓受人又ハ其權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス



第十五條 期限ヲ定メスシテ開墾ヲ許可シタル柚山ハ第十八條ノ規定ニ拘ハラズ其ノ許可ヲ受ケタル者又ハ其權利ヲ承繼シタル者ノ所有トス

第十六條 永久ニ交換シタル土地ハ其引渡シタル土地ノ名義ニ於テ前各條ヲ適用ス

第十七條 前各條ニ該當セサル土地ニシテ民有ト認ムヘキ事實アルモノハ第二條以下ノ規定ニ準シ處分ス

第十八條 柚山川床堤防敷道路敷及其ノ餘地其ノ他民有ト認ムヘキ事實ナキモノハ總テ官有トス

柚山ノ保護管理ニ關シテハ勅令ヲ以テ規定スルモノノ外從來ノ慣行ニ依ル

第十九條 此ノ法律ニ依リ協議シタル事項ハ當該官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條 此ノ法律ニ依リ民有トナリタル土地ハ便宜區劃シテ地盤ヲ丈量シ每郡其品位等級ヲ認定シ所得ヲ審査シ其ノ土地ノ情況ニ應シテ地價ヲ定ム

第二十一條 土地整理ニ關スル處分ニ付不服アル者ハ處分ヲ受ケタル後九十日以内ニ當該官廳ニ申立ツルコトヲ得但シ第十九條ノ場合ハ此ノ限りニ在ラス

第二十二條 前條ノ申立ニ對スル處分ニ付不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第二十三條 地租條例及國稅徵收法ハ勅令ヲ於テ期日ヲ定メ漸次沖繩縣ニ施行ス但シ社寺地拜所ハ地租ヲ免除ス

第二十四條 沖繩縣ニ於ケル地租ノ納期ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 此ノ法律ノ施行ニ關シテハ伊豆島伊平屋島粟國島渡名喜島鳥島ハ間切ニ準シ與

那國島ハ村ニ準ス

附則

第二十六條 沖繩縣ニ於テ土地ニ關シ舊慣ニ據リ徵收スル國稅ハ第二十三條ニ依リ地租ヲ徵收スル年ヨリ之ヲ廢止ス

第二十七條 此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

右法律ノ實施ニヨル土地整理ノ事業ハ明治三十二年四月ニ始マリ明治三十六年十月ヲ以テ完成セリ而シテ之カ頗末ニ至テハ臨時沖繩縣土地整理事務局ニ於テ編製シタル沖繩縣土地整理紀要ニ詳カナルカ故ニ以下之ヲ掲上スヘシ

本法規定スル所ハ土地所有權ノ處分及所有ノ確定シタル民有地ニ對シ地價ヲ査定シテ地租條例及國稅徵收法ヲ布キ同時ニ舊慣ニ依レル國稅ノ徵收ヲ廢止スルノ二項ニ外ナラス故ニ斯業ニ於ケル業務ノ綱目ハ大別シテ土地所有權ノ處分及地價査定ノ二トス然ルニ土地所有權ノ確認ニ付テハ土地ノ所在分界ヲ明ニスルヲ要シ將タ地價ノ査定ニ關シテハ先ツ其面積ノ測定ヲ要スルヲ以テ土地測量ノ業務ハ乃チ之ニ加ハラサルヲ得ス茲ニ業務ノ綱目ハ

一 土地所有權ノ處分

二 土地測量

三 地價査定

ノ三項ト爲ル以下各業務ニ關シ其概要ヲ記述セン

第一 土地所有權ノ處分



一 土地所有權處分ノ方法

土地ノ所有權ハ沖繩縣土地整理法ニ於テ大體土地ノ種目ヲ網羅列記シテ一々之ヲ指定シ唯僅ニ特種變例ニ屬スルモノニ對シ法條列記ノ土地ニ準シ處分スヘキコトヲ規定セルニ過キサレハ土地所有權ハ單ニ土地ノ種目ニ從ヒ法條ノ適用ヲ以テ自ラ決定セラルヘク事甚タ簡單ナルカ如シ然ルニ本縣ノ土地ハ其種類名稱甚々雜駁ニシテ其性質亦甚々區々ニ涉リ同一種類ノモノ亦多少其性質ヲ異ニシ同一名稱ノモノ亦必シモ其性質ヲ一ニセス爲メニ實際ニ於テハ錯雜混淆シテ甚々甄別ニ苦シムモノアリ殊ニ民度未タ高カラサル本縣々民ニ對シ能ク法律ノ意義ニ通曉シテ權利ノ歸著スル所ヲ知リ自ラ進ンテ處分ノ申請ヲ爲サンコトヲ望ムハ寧ロ難事ニ屬スルモノト云ハサルヘカラス於是乎土地所有權處分ノ方法ノ大ニ鄭重ヲ要スヘキヲ知ル

夫レ土地所有權ノ獲得ハ古來地制度ノ下ニ於テ單ニ土地ノ耕作收益ヲ爲スニ過キサリシ本縣縣民ニ取リテハ實ニ千載ノ一遇ニシテ其利害ノ繫ル所甚々輕カラサルモノアリサレハ沖繩縣土地整理法ノ發布セラル、ヤ浮説巷路ニ行ハレ動モスレハ之ニ蓋惑セラレントシ願ミテ之ヲ法條ノ規定ニ釋スルコトナク惶々トシテ安ンセサルモノアリ奸黠ノ徒或ハ乘シテ利ヲ其間ニ漁セントスルノ傾向ナシトセス於是乎益處分方法ノ鄭重ヲ要スヘキニ至リ遂ニ左ノ方法ヲ採定セリ

(一) 土地整理法ノ説明

土地整理法各條ノ説明書ヲ製シテ之ヲ配布シ尙ホ局員ヲ各間切及村ニ派遣シテ之レカ説明ニ從ハシメ以テ法文ノ周知ト意義ノ通曉トヲ圖リタリ

(二) 所有權處分ノ指示

土地ノ種類性質占有ノ慣例等ヲ調査シテ其所有權ノ歸スル所ヲ決定シ其新奇例ニ屬スルモノハ每件局議ヲ決シ局員ヲシテ各村ニ就カシメ此ノ決定ニ基キテ一々其所有權ヲ指示シ説明示諭ニ依リ了得シテ異議ナキニ至ラシメ特ニ處分令ヲ發スルコトナク以テ處分ノ結了トス若シ其指示ニ服セスシテ異議ヲ唱フルモノアルトキハ茲ニ始メテ本局ニ向ツテ處分ノ申請ヲナサシメ之ヲ處分スルコト、セリ

(三) 地割換ノ勸誘

法律ノ規定ハ大體ニ於テ土地ノ占有者ニ對シ其所有權ヲ認ムルノ旨意ニ出ツ而シテ本縣土地ノ大部分タル百姓地ハ地割ニ依リ各自之ヲ占有ス然ルニ地割ハ既ニ數年若クハ十數年前ニ之ヲ行ヒタルモノアリテ漸次其所持ノ割合權衡ヲ失スルニ至レルモノアリ若クハ既ニ地割ノ配當ヲ受クヘキ資格ニ達セルモノニシテ之レカ配當ヲ受ケサルモノアリ或ハ其地割ノ方法公平ヲ缺ケルモノナシトセス然ルニ現在占有ノ狀態ニ依リ其所有權ヲ確定センカ途ニ所有ノ公平ヲ保ツ能ハサルヲ以テ沖繩縣土地整理法ニ於テモ一年以內ニ於テハ他人ノ協議ニ依リ地割換ヲナスヲ得ヘキコトヲ規定セリ故ニ此際大ニ勸誘シテ地割換ヲ爲サシメ及其地割方法ノ正否ヲ監督シテ可成一般ニ土地ノ所有ヲ得セシメ及所有ノ公平ヲ保タシメンコトヲ期シタリ

以上ヲ土地所有權處分方法ノ大綱トス要スルニ處分ノ形式ニ重キヲ措カスシテ一々指示誘導シ以テ了得異議ナキニ至ラシムルノ方法ヲ採リタルモノ一ニ本縣ノ事情ト當時ノ機宜ニ照シ已ムヲ得サルニ出テタルモノトス

耕地整理法ノ發布セラル、ヤ恰モ地割換ヲ爲スノ時ニ際セルヲ以テ同法ノ趣旨ニ依リ可成一筆



地ノ面積ヲ廣カラシメンコトヲ勸誘シ農業經濟ノ思想ヲ喚起センコトニ努メタリ

二 土地所有權處分ノ結末

處分ノ方法前項ノ如クナルヲ以テ圓滑平和ノ間ニ大體ノ終結ヲ見ルニ至リ結局指示ニ服セス本局ニ向ツテ處分申請書ヲ提出セルモノハ甚タ僅少ナリトス其處分ヲ申請セルモノモ亦多クハ說諭ニ依リ了得スルニ至リ遂ニ申請書ノ却下ヲ求ムルモノ亦少カラス而シテ處分ノ申請ヲナセルモノ、中純然タル私訴ニ屬スルモノ亦少シトセス處分申請ノ件數ヲ表示セハ左ノ如シ

土地所有權處分申請件數			
件數	私訴ニ屬スルニヨリ却下シタル件數	說諭ニ服シ却下ヲ申請シタル件數	處分件數
二八	一五	九	四

而シテ其私訴ニ屬スルニ依リ却下シタル事件ハ勿論其本局ニ申請スルニ至ラザリシ私訴ニ屬スル争ニ付テモ可成之ヲ説明示諭シテ調停和解セシムルノ方法ヲ執リ濫訴健訟ヲ避ケシムルニ励メタリ偶、訴訟ヲ提起スルモノアルモ裁判所多クハ處分ニ從事シタル局員ノ證言ニ聽キ又本局技手ノ測量技術上ノ鑑定ニ俟ツモノ多キカ故ニ其判決自ラ當初ノ指示ニ異ナラサルモノ少カラス爲メニ遂ニ其純然タル私訴ニ屬スルモノモ概ネ本局ノ處置ニ依頼スルニ至リタリ

土地所有權處分ノ狀況以上ノ如クナルヲ以テ沖繩縣土地整理法第二十一條ニ於ケル不服ノ申立及同第二十二條ニ於ケル訴願ハ一トシテ提起シタルモノナク遂ニ事實ニ於テ該法文ノ效用ヲ爲

サ、ルニ了リタルハ眞ニ斯業ノ爲メニ賀スヘキ所ナリト云ハサルヘカラス

一般ニ對シテ土地ノ所有ヲ得セシメ及所有ノ公平ヲ保タンカ爲メ此際可成地割替ヲ爲スヘキコトヲ勸告シタルノ結果其近年ニ於テ地割ヲ爲シタルモノ及地割ノ方法公平ニシテ所持ノ割合比較的當ヲ得タルモノヲ除クノ外大抵之レヲ遂行セシメタリ地割行否ノ村數ヲ比較スルニ左ノ如シ

地割村數表

郡名	地割替ヲ行ヒタル村	地割替ヲ行ハサル村	計
島尻郡	九〇	一一三	二〇三
中頭郡	九一	六五	一五六
國頭郡	一〇九	二六	一三五
宮古郡	〇	三八	三八
八重山郡	一	三一	三二
計	二九一	二七二	五六三

夫レ斯ノ如ク百姓地ハ地割ニ依リ一般地人地人トハ其村在來ノ住民ヲ云フ之レカ所有ノ權利ヲ得亦殆ト漏レタルモノナシ而シテ居住人多クハ耕作ノ爲メ村ニ移住シタルモノニシテ之ヲ寄留人トモ云フ亦多クハ其淨掛地ニ對シ沖繩縣土地整理法第六條第一項但書ニ依リ所有權ヲ得ルニ至リタルヲ以テ本縣民ハ那覇及首里ニ於ケル或一部小數ノモノヲ除ク外殆ト土地ヲ所有セサル



モノナク即チ縣民悉ク恒産ヲ有スルニ至レリ是レ實ニ社會上最モ好適ナル狀況ニシテ自由經濟組織ノ今日容易ニ之ヲ見ルヲ得サルノ事例ニ屬ス故ニ尙モ他ノ産業ノ發達セサル限リ此好適ナル狀況ヲ持續センコトヲ圖ルハ思フニ本縣將來ニ於ケル施政上ノ一大方策タルヘシ

三 土地所有權確定後土地ニ對スル觀念ノ發達

夫レ舊慣土地制度ノ下ニ於テ地割ノ方法ニ依リ土地ノ配當ヲ受ケ或一定ノ期間之ヲ占有シテ耕作使用シ僅ニ收益スルニ過キサリシ狀態ニ於テハ寧ロ地方耗竭ヲ顧ミサルモノアルモ之レカ改良ヲ圖ルヲ望ムヘカラサルヤ當然ノ事理ト謂フヘク其土地ニ對スル觀念ノ甚タ薄弱ナルハ亦毫モ怪シムヘキニアラス沖繩縣土地整理法發布セラレ土地所有權ノ確認セラレシ以來既ニ殆ト四年ノ星霜ヲ經過シタリ而シテ土地所有權ノ獲得ハ本縣縣民ニ取リテハ實ニ空前ノ事例ニシテ茲ニ始メテ自己ノ所有トシ永久ノ占有ヲ爲シ得ルニ至リタルカ故ニ其僅々三四年ニ過キササル短日月ノ間ニ於テ土地ニ對スル觀念ノ著シク發達セルモノアルヲ見ル蓋シ是レ亦當然ノ事理ト云フヘキナリ

回顧スレハ土地所有權確認當時ニ於ケル一般耕地ノ狀況ハ實ニ見ルニ足ラサリシモノアリシナリ即チ耕耨ニ力メサルカ爲メニ墾畝ハ徒ラニ雜草ノ蔓蕪ニ委シテ更ニ作毛ト區別スヘカラサルモノアリ溝洫ヲ修メサルヲ以テ阡陌ハ空シク浸水ノ蕩壞ニ任セテ殆ト墊沃ノ地ニ變スルモノアリ若シ夫レ鋤犁ヲ加ヘテ作土ノ醜類ヲ施シ肥料ヲ投シテ地力ノ増進ヲ圖ルカ如キハ殆ト稀有ノ例ニ屬ス況ヤ溝渠ヲ穿テ排水ノ道ヲ通シ畝道ヲ作りテ運搬ノ便ヲ開クカ如キヤ又泥ヤ石骨岩塊ヲ鑿出シテ地盤ノ改良ヲ企ツルヲヤ然ルニ一旦土地所有權ノ確定セラル、ヤ堤塘ヲ修メテ水

害ニ備ヘ岩石ヲ鑿出シテ地盤ヲ整ヘ溝渠畝道ヲ開キテ排水運搬ノ法ヲ立テ雜草ヲ芟除シ肥料ヲ施シテ地力ノ増進ヲ圖ル等畦畦經界劃然トシテ整備シ又荒蕪ノ舊觀ヲ留メス試ミニ所有權確定ノ當時ニ於テ地位ノ等級ヲ查案シタル土地ニ就キ今日ニ於ケル現狀ニ依リ更ニ其等級ヲ查案セシ乎蓋シ數等ノ上位ニ置カサルヘカラサルモノ多カルヘク猶ホ且甚シキハ其地盤ノ大半石骨岩塊ヲ布キ到底最下等ニ位セサルヲ得サリシモノ今日ニ於テハ最上位ノ土地ト區別スル能ハサルニ至レルモノアリ是レ皆土地改良ノ盛ニ行ハレタル明徴ニシテ農民ノ土地ニ對スル觀念ノ著シク發達セル事實ヲ證スルニ餘リアリト云フヘシ

土地ニ達スル觀念ノ發達ハ管ニ土地ノ改良ヲ圖ルニ止マラス自ラ勤勉貯蓄ノ徳性ヲ涵成ス蓋シ土地ノ改良ヲ圖ランニハ先ツ勞力ヲ要セサルヘカラス即チ茲ニ勤勉心ハ養成セラレ次テ其益、土地ヲ愛重スルノ結果肥料ヲ加ヘテ地力ノ増進ヲ企ツルニ至リ茲ニ資本ノ觀念發達シ勢ヒ貯蓄ノ必要ヲ促進スヘケレハナリ宜ナル哉昨明治三十五年季ニ於ケル製糖產額カ俄カニ三割以上ノ増加ヲ示スニ至リタルモノ是レ氣候ノ順適ナリシニ因ルモノアリト雖モ主トシテ土地ノ改良肥料ノ投施及耕耘精勵ノ結果ニ歸セスンハアラス思フニ本縣農產額ノ倍加スルヲ見ルニ至ルハ蓋シ數年ヲ待タサルヘシ噫是レ土地所有權ノ確認セラレタル直接ノ效果ニシテ又斯業遂行ニ關シ實現セラレタル事實ノ著大ナルモノトス

第二 土地測量

土地測量ハ一筆地ノ形狀面積ヲ測定シ各筆相互ノ關係位置ヲ圖示スルヲ目的トシ之ヲ別チテ平面測量及高低測量ノ二トス而シテ本局ニ於ケル土地測量ノ目的ハ平面積ノ測定ニ在ルヲ以テ專



ラ平面測量ヲ施行シテ高低測量ニ及ハス

一 土地測量ノ順序方法

土地測量ノ順序方法ハ本局土地測量規程ニ於テ之ヲ定メ同規程及解説書ハ變キニ別冊トシテ之ヲ發刊シタリ故ニ其詳細ハ之ヲ同書ニ讓リ茲ニハ其概要ヲ記述スルニ止メントス

夫レ土地ノ小區劃タル各筆地ハ廣袤形狀盡一ナラスシテ地面ハ起伏及種々ノ障礙物ヲ有スルヲ常トシテ之ヲ測量スルニ各筆概ネ多少ノ差違ヲ包含スルコトアルヲ免レス是レ測量作業上避クヘカラサル所ニシテ公差ヲ規定シテ一定ノ程度以內ニ於ケル差違ハ之ヲ容認スルノ已ムヲ得サル所以ナリトス而シテ數百千筆ヲ輯合シテ一字乃至一村ニ對シ其關係位置ヲ圖示セントスルトキハ毫釐ノ差違モ累重シテ多大トナリ相互ノ間ニ重複若シクハ空隙ヲ生シ整然吻合セスシテ遂ニ拾收スヘカラサルニ至ルヲ以テ豫メ一定ノ準據ヲ設ケ各其範圍ヲ超脱セサラシムルヲ要ス故ニ測量技術上ニ於テ先ツ其測量スヘキ土地ノ全區域ニ亘リ共通ノ基準點ヲ設定シテ準據トナシ然ル後之ニ據リテ其土地ノ細小ナル部分ヲ測定スルノ順序ニ依ルヲ通則トス本局ニ於テ施行セラル土地測量モ亦此通則ニ依リテ其順序ヲ定メ土地測量規程ニ於テ左ノ如ク之ヲ規定セリ

第一條 土地測量ハ圖根測量碎部測量及製圖ノ三作業ニ分チテ之ヲ施行ス

圖根測量ハ主要ナル地點ヲ測量シ碎部測量ノ基準點ヲ設定スルモノトス

碎部測量ハ前項ノ基準點ニ依リ一筆地ノ位置形狀ヲ測量シ圖面ヲ調製シ及面積ヲ算定スルモノトス

製圖ハ前項ノ一筆地圖面ニ依リ字圖、村圖、區圖等ヲ調製スルモノトス

要スルニ土地測量ノ順序ハ全區域共通ノ基準點若干ヲ設定スヘキ圖根測量ヲ第一著ニ施行シ次に土地ノ小區劃タル字及ヒ字內ニ存スル一筆地ノ位置形狀ヲ測量シテ圖面ヲ製シ面積ヲ定ムヘキ碎部測量ヲ施行シ終リニ碎部測量ニ依リテ得タル實測圖ヲ輯合シテ字圖、村圖、區圖等ヲ調製スル製圖作業ニ及ホスモノトス即チ測量ノ作業ハ(甲)圖根測量(乙)碎部測量(丙)製圖作業ノ三トス其方法ノ概要左ノ如シ

(甲) 圖根測量

圖根測量ハ三角測量法ニ依ル三角測量法トハ地上ニ設ケタル諸點ヲ連結シテ三角形ヲ成サシメ純正數學上三角法ノ規約ニ依リ相互ノ關係位置ヲ測定スルモノニシテ數學上三角法ニ平面、球面等ノ別アルカ如ク三角測量法ニ於テモ亦地球ノ表面、球面、次球面トナス故ニ三角測量法中高尙ナルモノニ在テハ技術者及器械ヲ精選シ許多ノ費用ト時日トヲ要ス然レトモ本局ニ於テハ斯業ノ目的ニ副フノ程度ニ於テ最モ簡易ナル平面三角法ニ基ク三角測量法ヲ採用セリ

圖根測量ハ一等圖根測量、二等圖根測量ノ二作業ニ分チテ施行ス一等圖根測量ハ土地ノ面積約二十方里ヲ一區域トナシ區域內及其附近ノ主要ナル位置ニ一等圖根點ヲ配置シ基線及子午線ヲ測定シ順次ニ方向角測量ヲ施行シ計算ニ依リ其點ノ位置ヲ決定シ二等圖根測量ハ土地ノ面積約四方里ヲ一區域トシテ區域內及其附近ニ在ル一等圖根點間ニ二等圖根點ヲ配置シ一等圖根點ニ基準シテ方向角測量ヲ施行シ計算ニ依リ其點ノ位置ヲ決定スルモノトス其一等圖根測量、二等圖根測量ノ區別ヲ設ケタルハ先ツ土地ノ大體ヲ總括シ更ニ之ヲ區分スルモノニシテ圖根測量ト碎部測量トヲ區別シタルト同一理ニ基クモノナリ